

三井文庫史料叢書

深井孫七郎 「大坂店勤番日記」

その一とその二（天明六・七年の大坂両替店）

三井文庫 発行

深井孫七郎「大坂店勤番日記」その一

—天明六・七年の大坂両替店—

「大坂店勤番日記」は、三井大坂両替店に勤番として派遣された京西両替店の重役手代、深井孫七郎の手になる日記であり、大坂両替店に残されていたものである。深井孫七郎の在坂期間は天明六年（一七八六）二月七日から同八年（一七八八）七月三日のその死に至るまでであるが、残存する勤番日記は、着任した当日から翌七年二月六日までの一年分のみで、それも途中八月から一〇月の間の分を欠いている。

この「大坂店勤番日記」の欠除した分である天明六年八月から一〇月にかけては、恰度権勢を誇った老中田沼意次の罷免、失脚に至った時期であるが、たまたま天明五年十二月に出された大坂御用金と、六年七月の全国にかけられた融通金が田沼失脚の直接の引金になったといわれている⁽¹⁾。「勤番日記」は、欠除した部分を境にして大坂両替店が田沼末期の政策にふり回される前半と、失脚後の後半に分けられるとでもいえそうである。しかし全体的にみれば天明期の幕府や諸藩との交際、諸商人、町との関わりが

日常的にとらえられているのみならず、安永持分け期間中の越後屋（大坂本店）との交流関係、他に献立、祭や行事への参加といった、上級手代の生活の一端をも窺い知ることができて興味深い。

また、日々の営業に関する記録という点では、別は大坂両替店自身作成した「日記録」⁽²⁾があるので、両者をつき合わせてみれば、欠本部分に限らず、内容を相補い合い、より豊かなものにすることができよう。両者には共通の記事が結構多い。深井孫七郎が店を離れている期間の事柄、逆に店の方で書き漏した事柄を互いに補填し合っている節もまま見受けられる。両者とも大坂両替店にとって一番重要な幕府御用に関する記事が多いのはもちろんであるが、対諸藩の御用関係の記事も多く、特に三井家とは因縁の深い笠間藩牧野家（老中）関係の記事が目につく。

筆記者の深井孫七郎は、初め堀孫七といひ寛保二年に京糸店へ初出勤したが、延享四年（一七四七）六月に京西両替店へ勤務替えし、宝暦一〇年（一七六〇）二月組頭となった。翌宝暦一一年春

深井家に養子に入った。深井家は、糸店出身の深井幸右衛門を初代とし、二代深井助九郎は京両替店の元_レ役までいった家督の家である。孫七郎は深井家三代目として名がある。⁽³⁾この勤番日記の書き始め頃は元方掛名代であったが、在坂中の天明六年八月一日付をもつて加判名代役に昇格した。京両替店の中では、元_レ役丸山弥兵衛に次ぐ地位である。屋敷方としては大坂城代阿部能登守(武州忍藩)と土岐美濃守(沼田藩)の二家の御用を担当していた。この京両替店の重手代であった深井孫七郎が、大坂両替店勤番となったことについては、次のようないきさつがある。

天明五年(一七八五)十一月、大坂店の重役(勘定名代)であった中井嘉平次が急死し、経営に携わる重役陣が元方掛名代の井口孫兵衛と後見役の山の中半兵衛の二人だけになってしまった。この大坂店上部の手薄な状況を見た三井家の長老三井宗巴(中立売家)現伊皿子家三代高登)が、京都店の重役を一人「引越勤め」⁽⁴⁾させるようもちかけたのである。京両替店には元_レ役丸山弥兵衛を筆頭に、深井孫七郎、藤田助右衛門(勘定名代)、五十川清太郎(名代)、西田新四郎(後見)ほかに支配役の寺井頼兵衛と揃っていたが、結局のところ、深井、藤田、五十川、西田の四重役の間で半季交代の勤番制をとるということに落ちついたのである。その一番手が深井孫七郎であった。勤番料は半季分で金六兩、宿は堂島一丁目の大坂両替店抱屋敷内であった。

彼地店(＝大坂店)、近來不勘定之儀、時節トは乍申、全体取

組筋之仕方万端巨細ニ不行届様ニ相見得、此義第一取直シ申事
肝要ニ候、其外取_レり方風義相直シ、儉約等随分相立候様万事
氣ヲ入、立直シ候様ニ取計可被申候

右は、天明六年正月付で三井三郎助の名で四重役に宛てられた勤番料の申渡書の前書の部分である。大坂両替店は、加賀藩への貸付金返済滞りを機に、右の引用史料にもみられるごとく慢然とした赤字経営が続き、天明期は最も落ち込んでいる時期であった。要は深刻な経営立直しが必要になっていたのである。

深井は大坂へ着くと早速抱屋敷の検分をはじめ、店使用人や出入、退役した者に至るまでの塞り銀を調べるなど、店の取締にも取り組んでいる。また營業に關わる金や銭・米(肥後米、五月から筑前米に変る)、のちには為替打銀の相場も日々欠かさずつけている。これらの相場は、店の「日記録」にはつけられていなかったのであるが、天明七年から「勤番日記」と同じ様につけ始められるようになった。これも深井の指導によるものと思われる。

大坂両替店は、御金藏銀の下貸付や、蔵米を引当とする屋敷貸、家質貸、質物質、河内の新田経営等々、多用な營業科目を抱えている。これらの業務に付随する様々の実務、例えば、幕府や貸付相手との交渉、証文、帳簿の作成、京都、江戸店との連絡その他に携わる奉公人はどれ程いたであろうか。

深井が赴任してきた当時は、先にあげた元方掛名代井口孫兵衛、後見の山の中半兵衛の下に、杉本久次郎、岡田喜三郎という支配

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

役が二人、組頭に竹内文次郎がいて、役付だけだと五名おり、その下は平手代が九ないし一〇名程、子供が五名程いる。ほかに雇働の岡田彦次郎(7)のような者もいるが、全体人手不足であったようである。天明六年二月に杉本久次郎が通勤支配、竹内文次郎が支配役となつて、二人で御用方を勤めることになるけれども、井口孫兵衛もすでに身体をそこねており(天明六年九月死亡)、中井嘉平次の死去後、京都店から重役を迎えるに至つたことは万止むを得ないことであつた。

そもそも両替店グループ(Ⅱ両替店一巻)では呉服店グループ(Ⅱ本店一巻)のように、京都店から重役を江戸・大坂勤番として派遣することをしていない。少なくとも天明に入つたこの時期まで制度としてあつたという記録は見当らない。呉服店が江戸・大坂の営業、人事を京都において一本に統轄するという機構であるのに対し、両替店は三都の各店舗がそれぞれの経営基盤をもつて、独自の利益収取を図る、という営業形態であつたからであるうか。

ここで、この「勤番日記」の前半部分に出てくる二つの御用金について少し触れておこう。

天明五年十二月十三日、大坂市中の富家に融通貸付のための幕府御用金が賦課された。越後屋大坂本店は、三井八郎右衛門の名前で金七万両という大金を課せられ、少しでも低い金額に抑えようとその対策に苦慮し、裏にまわつて紀州家の援助を願ひ出た。

一方、両替店は本店からの依頼によつて京都店の支配役(天明六年二月通勤支配となる)寺井瀬兵衛を、八郎右衛門の使いとして、大坂町奉行佐野備後守家老森繁平との交渉に当らせている。両替店側は初めこそ傍觀者的立場で、状況をみていたが、翌天明六年一月十九日に森繁平から呼び出しがあり、三井次郎右衛門にも御用金が課されることになつた。もつとも、これは表向きのこととで、内密は上田三郎左衛門ともども御為替御用を引き受けているとの理由で、御用金上納を免除されるであらうということであつた。両替店では万が一に備え、免除の願書を提出する。深井孫七郎が勤番として着任した直後から出てくる御用金関係の記事は、右のような大坂両替店の立場によつて記述されている。

もう一つの御用金というのは、七月五日に江戸両替店から緊急に入つた情報である。すなわち日本全国の寺社、山伏、百姓、町人に五か年継続して賦課された大規模な御用金で、大坂に設置する会所において大名への貸付を行なうというものである。この御用金の徴収に江戸・大坂の三井組および上田組が指定されることになつた。御用金取扱になつたことについて、江戸店は京都店に宛て世間の噂を「兎角此方ヲ山師之様ニ申作シ、此度之義相願候而徳用も有之様ニ存族も有之、端々ニ至候而は、色々之悪説ヲ申触し、此御用相始り、役所ニ而も建候ハ、打潰シニ參可申、或ハ上江之面ヲ当テン打潰し可申など、又ハ見附次第打擲可致など申説有之(9)」と書き送つている。江戸の三井店四軒(本店、向店、芝

口店、両替店)はこのため「店々安全之為」三廻山に参詣したという。右の書状をみても、いかにこの御用金が悪評且つ迷惑であったかが知られる。この御用金令では、町人は間口一間に付銀三匁を納めねばならず、多くの抱屋敷をもつ三井家にとつて、この点でも深刻な問題であった。深井孫七郎には、七月十一日の段階では、八月に入れば勤番を交代して京に戻るよう指令がでていたが、その後の番状によって交代延引が伝えられている⁽¹⁰⁾。

此度不存寄^(融通金)ユ印御用被仰付候ニ付而ハ、大坂ニ重立候頭役無之候而ハ相済申間敷、幸孫七郎在坂取締方も致事ニ候得ハ、ユ印頭役申出候様ニ可致候、助右衛門交代被申出聞届候得共、其後ユ印御用被仰渡候得ハ、助右衛門交代相止させ申候、孫七郎ユ印頭役申渡候趣意ハ、此度之御用甚太切成事、其上武家方応対も有之事、中々内役之者ニ而ハ勤リ兼可申存候、孫七郎事ハ年来御用方勤来候事ニ付申渡候、尤大坂店取締方も兼帯ニ候、尤一兩年も詰越可被申候、其内ニハ代り役も出来、交代為致可申候全國の反撥を買った融通御用金は、「関東筋出水ニ付」という名目で八月二三日差留の内意が示された。老中田沼意次の罷免となる直前の日である。九月十三日に正式に御触が出され、これにより深井孫七郎の役割は大坂店取締に重点をおくものとなった。この直後、病気がちだった井口孫兵衛が死去、深井は家族を大坂に移して通い勤めすることになる。

深井は天明八年七月三日病い急変して勤番先の大坂で死亡し

た。大坂店の中井、井口の上に深井まで失ない、上部に人を入れる必要があったが、京都店でも天明八年大火の直後の混乱で繁雑になっていたために、以前深井とともに輪番に名のあがっていた残る三人、藤田助右衛門、五十川清太郎、西田新四郎が一カ月交代で勤番につくことになった。さらに京糸店支配退役の石田十兵衛を大坂両替店に通勤支配として再勤させることとなった。

形体は半紙サイズ、全五冊を二分冊に合綴して収蔵されている。墨付分を合わせると全三〇五丁にも及ぶ分量のため、紙幅の制約上、一度に掲載することができない。二回に分けて掲載するのでご了解願いたい。分載の仕方は左のとおりである。

○一回目

「大坂店勤番日記」	天明六年二月七日～	別一五七一―
「同」	同 年三月廿九日	同
「同」	天明六年四月一日～	別一五七二―
「同」	同 六月二四日	同
「同」	天明六年六月二五日～	別一五七二―
「同」	同 七月二八日	同

○二回目

「大坂店勤番日記」	天明六年十一月一日～	別一五七一―
「同」	天明七年二月六日	同
「同」	天明七年正月元日～	別一五七二―
「同」	同 二月六日	同

(1) 中井信彦『転換期幕藩制の研究』第一章第二節。天明五

年十二月の大坂市中御用金令に、三井が御用金免除のため紀州家に懇願したことから、単なる「領分の町人」のためにはなく、幕府への対抗上紀州家が動いたとされる。

(2) 三井文庫所蔵史料 本一〇一一

享保二年から明治六年に至るまで全一一五冊が揃っている(欠本三九冊)。

(3) 「京両替店筋代々取調書控」(三井文庫所蔵史料 追六一〇一一)。なお、本文史料中に見える深井助九郎は四代目であり、天明六年当時は平手代である。

(4) 「(京都内番来状)」(三井文庫所蔵史料 別八一三二)。

三井家は、宝暦期以来の打ち続く内紛と経営不振により、安永三年に家産共有制を崩して呉服店、両替店、松坂店の各巻を三井十一家で持ち分けた(安永持分け)。両替店一巻は、中立売家(二男家、現伊皿子家)、竹屋町家(四男家、現室町家)、南家(六男家・現同称)、出水家(九男家、現小石川家)の四家の持ち分となっている。京両替店から重役を「引越勤」させず勤番とした理由の一つに、「随分爰元店ハ人数打揃有之候得共、只今ニ而ハ御持分四軒之引請者人ツ、有之」ということを挙げている。「四軒之引請者人ツ、有之」という意味ははっきりしないが、同苗四軒の財産管理を重役四人がそれぞれ担当していたということであろうか。

(5) 「(大坂店申渡書)」(三井文庫所蔵史料 統一一五九八一

三)。

(6) 本文史料三月六日の記事に、「店若キ者九人共遣過銀」とあるが、「(天明五巳年秋季中手代子供小遣銀入目々録)」(三井文庫所蔵史料 統六一二二一三)では一名が平(うち二名は八月暇)と思われる。しかし「宗旨手形之事」(案文帳)(同 本一六三七)によると、住込みは岡田喜三郎、

杉本久次郎を除くと、子供と思われる二名を含め七名のことになる。史料を対照すると、平手代でも住込みでなく、通いであつたらしい者が五名程いたことが判る。なお、組頭の竹内文次郎も通いである。

(7) 岡田彦次郎は、元大坂両替店支配格。天明二年十二月十六日退役と同時に雇勤(唄託のようなもの)になっている。

(8) 呉服店グループの本店格である京本店には、名代役、後見役手代の江戸勤番を規程つけた「京名代後見在江勤録」(本一四三)という江戸勤番の重役によって書かれた帳面がある。勤番の主たる職務は、江戸三店(本店、向店、一丁目店)のち芝口店)の半季の勘定をあらまし見届け、下附目録を京本店に持ち帰るが、この間に気がついたことで江戸本店の為になる意見を書き留めたのが、右の帳面である。半季交代にする訳は、「元来其土地ニ一ケ年も居住候得は、諸色万端ニ付、其所之氣ニ移差繰已下共ニ却而難見得」と新鮮な目で物事が見れる様にするにあつたようである。本店の勤番

制については、享保四年に定められた「名代要式」に名代役の勤として記載がある。

(9) 「内番来状」(三井文庫所蔵史料 別八〇九乙)。

(10) 「同右」八月四日付。但し七月一八日付ですでに三井宗

巴より交代延引の内意が示されている。

(樋口知子)

凡例

一、漢字、仮名ともに現行の字体を用いた。

一、読みやすくするために読点を適宜につけた。欄外書は当該の条項の後へ※印をつけて「」で括り、右肩に(欄外)と注記した。

一、符帳は、できるだけ行間に実数を付したが、技術的に入れることが困難な箇所は省いてある。使用されている付帳は左の二種類である。

一三三四五六七八九十百千貫匁分

イセマツサカエチウシ舟仙メ々入

曾野見江佐留所於戒敬

一、献立の中で「午尻」とあるのは「午房」のことである。注記を入れる余白がないため、そのままにしてある。

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

(表紙)
一 天明六年二月七日と同三月廿九日迄

大坂店勤番日記

深井孫七郎

(別一五七一)

二月七日 金サシサ、エ入イ厘 昼エ入サ厘
銭ウ、セ入マ厘 肥後米サシチ、セ入

晴天

一 今朝五ツ時前着坂ス

一 料理汁 ちさ (鮎) おろし大根
花かつほ

平皿 甘鯛
土佐いも

焼物なし

一 着坂ニ付為届左之通

本店 奥村 中西庄 清水井 小島

井口 山中 中井嘉 野崎 三好門

岡田 小野 竹内 中西 石井

但着為悦本店中西氏并支配人一人被参候、

其外両替店掛り之衆中追々被参候

右之通山中半兵衛同道相廻ル

一 中食並之通り 汁大根小口切

平鍋 塩鯛あら
割昆布

一 着坂為祝儀夜分盃事有之

吸物 鯛切身 小皿 同ぬた 硯蓋 玉子煮ぬき

(鉢) 躰焼ほうほ 同したし物

ズ

一 着坂為届丸山る広岡迄宛書状一通、宿元江一通

但此度る半季代り大坂店勤番被仰付候付、大坂店并別宅之衆

中江土産物持参之儀、於京都勤番四人申合候处、時節柄之

儀無用可然旨ニ付、其訊着坂之上内々申達ス、勿論帰京之

砌も主中様方并別宅中江土産物不致旨示合置候事

ズ

二月八日 初午 金サシサ、エ入サ厘 昼相場休
銭ウ、セ入ウ厘 米相場休

晴天

一 御両殿稻荷、大屋様御屋敷同、田沼様御屋敷同

一 権現様御社稻荷江も参詣、夫る天満天神江参詣ス、尤子供案内也

一 大坂店遊金イ仙両、銀舟野シベ、京都店江登ス、宰領藤次郎并

幸七、京都出入藤兵衛付添罷登ル、尤藤兵衛儀者孫七郎召連下り

候付、今夕右ニ付添為差登申候、右金方不残大坂店改

銀方サシベ、常是包残りエシベ、
大坂店改

一 初午ニ付昼赤飯 汁 とらふ之角 天王寺かふら 向畑菜からしあゑ

一 今晩四ツ半時思案橋西詰大津屋新助方る出火、南隣信濃屋弥

左衛門、播磨屋忠次郎、川崎屋清兵衛、右四軒焼失、夜半時過

火鎮申候

但西御役所程近ニ付久次郎、文次郎并若キ者共為御見舞罷趣

候、炭屋五郎右衛門、炭屋善五郎隣家ニ付人遣ス、右何れ

も為見舞飯酒煮染等夫々為持遣ス、且平野町抱屋敷程近ニ

有之候处別条無之、将又山中半兵衛宅式町程間有之候、右

播磨屋忠次郎方者戸崎弥兵衛娘参り居候由、尤火元は大津屋ニ而二階を焼出候由ニ御座候

一新田の拙者出坂為悦何れも罷越候

二月九日 小雨

金サシサ、エ入イ厘 屋エ入
銭ウ、セ入エチ厘
肥後米サシチ、ツ入

一西御役所江遁火為恐悦久次郎罷出候、右之節森氏江懇御目、此間御内意相伺申候融通御用金願書弥十日御表江差上候段内々御届申置候

二月十日 晴天

金サシサ、エ入イ厘 屋エ入サ厘
銭ウ、セ入エ厘
米サシチ、ツ入

一融通印願書并例書共今日久次郎持参、松井官左衛門殿江向差出候処、御請取即刻御前江被仰上、無程御立出安并新十郎殿御立会、右願書御留置被成候間差置罷帰り可申旨被仰聞候付、引取申候、且右願書差出候節松井氏被申聞候は、其元を別ニ断書差出候様被仰聞候付、則相認差上申候、尤右断書松井氏御添削被下候而何れも至極和らかニ御取扱被下候、右之通願書相納候付、即刻森印江罷越右御挨拶申上候処、心々心遣ニ及不申候旨具々御申聞被成候、右之通之趣候得者無故障相済可申と被存候

一京本店上島太郎兵衛紀州の今日罷帰り候由ニ而入来、彼地御聞

請も宜候旨、尤今夕舟ニ帰京候旨

一字野藤五郎伊勢代参無故障相動、今夕方罷帰り候、且又小野藤次郎京都の今朝罷帰り候

二月十一日 晴天

金サシサ、エ入イ厘 屋エ入サ厘
銭ウ、セ入ウ厘
肥後米サシチ、ツ入

一八郎右衛門様御儀先達而る御不快ニ付、当地御而殿江年始御礼御下向不被遊候間、御名代ニ而相動可申旨京都の申来り候付、今日久次郎定式扇子并目錄持参、八郎右衛門様御不快之御断申上差上申候、且御家中方へも定式之通音物差送り申候

一今日西御屋敷江久次郎罷出候節森氏被仰聞候は、昨日被差出候願書ニ而先御呼出有之間敷旨今明日中ニ江戸表江御通達有之筈ニ候間、前に申入置候條、右願書ニ而大方相納り可申候得共、万々一押而可申参も難計候條、右御通達已前於江戸表致人魂願置可申旨、今日も具々御申聞被成候、依之右之趣京都店江別紙連名ヲ以申遣シ、彼地店の江戸表江委細通達有之筈候
一森印御内証大戸源内殿法事用ニ付、明十二日昼舟ニ上京有之候付、右之段も京店江及通達候

二月十二日 晴天

金サシサ、チ入サ厘 屋ウ入サ厘
銭ウ、セ入カエ厘
肥後米サシウ、イ入

一今日相記候用向無之候

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

二月十三日 晴天 金サシサウ入マ厘 昼チ入チ厘
 肥後米サシチチ入
 一家方為見分半兵衛同道罷越左之通

高麗橋一丁目南側

表口十二間 八郎右衛門様御名前 元方持

表口六間余 元五郎様御名前 元方持

表口拾八間余 右本店地面也

八百屋町角

表口拾三間 宗龍様御名前 元方持

高麗橋一丁目本店東隣

表口三間 宗龍様御名前 元方持

但此屋敷地尻凡カシセ坪程本店江地貸

高麗橋一丁目北側

表口六間半 元五郎様御名前 元方持

但加藤東助貸宿賃凡月舟ツシ程之由

右同町北側

表口四間半 宗龍様御名前 元方持

但合羽屋江貸

平野町一丁目

表口式十五間半 源右衛門様御名前 御持分

裏行式拾間

代享保銀舟セシメ、但此屋敷三ヶ所ニ続有之

本天満町

表口六間 小野藤次郎名前 大坂店持

裏行七間 代銀シマメサ舟、

(十三貫五百目)

白髪町南側角屋敷

表口式拾七間半 八郎右衛門様御名前 大坂店持

裏行二十三間 代銀セ舟シウメ、

(二百十九貫目)

山本町

表口八間 次郎右衛門様御名前 大坂店持

裏行拾四軒六尺 代銀マシカメサ舟、

(三十六貫五百目)

奈良物町

表口拾貳間三尺九寸 阿波屋伊兵衛名前 大坂店持

裏行拾四間四尺 代銀ツシメ、

(四十貫目)

普請入用シイメサ舟、

代銀サシイメサ舟、

(五十一貫五百目)

表口七間五尺 次郎右衛門様御名前 大坂店持

裏行二十間余 代銀マシメセ舟、

(三十貫二百目)

四郎兵衛町一町一屋敷三方面

表口四拾九間半

裏行北四十七間四尺三寸

次郎右衛門様御名前 大坂店持

南五拾七間

代銀表向帳切セ舟サシメ、ニ而マ舟サシカメ、

堂島新地一町目

表口拾間

裏行東二十七間一尺

次郎右衛門様御名前 大坂店持

西二十九間

代銀チシウメサ舟、

高麗橋三町目両替店西隣

表口三間半二尺八寸

山中半兵衛名前

大坂店持

裏行式拾間

代銀マシイメ、
(三十二貫目)

齋藤町三ヶ所統屋敷

表口五十卷間三尺余

裏行二十間、長キ所

三十六間四尺余

代文字銀舟サシマメ、

但右三ヶ所統屋敷也

源右衛門様御名前

御持分

梶木町

表口七間七寸式歩

裏行二十間

次郎右衛門様御名前

御持分

代享保銀(十五貫五百目)
シサメサ舟、

江戸堀二町目南側

表口拾五間

源右衛門様御名前

御持分

裏行二十間

代享保銀(三十一貫六百二十五匁)
マシイメカ舟セシサ、

右統新築地屋敷

表口十四間

裏行十卷間半

右御同人御名前

御持分

代文字銀(四十一貫百五十二匁三分六)
ツシイメ舟サシセ、セ入カ厘

麴町右統北側

表口拾五間

裏行十四間

源右衛門様御名前

御持分

代享保銀(二十一貫目)
セシイメ、

右三ヶ所両町南北統屋敷也

高麗橋三町目両替店地面

表口九間半三寸五歩

裏行式拾間

源右衛門様御名前

御持分

代二宝銀(三十八貫目)
マシイメ、

本靱町本店地尻

表口式間

裏行十三間三尺

八郎右衛門様御名前

元方持

但本店地面并右靱町地尻共一ヶ年地代(五貫九十匁)
サメウシ、

玉水町浜側

表口四間四尺

裏行七間

次郎右衛門様御名前

元方持

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

但右式ヶ所続屋敷

京町堀四丁目

表口三拾四間

裏行二十間

備後町四丁目

表口八間

裏行二十間

次郎右衛門様御名前 元方持

右之通追々致見分候処、四郎兵衛町家守支配兼居申候笠屋五郎兵衛と申者、右借家之内中之通南側殊之外及大破候間、建直シ候ハ、借人可有之、且西浜側之所貸藏建候ハ、余程藏敷上り可申候間、何卒及相談具候様相願罷在候

二月十四日 晴天

金サシサ、ウ入セ厘 屋チ入サ厘
 銭ウ、セ入チ厘
 肥後米サシエ、ウ入

一江戸両替店、二月六日出書状到着、今六日午刻過小石川白山御殿前、出火、乾風強大火ニ相成、火口数ヶ所ニ而焼立、町方、御簾本様方、丸山阿部様、小石川右京様御屋敷焼、春日町、水道橋牧野遠江守様御屋敷其外御屋敷方、小笠原様御屋敷、御簾本様方桜馬場火消屋敷ニ而火留ル、一方は丸山の菊坂元町、御茶之水、本郷二丁目、老町目、湯島六丁目焼、大根畑廿二日之焼残場所と一所ニ相成、戌刻前火鎮り申候、長サ凡巷里、余中一町位、六七八町位も可有之候、委細之儀は相知レ不申候、尤右出

火西北風強、店表近辺江藁灰吹来り、小石川辺風下ニ而御屋敷方女中立退被申、町方も同様店表通り被申候付、店表も不残相仕舞申候、右同刻本材木町五丁目中程河岸通り、出火有之、是者四五軒焼火鎮り申候段為申登候

一八郎兵衛様御儀当地御用向ニ付明後十六日夕舟ニ御下り被遊候間用意可被致旨、右御台所并京両替店も案内申来り候、依之奥向掃除等申付置候

一京都内番状ヲ以杉本久次郎、竹内文次郎御用有之候間為差登可申旨、乍然兩人共御用方相勤申候付、先久次郎計罷登り、文次郎儀者久次郎帰坂之上為差登可申段申来り候、依之今夕舟ニ久次郎一人罷登ル

二月十五日 晴天

金サシサ、チ入マツ厘 屋チ入サ厘
 銭ウ、セ入カエ厘
 肥後米涅槃ニ付休日
 夕方（マツ）純天

一今日相記候用向無之候、但天王寺江參詣ス

二月十六日 純天

金サシサ、ウ入マ厘 屋同断
 銭ウ、セ入チ厘
 折々小雨 肥後米右同断

一今朝御為替銀請取文次郎罷出ル、左之通
 (九十二貫五百目) 手前 チシカメサ舟、 十人組
 ウシセメサ舟、 セシイメ、 上田組
 (二百貫目) 銀セ舟メ、渡り高 内小玉セシメ、有 上納五月十八日
 右割合之通無故障請取申候

一京本店田中嘉右衛門当地本店用向ニ付、昨夕舟ニ罷下り候由ニ而入来、依之為挨拶岡田喜三郎罷越ヌ

二月十七日雨天

暮半時の快晴

金サシサ、ウ入カエ厘 昼ウ入サ厘
銭ウ、セ入チウ厘
肥後米サシエ、サ入

一八郎兵衛様御儀、昨夕舟ニ御出坂、舟中無御故障昨夜八ツ時過
兩替店江御着坂被遊候、御供木村利兵衛
中村文三郎

但御着舟中の御案内有之候得者、支配人一人舟場迄御出迎申

上ル、扱兩替店御着之節、後見役已上店詰合之分玄關迄罷
出ル、通勤支配已下組頭迄玄關前土間江出迎、夫と奥江御

通り被遊候上、何れも罷出御着坂御悅申上ル仕来り之由、
依之勤番孫七郎玄關迄御出迎申上候、井口、山中者夜中之

儀ニ付罷出不申、翌朝御着坂御悅申上ル

一当地本店奥村次右衛門殿、中西庄右衛門殿、清水藤兵衛殿、支

配人一人組頭一人、且京本店田中嘉右衛門殿御着為御悅兩替店

江被參、八郎兵衛様御逢被遊候事、右之節奥村氏、孫七郎、孫
兵衛江今夕於本店御寄合御座候間、兩人共出座可致旨、尤暮時

過猶又案内可有之段被申聞候、依之承知之旨及返答置

一昨十六日於京都月並御寄会之上左之通

一京兩替店

是迄支配役
寺井瀬兵衛

一大坂兩替店

右同斷
杉本久次郎 此度上京ヌ

右兩人此度通勤支配役望性銀等被仰渡候

一京兩替店

是迄組頭役定次郎事
右同斷 乾 市右衛門

一右同斷

右同斷 松野安次郎

一大坂兩替店

右同斷 竹内文次郎

此度不罷登進而為御礼上京之積
り也

右三人此度支配役被仰付候

是迄組頭格
桑 孫次郎

一京兩替店

右此度組頭本役被仰付候

是迄組頭格
平井吉兵衛

一糸店

右此度組頭本役被仰付候

是迄組頭役
高橋善兵衛

一間之町店

右此度支配役被仰付候

右同斷
伊東弥助

一右同斷

右此度支配格被仰付候

是迄支配役
前川多十郎

一京兩替店

右年来無滞相勤申候処、持病度々差殆難相勤御座候付、御暇

之願差出申候、誠無拠趣ニ相聞得候付、願之通首尾能御暇、

望性銀等被仰付候

右之通何れも結構被仰渡候段、京都店と通達有之候、依之當時

八郎兵衛様御逗留被遊候付、深井、井口、山中共御礼申上候、

尤竹内文次郎自分御役替御礼申上候事

一爰元店杉本久次郎、竹内文次郎儀此度御役替被仰付候付、諸向

御礼状之儀、久次郎者上京ニ付彼地主中様方并店々且当役中江

御礼相廻り相濟申候、依之文次郎御礼状之儀、京都主中様方御

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

連名宛老通、本店筋当役中惣宛一通、兩替店筋惣宛老通、右三通計為差登申候、尤江戸并松坂江之御礼状之儀者竹内氏共京都御役替之衆中連名ニして差下相濟申候由、杉本久次郎方々喜三郎文次郎江申越候、依之文次郎御礼状者京都江三通差登せ候計ニ而、江戸、松坂江者指下不申候、尤当地本店并当役中江今日御礼相廻申候事

一爰元店諸帳面着坂已後致一覽、猶又是迄之仕法等承り候処、何角入組候仕方ニ而、容易ニ相分り兼申候、然ル処、当店支配組頭者勿論、平手代并子供且出入方之面々ニ至迄夥敷塞り銀相見得申候、尤当店退役之衆中も同様之儀ニ付、向後相改可申と井口、山中江も及内談、存寄之趣別帳面ヲ以京都店江今夕孫七郎方為差登申候、尤右帳面扣別ニ有之写略ス

一八郎兵衛様御儀今日本店と天満天神江御參詣被遊、無程御帰店被遊候

一杉本、竹内御役替被仰付候付立寄会有之、店惣中江申達候事但暮早々也

一今夕本店御寄会江八郎兵衛様御出勤被遊候、尤暮時過本店を若キ者店相片付候間、御出勤被成下候様案内申来り候上御出被遊候事

一右御寄合江孫七郎、孫兵衛引統罷越候処、本店役人一通り挨拶有之、直ニ二階江案内有之、右於席御役替并年褒美等被仰渡候、則御役替左之通

是迄平
 奥田吉太郎 支配役
 千葉善次郎
 市川文蔵
 村山勘助
 上座役

是迄役頭
 古森幸右衛門 組頭役
 小島久兵衛 首尾能御暇
 望性銀被仰渡候
 規矩文兵衛

右之通被仰渡相濟候而、夫惣中江年褒美被仰付候、尤人数十式三人程宛五六段ニ罷出ル、右相濟候上八郎兵衛様御一方二階ニ而御夜食差上、孫七郎、孫兵衛、京本店中嘉右衛門三人は随方ニ而夜食出ル
 向岩碑 平口ほうせん 汁たらしき
 嘉切 小鳥たつき
 いり酒 しいたけ 焼物小鍋

右之通差出被申、何れも一通り挨拶有之、無程又々八郎兵衛様御立会本店惣中於会所御寄会有之ル、依之孫七郎、孫兵衛者勝手次第無挨拶引取ル、尤後之御寄会江者兩人共出座不致候

二月十八日朝之内天氣
 九ツ通る雨降
 夜中雨天
 彼岸入
 金サシカ、セマ厘 屋カ、イ入
 銭ウ、セ入ツサ厘
 肥後米休日

一八郎兵衛様御儀今早朝角芝居江御出被遊候
 一本店次右衛門殿、庄右衛門殿、藤兵衛殿并昨夜御役替御暇等被仰渡候面々共為御礼不残入来
 一兩替店筋御役替被仰付候為悦、本店別宅衆中并支配人中共入来但田中嘉右衛門殿も入来

一本店江昨夜之挨拶且御役替被仰付候面々江悦旁孫七郎、孫兵衛罷越ス、半兵衛も罷越ス
 喜三郎

一中井敬純百ヶ日ニ付店を西方寺江老人参詣可致処、無人ニ付幸方江断申遣ス

二月十九日終日雨天

金サシサ、ウ入ツサ厘 昼チ入サ厘
銀ウ、セ入カ厘
肥後米サシエ、チ入

一今朝坂崎江両替仲間組々行司罷出候様、昨夜申来り候付、則罷越候処左之通

一旧冬小判式朱判無差別致通用候様猶又被仰渡候付、式朱判継質之儀相伺候処、右継質表立相究候儀者御差支之儀御座候間、取渡之節銘々可為対談次第旨被仰渡候間、此段相心得可

申旨

右之通申通有之候付、手前組合江右之趣廻文ヲ以申達候事

一八郎兵衛様今日本店江御出、無程御帰りに被遊候

一高麗橋三丁目町内申合左之通

番人廻り方覚

一割竹三度 立番三人

一金棒三度 立番三人

一りん一度 自身番

直廻り

但たゞき番夜半ハ八ツ迄之間一度、尤風吹候節者不限一度ニ候事

一かね一度 自身番

借屋衆廻り

一金棒一度 垣外番

右之通一時ニ九度宛宵ハ明六ツ時迄無滯入念相廻り候様申付候間、其度毎札御受取可被成候、以上

天明四辰十月十九日

年寄
月行司

一八郎兵衛様御儀当地御用向相濟候付、天氣次第明朝御乘船御帰京被遊候御積りニ付、本店奥村次右衛門殿御暇乞被申上候、尤右之趣京都江も申遣

二月廿日朝之内天氣

其後小雨降
風立晴

金サシサ、ウ入サ厘 昼ウ入
銀ウ、セ入エ厘
肥後米エシサ、セ入

一八郎兵衛様御儀今朝六ツ時御乗船御帰京被遊候、尤為御暇乞本店を支配人言人、組頭一人罷越ス、本店、両替店、別宅御暇乞罷出候儀御用捨之御使被遊候処、其内井口、山中者致出店候付店於玄關御暇乞申上ル、支配人者同土間ニ而御暇乞申上、夫ハ御舟場迄御見立申也、且御供木村利平次者道明寺御代参被仰付参詣、今夕舟敷明昼舟ニ帰京之積ニ候

一当月御月番小田切土佐守様、寺尾善左衛門様、下シ番十人組ニ候一昨日西御役所融通掛りル今日四ツ時罷出候様口上ニ而申来り候付、即刻森氏江為内聞文次郎罷越候処、早速御逢被成候付、右之趣申達内々相尋候処、氣遣成義曾而無之候、是者極内々之儀ニ有之候、次郎右衛門殿方ハ最早相濟有之趣ニ御座候、明日表方ハ申渡方之儀何ぞ相替候儀有之候ハ、可被申聞候、先日被差

出候願書ニ而随分宜候得共、且那被申候者是迄別紙書付之通御用向多ク相勤罷在候付而者、此度之御趣意猶更難有奉存、少金ニても奉差上度奉存候得共、近来不練合ニ付乍恐御断奉申上候、御憐愍ヲ以御赦免被成下候様と書加江可然旨被申聞候、就夫先日申入候於江戸表最早御手入も可有之歟ニ候得共、格別其儀ニも及申間敷候、兎角此上者御物入無数様致進度旨懇ニ被申聞候、依之程能御礼申上退出ス、扱今廿日西御役所江文次郎罷出候処融通掛り安井新十郎殿御逢、去ル十日被差出候願書之趣ニ而随分宜候得共、御用向數十ヶ所被相勤候付而者格別ニ相進ミ、縦少金ニ而も奉差上候筈と申儀被書加可然、尤趣意ニ相替儀無之旨御申聞、此間差上候願書者御差戻シ被成、改下書御渡右之通相認明日差上候様被申聞、例書者御差戻シ不被成候、依之久次郎乍当分不快罷在候段申上候処、左候ハ、文次郎印形ニ而差上可申旨被申聞候付、御請申上置候、尤右御下書者明日日本紙と一所ニ差上可申旨至極柔和ニ被申聞候、右相濟候上即刻森印江文次郎罷越懸御目、程能及挨拶候処、昨日御内々御咄申候通り候得は、右下書之通御認出候ハ、無滞相濟可申候間、必々氣遣致間敷旨御申聞被成候、尤森氏方にてハ久次郎罷ニ無抛内用有之、上京仕候段申上置候、右之通之趣ニ御座候得は、無程相濟可申哉ニ付、江戸表手入ニも及申間敷哉之旨京都店江委細及通達候一森氏御内証京都都一昨日御帰坂被成候付、今日爲悅生看一折久次郎、文次郎も差送り申候、尤於京都御逗留中芝居并知恩院町

於抱屋敷振舞申候段申来り候

一 今初夜前店門口江侍者人被參、番頭江内々相尋度儀有之候、尤町内会所ニ而も逢可申候得共、夫にてハ表向ニ相成迷惑候間、外方ニ而蜜談申度旨被申聞候、其節表ニ庄助居合、外方ニ而御面談申上候も如何ニ有之候、不苦候間御通り被成候様申取、店於玄關懸御目候処被仰聞候者、一昨年正月当町内江男子捨有之候処、右捨子爰元世話ニ而相片付被申候由内々及承候、右者何方江相片付被申候哉、今ニ無難罷在候哉、右捨子実旗本之倅ニ有之候得共、無抛誤有之一旦捨候得共、此節右之様子ニ寄引戻シ申度候付、極蜜右之者居所相尋申候間、片付向委細申聞具候様被申聞候付、則其節之扣帳操出し、御役所江之届方并相片付候向方は津村東之町俵屋九兵衛借屋近江屋忠兵衛と申者方江相片付申、右請人者備中屋七兵衛と申者、右兩人之証文取之相片付、則御役所へも右之趣御届申上候段相咄申候処、彼地世話ニ相成候旨被申聞、右片付先名所覚書被致、罷歸り被申候事

二月廿一日 晴天

風立
屋七ツ過雪降

金サシサ、エ入チ厘
銭ウ、セ入チウ厘
肥後米休日

一 融通筋願書昨日之御下書之通相認、今日西御役所江文次郎持參、御懸り松井官左衛門殿、安井氏江懸御目、猶又口上取籍、右願書并御下書共差出候処御請取、今日者殿様御留守ニ候間差上置罷歸り可申旨被仰聞候付、猶又程能及挨拶引取申候、夫も森氏江

も致參上候処御客来有之様子ニ付一通り申置罷歸り申候、尤右
願書例書者別ニ扣有之写取略之ヌ

二月廿二日 天氣

金サシサ、カ入ウ匣
屋八ツ時^レ折々
雪降余寒強
肥後米休日

一杉本久次郎御用向相濟、昨夕舟ニ罷歸り今朝無難致着候、右之
節竹内文次郎御役替被仰渡御書付持歸り候付、則今夕立会右御
書付一通文次郎江相達候、尤右同人為御礼上京之儀此節無人ニ
も有之候付、追而御用向有之候節上京、其節御礼申上此度罷登
り候ニは不及申、此間御礼為差登候付、右ニ而相濟可申旨昨夕
内番状ヲ以申來り候付、同人為差登候儀相止申候、則右之趣文
次郎江申聞せ候

一杉本久次郎此度於京都御役替被仰渡、今日致帰坂候付、当地本
店初其外別宅之衆中江為御礼相廻り申候
一今日天王寺江参詣ス

二月廿三日 天氣

金サシサ、カ入マツ匣
錢ウ、セ入サカ匣
余寒強
肥後米サシエ、エ入

一今朝御為替銀為請取文次郎罷出左之通
(八十六貫五百目)
(九十二貫五百目)
ウシセメサ舟、手前
チシカメサ舟、十人組
(二十一貫目)
(二十貫目)
セシイメ、上田組
上納五月廿六日
メ銀野舟^レ渡り高 小玉セシメ、共

一右同日清水御為替左之通

(四十三貫五百目)
ツシマメサ舟、十人組
(四十貫目)
ウシカメ、手前
(十貫五百目)
シメサ舟、上田組
(十貫目)
メ銀舟^レ渡り高 小玉シメ、共
上納右同斷

一融通筋願書一昨日相納候付、其節森印江文次郎為挨拶罷越候処、
御客来有之懸御目不申候ニ付、猶又今日參上懸御目及挨拶候処、
一昨日差上候願書ニ而随分相濟可申候、扱先日之願書并例書と
も江戸表江御向被遣仰候得共、其元之儀例而年来數十ヶ条御用
向被相動候事ニ候得者、此度之御用金不被仰付候様取續、此方
落着致遣候故、最早被仰付候儀決而有之間敷候間、致安心候
様、且又此間も申入候通、何れニ於江戸表御手入ニも及申間敷、
兎角失壁無之様致進度候間、此段京都へも可然可申遣、將又右
之通ニ而大方濟寄候間、乍御太儀為挨拶瀬兵衛殿毎ニても罷下
り被申可然存候、尤此儀拙者も一兩日中可申遣候得共、猶又
宜可及通達旨、呉々懇意被申聞候付、程能御礼申上退出ス

一上田方於江戸表手入之儀内々承合候処、森氏^ノ御差図者無之候
得共、於彼地和泉印様江両度内意相同、御肴等も差上候得共御
請不被遊御戻シ被遊候、尤御用人衆被申聞候者、此度之一件其
元方江者不被仰付相濟可申旨、且那被申候段被申聞候旨相咄申
候、將又右ニ付上田方^ノ佐印様江之上ヶ物其外音信等之儀内々
相尋試候処、是者弥御聴濟有之候上、殿様奉始森印者勿論、御

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

懇り有力衆へも差送り申積、尤安印ハ随分氣ヲ付可申、松井、安東両氏ハ致同様差送り可申、併手前、上田同様も如何可有之候間、此儀者猶致勘弁熟談致可申旨申聞候

一右之通之趣ニ付、今夕京都江委細及通達候、尤瀬兵衛殿罷下り被申候儀、本店者勿論、当店筋之挨拶も差合罷下り可被申候、左候ハ、当店筋之儀得と相片付申候上ニ而出坂可然哉之段申遣候、若森氏ハ寺井氏出坂之儀申参り候共、右之趣差合味合能返書ニ可被及旨為申登候

二月廿四日 晴天

金サシサ、カ入マツ匣 屋カ入サ匣
銭ウ、セ入チ匣
肥後米サシエ、チ入

一南都御役所御為替被仰付、上田方当番ニ付罷越候処今日渡、左之通

一マヅカ舟、手前 十人組
外エ、セ入目 (八百匁) 手舟
外イ、カ入 入目 上田組

三十年職御取立

一銀エ、チ舟ウシ、ウ入マ匣イ毛渡り高上納五月廿六日
外シサ、ウ入チ匣セ毛 入目
一イ、メセ舟、手前 十人組
外セ、ツ入目 (三百匁) 外イ、カ入 入目 上田組

御貸付之利

一銀セ、メエ舟エ、サ入チ匣ツ毛渡り高上納 右同日

外サ、ツ入イ匣サ毛 入目
右之通無故障請取割合申候

二月廿五日

晴天暖気 金サシサ、カ入セマ匣 屋カ入イ匣
銭ウ、セ入ウ匣
肥後米サシエ、ウ入

一今日道明寺江店代参兼帯ニ而孫七郎参詣ス

一天神講今日相勤候、尤是迄夜食ニ而家督并退役衆中江廻文ヲ以為知遣候得共、此度ハ相改天神講、影待共中食ニ相改、尤家督退役衆中江之廻文も相止申候、乍然折節参合被申居候ハ、格別之事、但献立是迄之通 汁わかめ 平揚とうふ 茶食 酒有

二月廿六日

五ツ過る雨降 金サシサ、ツ入イ匣 屋マ入サ匣
銭ウ、セ入サカ匣
肥後米サシエ、エ入

一二月八日昼日光山出火有之、坊中之内四拾六院并町家も少々焼失致候由、且久能山御供所も此間致焼失候風聞有之候旨江戸店状ハ申来候

二月廿七日

雨天 金サシサ、セ入サカ匣
銭ウ、セ入サカ匣
米相場休日

一京都店ハ爰元店取メリ方一件返書并取調ハ方帳面等今日致到着候付、則今夕致寄会、支配人中者勿論、惣若キ者江京都差図之趣立会、夫々申渡候事

二月廿八日 雨降

暮時過雨止

金サシツ、ウ入サ厘 屋エ入
錢ウ、セ入セ厘
米相庭休日

一融通筋一件於江戸表和泉橋小日印江内意等申込、和泉橋江願書
差上候処御聞請宜、此上は大坂表の御通達次第無故障相済可
申候旨被仰聞候段、江戸店を京都店江通達有之候付、則右通達
状今日京都店を爰元店江下ル

二月廿九日 快情

金サシツ、ウ入
錢ウ、セ入セマ厘
米休日

一宗十郎様御妹御喜勢様御儀、今般一融様を小野田宗休老方江被
進、右之方を竹井東藏方江被嫁付、当月十六日婚礼相済申候旨
当地本店并京都も申来り候付、竹井東藏方江計欲状相認、今
夕京店江向為差登申候

二月晦日 雨天

金サシツ、チ入ツサ厘 屋サ、セ厘
錢ウ、セ入マツ厘
米休日

一今晝六ツ時前伏見堀西兩國町浜納屋一ヶ所焼失、早速相鎮り申
候

三月朔日

朝之内小雨
屋時先晴
錢ウ、イ入チウ厘をセ入
米休日

一周防紅花三十九貫入置主富島二町目肥前屋七兵衛、請人右同町

阿波屋三郎右衛門方を申来、尤一丸二付凡八貫目入、右引当百目
川付ツ、サ入之積、当時直打サ、カ入位之由、入目高シ、迄
右之趣申来り候付、京都店へも聽合之儀今夕申遣候

一当月御月番佐野備後守様御金奉行酒井与左衛門様下シ番手前也
一長堀平野屋又兵衛久々病氣有之候処、養生不相叶昨夜致死去候
段、子息五十川源太郎を為相知候

一今朝料理方猪口 鱈花銀 平午尻 汁よめな

一右同所 屋 汁三つ葉 焼物はまち 夜分酒有 肴長いも
醬油 飯たこ

三月二日 雨降

金サシツ、イ入サエ厘
錢ウ、イ入サ厘をセ入
米休日

一今日相記候儀無之候

三月三日

朝之内晴
夜中風立
諸相庭休日

一今朝御礼御兩殿并御家中、御金方且天満与力衆へ久次郎、文次郎
罷出候、尤上ケ物なし、御城代御中屋敷并御家中江者久次郎罷
出候、且笠間御屋敷江者文次郎罷出候

一今日御礼孫七郎本店并井口、山中宅へも罷越候、尤兼而申合脇

差羽織ニ而上下着用ニ不及候由

一今朝料理方 鱈 大根 平 鯛とうふ 汁常之通
とりかけ あんかけ

一右同所 屋 飯 汁はまくり 平 鯛 酒有肴なし
山升め

三月四日朝之内鈍天(六) 金サシサゝイセ厘 昼ツウ入サ厘
昼時過五晴 錢ウゝ入イ厘
風立其後小雨 米休日

一今日相記候儀無之候、御触有之京都江登ス

三月五日 雨降 金サシツゝ入サチ厘 昼エ入
夜中共 肥後米サシウゝエ入 錢ウゝエチ厘

一今朝御為替銀為請取久次郎罷出左之通

(九十二貫五百目) 手前 (八十六貫五百目) 十人組
ウシセメサ舟ゝ (二十一貫目) セシイメゝ 上田組
(二百貫目) 渡り高 小玉セシメゝ 上納六月六日
銀セ舟メゝ

右割合之通無故障請取申候

三月六日 朝之内小雨 金サシツゝ入サ厘五サ入 昼休
昼時過五天氣 錢ウゝ也 肥後米休日

一今夕店寄会相勤左之通

一岡田喜三郎遣過銀之内江御役料一割通り宛半季每返納、猶
其上ニも随分出情相納候様猶又申渡、右之趣請書取之置候
一竹内文次郎遣過銀且宿元拝借銀等之儀ニ付猶又急度申付、
則絹井文次郎連名請書取之置候

一岡田彦次郎遣過銀セメウ舟マシ(二貫九百三十文二分)ゝ入イ厘、右同人五方
江貸銀有之候付、右之内ヲ以此度為相濟候、且右之者居所

家守役ニ付無宿料ニ而相住居申候、依之此度相改外並二宿

料申付候、將又右同人雇料是迄半季ニ銀カシ(六十)、宛遣し候得
共、已來相改半季每銀舟チシ(百八十)、宛遣候段申渡、則右等之詔
書一札取之置候

一店若キ者九人共遣過銀償之儀者是迄年々被下候褒美銀致差

引、殘銀濟方之儀者年々被下置候銘々小遣銀之内、半季每
一割通り引之相渡候段、猶又改申渡、則右九人連判請書取

之置候、尤右之内中并嘉十郎儀者右年褒美致差引、殘銀之
儀者直ニ表江付出シ、右同人差引口ニ而致勘定相濟申候

一三好門兵衛貸銀五口ニ而都合シイメマ舟チシイ(十一貫三百八十二文五分)ゝサ入マ厘
無引当ニ而貸シ有之候、右濟方一向手段無之候付、不得止

事今年年々無利足二十ヶ年賦返納之積り一ヶ年カ舟(六百)ゝと相
定、三五七九十極月六度ニ銀舟(百)、宛節季急度返納可致、尤

醬油代銀有之候ハ、右舟(百)之内江引繼可遣候間、舟(百)之内
之醬油代銀ニ有之候ハ、殘銀其即日無間違持參、右六季每

ニ銀舟(百)、宛ニ如何様之難渋有之候共、其無頓着急度可
致返納旨申渡、則右之趣承知一札取之置候、且右之外故三

好又次郎貸イメマ舟サシカ、店帳面ニ記有之候付、相糺候
処、右之者存生之中拝借有之候儀及承不申候段申之候、然

レ共、外ニ引請可相濟筋合之仁無之候間、其元引請前件年
賦銀相濟候上、右イメマ舟サシカ(二貫三百五十六文)、之口濟方可致旨申付、

則右請書之追加ニ右之詔も為相認置候、將又當時存生三好
又次郎過上銀舟イ(百)、濟殘有之候間、其元五伏見右之者住居

江引合、右銀高急々相納可申、若不承知候ハ、其元を取替
急度相納可申段申渡遣候

一 小野平五郎遣過殘銀セサ舟カシウ、有之、無利年賦済之
姿ニ相成有之候、右之者儀當時質物致商売、既店表立久留

米御屋敷貸銀高セシメ、之証文差入、銀高シテ、迄利足月
サ朱之懸合ヲ以通帳ニ而致取引遣候得は、右遣過殘銀逆無
利年賦ニ而済遣し候儀、当り障り之儀も有之候付、難相成

候間、右過上銀之分當時不殘可致返納候、其儀難相成候
ハ、右遣過殘銀高も改商売同様通帳江付出シ、利足之儀も
是迄月サ朱ニ候得共、向後相改月カ朱之積リヲ以懸合可申

候、勿論先納相成候時者店表を不及申利足相払不申候、右
之通定ニ而其元商売勝手ニも相成候ハ、致取引可遣候、
若右之趣不承知候ハ、店表を勤メ候筋にてハ無之候、其元

勝手次第可被致候段申渡候処、私儀御店を御取引不被成候
ハ而者世間躰見込悪敷、商売方甚差支ニ相成難渋仕候、此度
万端御仕法相改候段も承知仕候得者、右被仰渡候趣御請申

上候間不相替御取引被成下候様申之候付、猶又駈と申渡置
候、則右件遣過銀セサ舟カシウ、改通帳江為相記、向後
月カ朱之差加年々請取遣候積対談相済申候

一 岸本安次郎方當時貸シ方ハ無之候得共、全体久留米御屋敷
江加入銀セシメ、有之、右証文店表江預り、安次郎方入用之
節ハ通帳ヲ以利足ニ不抱取替遣し来り候由ニ候得共、已来

相改右セシメ之加入銀相白眼銀高シメ、迄者利足月カ朱之
積双方を懸合、是迄之通通帳ヲ以致取引遣候積、右同人并

世話人小野平五郎江も申渡、則右之趣改証文取置申候
一 岡田金兵衛方江両国町居宅引当銀高エサ舟、利足月ツ、
サ入之積リヲ以取替遣、右之外ニ銀セ舟ウシ、カ厘当座差

引尻貸ニ相成有之候、然ル処右両国町家屋敷引当此節不丈
夫ニ有之候付、今夕金兵衛店表江相招無何角此度店表仕法
万端相改候間、右銀高外方ニ而振替、当座貸セ舟ウシ、カ
厘共一先可被致返済旨申渡候処、承知之段申之候付、猶又

得と申談遣候
一 出入方之者、当三月前払銀之内ニ而左之通
一 和勢屋新兵衛二口合イカ舟サシ、之内此度セシ、

引

- 一 和勢屋仁兵衛舟ツシ、之内此度セシ、引落ス
- 一 津国屋十助イ、之内江此度サシ、引落ス
- 一 出入佐兵衛サシ、イ入之内江此度セシ、引落ス
- 一 出入又兵衛舟マンサ、之内江此度セシ、引落ス
- 一 出入利兵衛チシセ、マ厘之内江此度セシ、引落ス
- 一 出入平兵衛舟チシセ、之内江此度サ、引落ス
- 一 出入幸七ツ舟チシ、之内江此度舟チシ、引落ス
- 一 出入儀兵衛七舟ツシ、之内江此度シ、引落ス
- 一 出入卯兵衛マ舟サシ、之内江此度シ、引落ス

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

一天滿屋吉兵衛セ舟之内江此度セシ引落ス
(二百八)
(三百五十五)
 銀マ舟サシサ、当三月節季銘々引落高

右之外当座貸有之分対談之上致差引相渡ス

一此度於藤次寺京都小野御殿弘法大師開帳有之候付、寄附相頼申
 度由ニ而、藤次寺并小野御殿役人兩人同道扇子式本持參、米袋
 百寄附相頼被申候、尤本店江も同様持參相頼被申候由、依之猶本
 店江も申談可及返答旨申遣候、右米袋凡四五合入と相見得申候

三月七日 晴天 金サシマ、サ入サ匣 屋マ、マ入
 銀チ、ウ入サエ匣 肥後米サシエ

一太田儉校殿今日出坂、津久井氏方ニ被致逗留候付、孫兵衛、文
 次郎生看一折差送り、猶又文次郎御見舞申候処、儉校殿ニも
 為挨拶御入来被成候

一紅花質之儀京都聞合返答有之候付、猶又於当地承合候処、全体
 右置主氣質不宜候由、先達而も妖敷荷物致取扱及出入候儀有之
 旨承之候付、程能断申遣候

三月八日 晴天 金サシマ、セ入 屋セ、マ入
 銀チ、ウ入サエ匣 肥後米サシエ

一京都の本状到来、昨七日夜糸店御寄合之上、同所平頭中村嘉助
 儀此度組頭内格ニ被仰付候段申来ル

一佐々木左京殿去冬丸龜江被參、今日帰坂、店表江入来、直ニ

今夕舟ニ而被致帰郷候由、尤最早京都江者立寄不被申候旨被申
 聞候

一中西登那并右一家渡辺新右衛門悻新三郎店表江相招、中西方拜
 借銀(七百五拾)エ、サ舟、并外ニ当座貸差引残銀(四百七拾)ツ、有之候付、右式
 口共返濟方之儀彼是相談申候処、兎角不縁合難波而已申(双)猶予
 之儀相願申候、依之色々押合候上エ、サ舟、之方當時サ舟、元
 濟為致、殘銀(七百)エ、ヲ是迄之通月サ米之利付ニ而今年一ケ年
 セ舟サシ、宛元人為致、且(四百七拾)エ、之方半銀(七百)エ、當時請取、殘
 銀(四百)ツ、ヲ無利足一ケ年セ舟サシ、宛年々無相違右両口共相濟
 可被申候旨申渡候処、漸承知之致返答候付、則右之趣請書取之
 相濟申候、尤前件(四百)ツ、之口皆納、翌年エ、之口江元濟(二百五拾)
 舟サシ、相増、一ケ年サ舟、宛相納候様、猶又申渡被致承知候

三月九日 晴天 金サシ、ウ入ウ匣カ、
 銀チ、チ入チウ匣 肥後米サシエ

一新田目録出来ニ付為押切今日同所支配人弥助、利平次出坂、目
 録押切相濟、但延銀(三百四十四七七分)マ、ツ舟ツシエ、エ入イ匣

一右目録尻銀子持參候哉と孫七郎相尋候処、當時銀子有合不申候
 付通帳致持參候間、相記呉候様申聞候付、夫者一向不相濟仕方
 ニ候、先頃も申入候通下地通帳貸尻(十三)マ、余当店利まとい
 ニ相成候間、追々入銀被致候様申談置候処、目録計持參、銀子
 不被相納目録尻(三百四十四)マ、ツ舟、余ヲ下地之姿ニ通帳江貸シニ付置候

得者、又候夫丈爰元店利まとい相増申候、此間も申入候通、向

後聊之儀ニても通帳へ付増之儀者曾而相成不申候間、此度之目

録尻マヅツ舟、余、且先月九日京都持登り為替銀代りセバ、余

先右之式口正銀急々相納可被申候、無左候半而者、京都江目録為

差登不申候、且右ニ限り候儀ニて者無之候、銘々自分貸シも彼

是余程有之候、是等迎も同様之事ニ候間随分被致工面一度ニハ

出来申間敷候間、追々返済可被致候、不及申向後之所ハ一錢目

之儀ニても貸増相成不申候間、此段相心得被申、先当目録尻并

先月京都持登り為替之代り銀急々未進取立相納可被申候、何れ

ニも右目録尻マヅツ舟、余正銀差人不被申内者、京都店江目録為

差登不申候、急々相納可被申候、且右ニ限り不申当時通帳シマ

ヅチ舟、余之内へも年々一式割程宛致返済被申連々相済候様、

且自分貸シ之分も随分出情追々返済可被致候、右之通申渡候通

俄新田目録是迄る相減シ候様成取計方ニて者猶更相済不申候

間、此段心得違不被致專候約ヲ以建方急度相改可被申旨申渡候

処致承知、猶罷歸り利作江も申聞返答可致段、兩人共申之候、

將又右之節樋普請入用銀エチ舟、も相懸り可申旨ニ而、則書付

差出し申候付、京都店江申遣跡る可及返答旨申遣置、右書付京

都江為差登申候

一京都店る本状ヲ以、当八日晚間之町店御寄合之上、同所平頭福

田新助と申者組頭内格被仰付候旨申来り候

一江戸状致到着候処、先月廿九日於御勘定所被仰出候者臨時御入

用御座候由ニ而、式朱判イ万サ仙兩、日數六十日限江戸御金藏江

相納可申旨被仰渡、右御添簡当月朔日御渡被遊候処、道中川支

ニ而今日致到着候、依之右御状早速於御月番吉野勝之助殿江久

次郎持參、直ニ差上御渡方之儀相同候処、来ル十六日る金高野

仙サ舟而宛六建ニ御渡可被下段被仰渡候

三月十日 晴天

金サシマ、エ入 屋マ、
銭ウ、マツ匣
肥後米サシエ、サ入

一今日江戸状致到着候処、上野宮様当三日御発興被為成、当月十

七日御着座之御積御上落被為在候段申来り候、且又先月廿八日

山田御奉行山田肥後守様御儀大御目付、山田御奉行江御目付野

一色頼母様、西御丸小十人頭井上助之進様御目付江、御徒頭川

野十兵衛様西御丸御目付江、西御丸御書院番頭岡野備中守様御

組間宮友三郎様御徒頭江、御寄會長田撰津守様西御丸小十人頭

江、右之通被仰付候段申来り候

三月十一日 晴天

金サシマ、マ入
銭チ、チ入
肥後米サシエ、セ入

一今日相記候儀無之候

三月十二日 晴天

金サシイ、サ入
銭チ、ウ入
肥後米サシエ、サ入

夜中小雨

屋セ、

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

一爰元店支配已下若キ者遣過銀取調へ、其外当店退役中取替銀、且

諸出入方取替銀等取調へ方今日迄ニ対談相片付候分、下地京都

江為差登候帳面江又々附紙并下ケ札等いたし、今夕為差登申候

三月十三日 雨降 金サシセ、チ入らマ、 昼セ、チ厘

肥後米サシエマ入

一宗慶様十三回忌正当ニ付、今日於西方寺御法事阿弥陀經執行御
回向有之候付、孫七郎、半兵衛、文次郎參詣ス、本店無人ニ付
支配人吉太郎參詣ス

右之節非時出ル、猪口うとと、平漬やわらかふ、あへ物 わらひ、菓子わい丸むき、焼いも、午尻むきかけ
汁ふき小口切、御酒肴鉢、わん草、硯蓋淨歌寺納豆、吸物もとぎ

一右之節持参包銀左之通、当年番本店之由

一御齋米壹斗 一和尙江 銀野兩

一御華代カ、料(一匁)、一弟子中江 銀イ兩

一御盛物(百)、一貞玉尼江 銀セ、

一卒都婆料舟文 一家来中江 舟文

(三十二匁七分)
メ銀マシセ、エ入 内セシイ、セ入サ厘 本店カサ割

但右之外ニ銀イ兩本店、兩替店ノ遣ス、是者ニツ割

右七廻忌之格之由、尤本店、兩替店ノ參詣計外なし

一京都小野御殿開帳生玉於藤次寺有之候付、此間兩替店江米袋百
宛持参被致候、依之兩店相談之上右米袋者相戻し、御供米料と
して金子舟疋宛、兩店ノ金野舟疋差送り候、今日右之席 吉次郎
文次郎

持参ス

三月十四日 天氣 金サシセ、エ入 昼同事

肥後米サシチ、

一明後十六日御為替渡り高為同今日文次郎罷出候処、仲間江銀
(二百匁)、(二千五百)
セ舟メ、定式且式朱判セ仙サ舟兩臨時御渡可被成下由、則割合
書并後明家質書付并先月廿六日、当月六日上納相濟候御証文五
通御金方御月番江差上、御書替十人組江持帰り候事

一当店去冬季目錄下附出来、今夕京都江 登ス

一小野藤次郎病氣ニ付、為養生宿元小野儀右衛門宅江引取致養生
申候、医師竹内宗硯老也

三月十五日 雨降 金サシマ、サ厘イ入 昼同事

肥後米サシチ、セ入

一今朝御礼且明日渡御為替証文式通文次郎持参、御金方御月番江
差上御書替申請十人組江持帰り候

三月十六日 晴天康申 金サシセ、ウ入らマ、 昼マ、イセ厘

余寒強 肥後米休日

一今朝御為替金銀為請取文次郎罷出左之通

(八十六匁五百匁)
(九十二匁五百匁)、(八十六匁五百匁)
一ウシセメサ舟、 手前 一 十人組

一ウシセメサ舟、 手前 一 上田組

メ銀七舟^(二百貫目)渡り高 内小玉セシメ^(二十貫目) 上納六月十八日

右之外臨時六十日限御為替式朱判左之通^(二百貫)

一皆式朱判イ仙舟サシ^(二百五十) 手前 一 同イ仙舟^(二百五十) 十人組
同セ舟サシ^(二百五十) 上田組

メ金セ仙サ舟^(二百五十) 渡り高 上納五月十八日

右之通割合無故障請取申候、且右之節先月廿六日、当月六日上納相済候、御納札御書替と先達而差上置候御為替手形引替相済申候、將又右銀子駄賃之儀御城馬場手前店迄拾貫目一箱二付^(二十)鳥目セシカ文之定、但サメ^(五百貫)る内八貫目割サメ、以上ハ矢張一箱分セシカ文之由

一伊勢講行事加東藤助、中村孫兵衛^(九)當役奥村次右衛門殿初組頭退役迄三十式宛廻文到来、明後十八日北野於播磨屋宇兵衛方伊勢講相勤申候間、懸銀ウ^(九)宛御持参、四ツ時御出会可被下候以上

右之通申来ル

三月十七日 小雨降 金サシマ、イセ入 屋同事
銭チ、ウ入カ厘 肥後米サシチ、サ入

一井上三郎兵衛先年大坂両替店勤仕之節、遣過銀セメ、有之内舟^(二百)サシ、宛兩度致元済、残銀イメエ舟^(二百七十)、近々於京都取立可申旨申来り候、依之右セメ^(二百)之手形一通彼地江為差登申候

一太田儉校殿御事当地用向相済、昨夕舟ニ被致掃京候旨、笠間御

屋敷^(二十)の乍序為御知被下候

一大脇利左衛門殿当月三日店表^(四)入来、下地預金野^(二十)両有之候処右之節又々セシ^(二十)兩持参、都合金ツシ^(四)兩之預りニ相成有之候、然ル処今日右同人弟之由宜然と申禪僧、利左衛門殿自筆書状持参、若利左衛門殿違変ニても有之候ハ、右宜然手形并割印被致持参候ハ、相渡具候様、若外方之手形計致持参候共相渡候儀無用致異候様申来り候付、承知之段致返答遣候、尤右宜然本国尾州者之由

三月十八日 晴天 金サシマ、ツツサ入 屋マ、ツ入
銭チ、ウ入ツツサ厘 肥後米サシウ、セ入

一京都元方御状到着、一昨十六日月並御寄会之上 江戸本店支配人卯春退役 田所 忠七

右此度江戸本店江再勤、後見役被仰渡候段申来ル

一今日北野於播宇座敷伊勢講有之候付、孫七郎、孫兵衛、半兵衛久次郎、喜三郎参ル、献立左之通

前酒 硯蓋岩^{白飯} 同^{花玉子} 吸物^{もんご}らしい切身^{しんご}
生貝^{いり} 貝^{いり} 站

大砂大浜焼鯛 小皿^{ふり} 鉢^{すいたくわい} 針^い たいくわい

鱈^かれい切重^{いり} 汁^ああゆ^い 菓子^い 碗^い しい^り 草^き 白髪^わうど^ら 葉^らひ^ひ かわる^かれる^る 衣物^い 預^り

初焼はせ一切 二したし 三吸物一塩鍋

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

右之通ニ而七ツ半時過帰店ス、本店奥村、清水支配人之内一人
参ル、但中西氏不快之由ニ而断

三月十九日 晴天

金サシマ、ツ入 屋マ、エ入
銭チ、ウ入エチ厘
肥後米サシチ、イ入

一加州御屋敷ヲ呼来り候付、庄次郎罷越被仰渡、埒合帳ニ扣有之、
此所略ス

一当町堺屋与一取替銀段々及対談、二口ニ而銀(一貫百十四匁四分九)
ウ厘之内、此度ツシツ、ツ入ウ厘請取、残銀イメエシ(一貫七十匁)、一紙
手形ニ相改ル

三月廿日 晴天

金サシマ、イ入 屋同事
銭ウ、セ厘
肥後米サシチ、イ入

一井上三郎兵衛遣過残銀イメエ舟、於京都店取立代り銀付替申来
り候

三月廿一日 雨天

金サシマ、マ入 屋マ、セ入
銭ウ、イ厘
肥後米休日

一明後廿三日御為替渡り高為同久次郎罷出候処、三組江銀野舟(二百貫目)
、并臨時六十日限式朱判野仙サ舟両御渡可被下段被仰渡候、依
之割合書後明書共御月番酒并与左衛門様江差上申候

三月廿二日 雨天

金サシマ、セ入サ厘 屋セ入
銭チ、ウ入セマ厘
肥後米サシチ、セ入

一明日渡御為替銀証文一通、臨時渡り式朱判証文書通久次郎持参、
御月番江差上、御書替者十人組江持帰り申候

三月廿三日 晴天

金サシマ、チウ入 屋エ入
銭ウ、セマ厘
肥後米サシチ、イ入

一今日御為替金銀為請取、久次郎罷出左之通(八十六貫五百目)
一ウシセメサ舟、手前(九十二貫五百目) 一チシカメサ舟、十人組(二十一貫目)
一野シイメ、上田組(二百貫目)

右之外臨時六十日限御為替式朱判左之通(二千百)

一皆式朱判イ仙舟サシ手前(二千五百) 一上同イ仙舟両 十人組
一上同セ舟サシ両 上田組

右之通無故障請取申候(二千四百)

一京都店江今夕小判舟両、式朱判野仙ツ舟両、都合金方野仙サ舟(二百五十貫目)
両、銀野舟サシメ、内シチメ、小玉銀方不殘常是包、右之通小
野平五郎并出入方平兵衛、儀兵衛付添為差登申候

三月廿四日 晴天

金サシマ、チ入サ厘 屋エ入
銭ウ、セマ厘
肥後米サシエ、ウ入

一今日相扣候事無之候

三月廿五日

金サシマ、カ入サ厘 屋同事
錢チ、ウ入チウ厘
肥後米サシチ、セ入

一河州道明寺江為代參新太郎參詣ス

一出入平兵衛、儀兵衛、昨夕舟ニ罷下り今朝無難致帰坂候、尤小

野平五郎儀者内用有之候付、暫京都ニ逗留ス

一江戸元方御状致到着候処、左之通

一江戸本店

右此度元メ役被仰渡候段申来り候

是迄加判名代
杉山仙右衛門

三月廿六日 天氣

金サシマ、ウサ入 屋マ、セ入
錢ウ、也
肥後米サシチ、エ入

一今日相記候儀無之候

三月廿七日 雨天

金サシセ、チウ入 屋セ、サ入
錢ウ、
肥後米サシチ、セ入

一岡田金兵衛方家質貸エ、メサ舟、外方ニ而振替致返納候管ニ候

処、時節柄故相手無之難涉之段、度々断申来り候、右者引当も又

夫成物ニ付断之趣聞届遣し候、尤当七月迄改本家質ニ致、利足

之儀者下地之通月ツサ、乍然当七月迄ニ若相済不申候時者本家質

は勿論利足月カ朱ニ相改申積り申渡置候、将又半銀マ舟エシサ

、当座貸有之候、此口両度ニ相納皆済相成申候

三月廿八日 快晴

金サシセ、マサ入 屋セ、エ入
錢チ、ウ入チウ厘
肥後米サシチ、ウ入

一紀印納銀マシメ、米屋平右衛門江相渡、若山御元メ中宛所之手

形取之、京都江為差登可申旨、尤半銀ハ当地本店を請取可申旨

申来り候付、則本店江右之趣申遣候処、未京都店を通達無之候

間、今夕尋ニ遣、様子相分り次第相渡可申段申来り候

一京都丹波屋五郎左衛門下り為替道明寺会式料銀六百目、今日同

所木戸与左衛門店表江入来ニ付、相对之上道明寺当座取替銀元

利差引右六百目之内ニ而、左之通

一銀六百目

会式料為替高

内 (三百目)

マ舟、

(十九匁八分)

シウ、チ入

(二百二匁四分五)

セ舟セ、ツ入サ厘

(七十六匁八分)

エシカ、チ入

(三百七十五匁)

差引メ銀九分五厘

残銀相渡遣ス

御屋根替入用取替銀イ、メ、ノ、済

残請取相済

右マ舟、巳年四月の午二月迄十一

月分利足月カ朱

取替金セシエ両代銀イ、メ、カ、舟、セ、

ツ入サ厘之内江元済ニ請取

右イ、メ、カ、舟、巳七月の午二月迄八

ケ月分利足月カ朱

(一貫六百目)

(二貫六百二匁四)

(二十七)

(六)

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

右之通致差引遣ス、尤御屋根葺替之方元济当座請取書遣置、追而本証文引替有之筈、且又金代之方者致通帳遣、向後元济度毎右通帳江相記遣、追而可致差引旨致相対候事

三月廿九日

朝之内快晴 金サシマ、マ入 昼同事
九ツ過雷鳴 銭ウ、
夫の雨降 肥後米サシエ、ウ入

一笠間御屋敷旧冬手前方御塚合御不足之由ニ而、於当地内々当座振替之儀無抛御頼被成候付、不得止事銀高マシエ、御取替申上候処、右之内シメ、者当二月ニ御内济有之、残銀セシエ、并右利足共今日御渡被成請取則差引左之通

一マシカメチ舟マシセ、 旧冬残金カ舟ツシ 兩代
(三十七貫八百三十二匁) (六百四十七匁)

一セ舟、 右之内シメ、当二月御内济口
(二百匁) (十貫目)

一エ舟シサ、サ入セ厘 但チ歩之積り
(七百十五匁五分) (二十六貫八百三十二匁)

右同断

メ銀 右同断
(三十七貫七百四十七匁五分)

右之通ニ而此口元利相济候付、京都店江今夕店状致借り遣候一紀印納銀之内シサ、京都本店を通達有之候由ニ而、今日当地本店を請取申候、依之今日米屋平右衛門方江都合銀マシメ、相

渡、若山御元メ中宛請取書取之、今夕京都店江為差登申候一加州御屋敷御塚合之儀ニ付、井川善助方へも内々入謁致相頼、猶又浜方ニても承合御仕法御書付等借請、其上牧野平左衛門殿御方へも久次郎參相頼申候得共、何れニても御為替之訳相立申間敷、一同御仕法之内江加り申候方外致方有之間敷趣相聞得難波成物ニ候、然レ共其俵ニも難差置、成ル不成者格別之儀、猶

又加州御屋敷江御願申上、蔵元井川方へも致手入、其上牧野平左衛門殿へも申込候積りニ候、扱此度之御仕法書、去冬被仰出候御趣意ニ何も相替儀無御座候由ニ御座候、右一同之割方御仕法ニして手前方一ヶ年割凡左之通
一銀ツ舟サシメ舟、 御為替高
(四百五十貫目)

内 舟チシメ、 去ル末年の子年迄六ヶ年分渡り高
(百八十貫目) (二十貫目)
但年々マシメ、宛
ツメ、 去ル丑寅兩年ハ御断延、去ル卯年三
ケ一渡り之又三ヶ一
(四貫目)

残銀セ舟カシカメ舟、 但一石ニ付マシ、替之積
(二百六十六貫目) (三十匁)
此石高八千八百七拾石
百石ニ付セシサ、宛
(二十五匁) (二貫二百七匁五分)
一ヶ年渡り高銀セメセ舟シエ、サ入宛ニ当ル
(千九百九十四貫百五十匁)
一銀イ仙舟ウシツメ舟サシ、 米質之方
内

(二百六十七貫七百一匁九分一厘七毛)
セ舟カシエメエ舟イノウ入イ厘エ毛

去ル午年子年迄

七ヶ年渡り高 (二十八貫二百)

但年々マシチメセ舟 (四十一匁一分三)

ツシマノイ入マ厘イ

毛宛

(五貫九十九匁八厘四毛)
サメウシウノ手厘ツ毛

去ル丑寅両年御断延、

去ル卯年三ヶ一渡り之

上又三ヶ一

残銀 (九百二十一貫三百四十八匁九分九厘九毛)
ウ舟セシイメマ舟ツシチノウ入ウ厘ウ毛

此石高三万七千七百拾壹石六斗三升三合三勺 (三十匁)

但一石マシノ替之積り

百石ニ付セシサノ宛 (二十五匁)

一ヶ年渡り高銀 (七貫六百七十七匁九厘八毛)
(六十八貫七百八十五匁一分八)

一銀カシチメエ舟チシサノイ入手厘 (右先納済残高)

一銀カメエ舟ツシマノサ入セ厘 (新先納済残高)
(六貫七百四十三匁五分二)

但最初先納高 (八十三匁)

銀チシマメノ

但一石ニ付マシノ替之積り (三十匁)

此石高式千七百六拾六石六斗三升 (二十五匁)

百石ニ付セシサノ宛

一ヶ年渡り高銀カ舟ウシイノカ入サ厘エ毛宛ニ当ル (六百九十二匁六分五厘七毛)

右口々一ヶ年渡り高

(十貫五百八十六匁二分五厘五毛)
メ銀シメサ舟チシカノセ入サ厘サ毛

右之通御座候、尤御屋敷御仕法書御文言等一円合点参り不申候

得共、御米直段相分り有之候付、算当前件之通御座候、将又何

方承り合候而も同様紛敷御書付と計申之、井川井浜方にても、

委儀不存候段申之罷在候、依之右御仕法書并手前方割方等別紙

ニ写取、今夕京都江為差登、猶又右之趣及通達候

一今春時過羽子板橋西北詰出火有之、無程相鎮り申候

(表紙)
「天明六年四月朔日と同六月廿四日迄」

大坂店勤番日記

深井孫七郎一

(別一五七二一一)

四月朔日 飢ウツ天冷氣 金サシマノイ入 屋セノチウ入
屋七ツ過天氣 肥後米サシチノイ入

一今朝御礼文次郎罷出候、笠間御屋敷江者孫兵衛罷出申候

一当月御月番小田切土佐守様、御金奉行春田半十郎様、下シ番十

人組ニ而相勤申候

一種村定右衛門殿御事先月廿日江戸表御出立、東海道十六日経当
五日京都御泊、翌六日御着坂之御積り之由、且田沼様御家老井

上伊織殿御事も此度御出坂、種村氏と御一所ニ讃州江御参詣之

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

御積候間、当地御逗留中程能相勤可申旨江戶表の申来り候付、当地勤方之儀京都江今夕尋遣候

今朝汁菜 鱈大根 平こもふ 屋汁常 爨物 鱈背切

夜分酒肴 魚り結 鱈背切

一宗十郎様御方御富様御儀、先月十二日晝御安産御女子様御出生、御二方様共御機嫌能御肥立被遊候由、右御名御村様と申候段京都店の申来り候付、一融様、宗十郎様宛御悦状今夕京都江向為差登申候

一中西とな方名跡相続人之儀、当地本店ニ当春迄支配相勤申候規矩文兵衛相極申度旨、先頃願書差出申候付、本店江も懸合候処、右之趣相願遣シ呉候様奥村氏被申聞候付、右願書此間京都江為差登申候処、願之通御聞濟被下候段昨夕出内番状より申来り候付、則今夕中西とな井村井新三郎呼ニ遣、於店表孫七郎、孫兵衛、半兵衛立会、右願之通首尾能御聞濟被遊候段申渡シ候

一石井ゆの方取替銀之内舟賃并家賃貸之方ハ店表江引請、利足取立遣無引当サメ舟ツシイ、ツ入之方向後節季毎ニツシサ、宛相渡、連々相濟候様格別之用捨ヲ以申渡承知之趣ニ有之候処、其後右ツシサ、宛節季毎相納候儀難相成候間、節季毎セシ、宛ニ而致用捨呉候様再応相頼候付、猶又今夕ゆの店表江呼、彼是押合候上ニ而不得止事節季毎セシサ、宛三、五、七、九、十、極、六ヶ度ニ急度相納可申旨改及対談、則右之趣請書取之、当三月分セシサ、并端銀イ、ツ入共正銀請取相濟遣候

四月二日 天氣 金サシセトエ入サ厘チ入 屋チウ入 錢チウ入ツサ厘 肥後米サシチウセ入

四月三日 晴天 金サシマ、イ入 屋セ入 錢チウ入ツサ厘 肥後米サシチウツ入

一明後五日渡り御為替金銀為伺今日文次郎罷出候処、三組江定式之方銀野舟目、臨時六十日限之方式朱判野仙舟而御渡被下候段被仰渡候、則割合後明書付差上申候、且右之節先月十八日上納相濟候御証文式通御月番春田様江差上、御書替手前江持帰り申候

一丸山弥兵衛当店目錄為押合、昨夕舟ニ罷下り、則今日目錄押合無故障相濟申候、尤夕飯汁焼とうふ 平鱈大 酒肴玉子煮、吹田くわい 夜酒肴上向 鱈小串、ゆりね 生貝 但役人平共焼物なし 鱈之子、吹田くわい 汁かい割な 平長いも 且已来干菓子止ニ申渡 惣中 鱈同様

一右押合相濟候上此度当店取調へ方之儀弥兵衛、孫七郎内談、猶又宗巴様被仰付候通、孫兵衛、半兵衛、久次郎取計方不行届不念之段誤り証文取之、其外支配人并惣若キ者、且新田会所役人、家督并退役中共貸銀遣過銀懸合有之候趣今夕何れも店表江呼出し、店役人之分不殘立会、弥兵衛孫七郎取調へ、夫々請書取置候通弥無相違相濟可申、勿論向後一錢目にても貸過且遣過等急度不相成候段、改急度申渡候

四月四日 晴天 金サシマ、ウイセ入 昼セマ入

錢チ、ウ入ツサ匣
肥後米サシウ入

一明日渡御為替金銀証文式通今日文次郎持參御月番江差上、御書
替手前江持帰り申候

四月五日 雨天 金サシマ、カエ入 昼ツ、

錢チ、ウ入ツサ匣
肥後米サシチ、ウ入

一今朝御為替金銀為請取文次郎罷出左之通

(八十六貫五百目)

一ウシセメサ舟、手前 一チシカメサ舟、十人組

(二百貫目) (二十貫目) 一セシイメ、上田組

メ銀野舟メ、渡り高内小玉セシメ、上納七月六日

右之外臨時六十日限御為替式朱判左之通

一皆式朱判イ仙舟サシ兩 手前 一上同イ仙舟兩 十人組

(二千五百目) (二百貫目) 一上同セ舟サシ兩上田組

メ皆式朱判野仙サ舟兩渡り高 上納六月六日

右之通無故障請取申候、且右之節先月十八日上納相濟候、御納

札御書替と引替相濟申候

一丸山弥兵衛当地用向今昼舟ニ罷登り申候、右之節本目錄、小目

録并当店取調へ扣帳且随方取締扣帳等持登り申候

一本店支配退役小島久兵衛今日宿人婚礼弘相務候ニ付、当店を為

祝儀金舟足并井口、山中、杉本右三人組合チウ、位之鏝節一連

先格振合ヲ以差送り、何れも悦ニ罷越、尤向方ニ而座敷江罷通

り熨斗昆布ニ而相祝、銘々江饅頭ニツ宛差出ス、且又孫七郎儀

小島方と内縁有之候付、同人も鏝節一連差送り同様悦ニ罷越

候、尤袴無脇差扇子ニ而一同罷越候事

一則右衛門様御事則兵衛様、三十郎様御事則右衛門様、右之通先

月廿七日出書状ニ松坂店を申来り候間、御悦状宗惠様、則兵衛

様、則右衛門様御三名宛ニ而差下可申旨京都を申来り候付、則

今夕京店江為差登申候

四月六日 晴天 金サシマ、ウ入ツ、 昼休

錢チ、ウ入ツサ匣
肥後米サシチ、ウ入

一先月廿四日晚江戸元方臨時御寄会之上左之通

此度支配役 是迄組頭役 高井勘兵衛

此度組頭本役 是迄組頭格 福井 兵助

此度組頭格 是迄平筆頭 中井亦次郎

此度相統筋依願 是迄支那役 朝田 伴七

首尾能御暖井望性金等 被仰渡候

右之通被仰渡候段、先月廿五日出元方御状并店状ヲも申来り候、

依之悦状差下申候

一今夕月並寄会相勤取組方申合并加入方之儀、是迄致世話来り候

分ハ格別、向後新ニ頼被申候方有之候共急度断申遣可申段示合

申候、此儀於店表無拗致世話候処、向方ニ寄被致心得店表ニ德

用も有之様被存、且若鱗物等致出来候節、加入代り銀店表を振

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

替致返済呉候様被申候方も有之、却而店表江恨ヲ被申候様も有之候付、向後新頼之方可成丈断申積りニ候、夫共格別無拋筋ニ候ハ、京都店江及通達差図次第取可申事
 一三好又次郎遣過銀舟イ、ウ入カ厘今日三好門兵衛方ニ相納、此(百一匁九分六)
 口皆済相成候付、扣帳消置申候

四月七日朝之内藝

金サシツ、イセ入 昼同事

四ツ時々快晴

銀チ、ウ入チウ厘 肥後米サシツ、イセ入

一 小島久兵衛宿入婚礼首尾能相務候為御礼入来、且右為祝儀喜三郎、文次郎江包扇子三本宛、別宅三人江も同断三本入一箱宛致到来候、將又孫七郎赤飯一重、生肴小鯛一枚一折致到来候、但別段使舟文、紙二折

一 孫七郎今日新田会所為見分罷越候

四月八日 晴天

金サシツ、イセ入 昼ツ、

銀ウも也 肥後米休日

一 若山両替森権兵衛、高垣藤三、都筑忠兵衛ニ当店支配人宛書状到来、御用大判三枚相調度候間直段致吟味申越候様申来り候付、則庚安方ニて承合候之処、(二十)セシイ両セ歩セ朱之由申越候、依之右返答ニハセシイ両野歩、銀(十)位ニ候ハ、大方相調可申候、乍然此節相庭高下御座候付御請合申儀は難相成、大方右直段ニ候ハ、相調可申哉之旨程能申遣候

※(欄外書)
 「此大判三枚右之通之直段ニ而売上、代り金請取相済候」

一 種村氏御事道中工面合有之、南都橋井方一宿、新田会所御立寄相止法際寺辺御願見、今夕夜ニ入候而も御着坂之御積りニ付、御出迎所深江茶屋一ヶ所借り請置、同所江提重一組次通り江も酒肴等取積、文次郎持參御出迎申候処、同所江夜半時御着、暫御休足、無程出立、当地御藏屋敷江夜ハツ半過御無難御着被成候、尤瀬兵衛儀も致御供罷越候、文次郎事者御藏屋敷迄直ニ御案内申候

一 当店は迄病人有之候節、看病人銘々ニ付置候様子見請申候付、輕キ病症ニ候ハ、式三人ニ看病人一人宛、且養生所之儀も奥座敷并一階江一人宛分り候儀無用、式三人迄は何れ江成とも一方江相片付為致養生可申旨、將又是迄表通り江下男纏伴一ツニ而手際能切水打候、依之見物人も有之如何ニ付向後相止可申段、何れも江申談置候事(金)

一 井口孫兵衛弟花房孫市儀、先年江江戸堀麴町家守役為相勤、給料一ヶ年銀マ舟チシ、宛差遣候処、勝手向不練合候哉、是迄年年取立申候宿賃之内銀イバカ舟チ、ウ入カ厘孫市引込、店表江相納不申候付、度々及催促候得共、今以相納不申候、依之此度孫七郎ハ井口氏江猶又対談、前件引込銀高当年五ヶ年賦之積り、当時端銀チ、ウ入サ厘正銀請取、当七月ハ半季毎銀舟カ(八匁九分五)シ、宛一ヶ年銀マ舟セシ、宛年々急度相納被申候様及対談、則右之趣孫兵衛、孫一ハ改証文取置申候、尤万一孫市方ニ不相納

儀も有之候ハ、孫兵衛方々無相違相納可申趣之手形一通孫兵衛一判ニ而為念取置申候

四月九日 晴天

金サシマ、ウ入ツ、
銀チ、ウ入チウ匣、
肥後米サシチ、カ入

一種村氏着坂為悦孫兵衛、瀬兵衛御屋敷江參

樽肴代

一金マ舟足 種村氏

宗八郎兵衛、
八郎右衛門、
三郎助、
元之助、
機

一經節二連 渡辺氏 上同

一生肴一折 右御同人 孫兵衛 一酒三升一樽 右同人 上同

右之通持參差送り、猶又跡、文次郎も為御見舞罷越候

一森半平殿御事種村氏為出迎深江江被罷出、於同所瀬兵衛懸御目、

何角御咄合之儀も有之候付、今日南都銘酒一樽瀬兵衛持參、御見舞申候

一津久井武兵衛子息小四郎殿御内証安産男子出生、初孫之由武兵衛殿吹聴有之候付、瀬兵衛相談之上武兵衛殿江主中様方々金舟

正為祝儀被遣、名代共、大守袋一ツ差送り、京都、悦状も於当地相認届、何れも為御悦致參上候

四月十日 晴天

金サシマ、チウ入
銀チ、ウ入エチ匣
肥後米

一井口孫兵衛儀勝手ニ付此度尼ヶ崎町、町目井池西江入町北側江

致変宅候、尤是迄変宅之節祝儀差送り候得共、此度相談之上相止申候、乍然悦ニハ何れも罷越候

一瀬兵衛儀笠間御屋敷并森繁平殿江も為御見舞罷越候

一井上伊織殿御事昨夜鴻池新田御泊、今暮時前御屋敷江御着坂被成候付、則右之趣別紙ヲ以京都江及通達候

一種村定右衛門殿、孫兵衛変宅為悦、生肴一折今日致到来候

四月十一日 晴天

金サシマ、ウ入サ匣、
銀チ、ウ入カエ匣、
肥後米サシチ、イ入

一種村定右衛門殿出坂為御土産孫兵衛、文次郎江無地琥珀帶地一筋宛今日致到来候

四月十二日

朝之内小雨 金サシツ、セ入 昼同事
四ツ過、晴 銀チ、ウ入エチ匣
肥後米サシエ、チ入

一井上伊織殿着坂為悦鮮鯛一折久次郎持參、御家来福屋弥十郎殿

江懸御目主中様方口上程能申取差出候処、則奥之間江御通シ伊織殿御逢厚ク御挨拶有之候、依之右之趣今夕京都店江及通達候一寺井瀬兵衛儀、当地用向相濟候付、今夕舟ニ致帰京候

四月十三日 晴天

金サシツ、イセ入 昼同事
銀ウ、イ匣
肥後米サシエ、チ入

一御城代阿部能登守様御屋敷岡孫右衛門殿、村田権左衛門殿、島

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

村新兵衛殿の昨日久次郎宛御手紙到来、今日御勘定方御役所江罷出候様申来り候付、則致参上候処、何れも御逢被仰聞候者、毎々勝手方預御世話工面能大慶存候、依之左少之品ニ候得共、左之通被相送り候、此段平田彈右衛門、村田万太夫宜得御意候様被申聞候、左之通

御紋付羽二重 八郎右衛門様
御拾一ツ宛 御上下一具 深井孫七郎

三郎 助様

次郎右衛門様 御目録マ舟疋杉本久次郎

元之助様

但次郎右衛門様當時御在府之段ハ御承知之由被仰聞候

右之通被下置候付、今夕京都店江本状の委細及通達候

一井上氏、種村氏并渡辺氏御同道ニ而明後十五日出立、讃州金比羅江御参詣有之由、尤外々へは御沙汰不被成内々ニ而御参詣之段承之候、依之右餞別之儀今昼時通り走りヲ以京都店江及通達候

一井口孫兵衛儀笠間御屋敷江為御見廻罷出候

一渡辺九蔵殿の為土産孫兵衛、文次郎江浅草海苔一包宛今日致到来候

四月十四日晴天

金サシツ、イ入サ厘のセ入 昼同事
銀チ、ウ入チウ厘
肥後米サシエ、ウ入

一明後十六日御為替渡り高為何久次郎罷出候処、仲間江定式方銀

(二百貫目)
野舟の、臨時六十日限之方式朱判野仙サ舟兩御渡被下候筈、則割合書付後明書付并先月廿六日上納御納札六通御月番江差上、御書替十人組江持帰り候

一東新田江捨子有之候付、当地御役所江為御届今日利平次罷出、店表へも右之趣申聞候

一京都店の左之通

是迄則兵衛様御勤被遊候大年寄役、此度則右衛門様江無御故障被蒙仰候段元方申来り候由、尤御悦状ニは及不申候、猶本店示合可申旨申来り候

右之通通達有之候付、則本店示合御悦状ハ差上不申候

一京都店の種村氏、井上氏、金比羅参詣餞別之儀返書到来ニ付、猶又笠間御屋敷江文次郎罷越内意相尋候処、種村氏、渡辺氏者弥明早朝出立之由、井上氏者延引ニ相成候段承之候

四月十五日 晴天

金サシツ、セ入 昼同事
銀チ、ウ入チウ厘
肥後米サシエ、カ入

一今朝御礼久次郎罷出候

一明日渡御為替金銀証文武通久次郎持参、御月番江差上申候、御書替者十人組江持帰り候

一源右衛門様御儀、御道中御機嫌能昨十四日七ツ時過江戸表の御帰京被遊候段、京都店の申来り候、依之御悦状為差登申候
一種村氏并渡辺氏弥今朝出立、讃州江下向有之候付、為見送り申

崎迄文次郎罷出、京都差図之趣ヲ以左之通

- 硝子壺形十綿手
- 器物江氷おろし詰ル
- 一 尤浅黄帛紗二包
- 島桐箱入絹サナタ

種村氏

一干菓子一箱

渡辺氏

右之品夜前差送り可申処、彼是遅ク候付、今朝文次郎持参、中様方御口上程能申取差送り申候処、御丁寧御挨拶有之候

四月十六日 天氣

金サシツゝツ入 昼同事
錢チゝウ入カエ厘
暮時大雨雷 肥後米休日

一今朝御為替金銀為請取久次郎罷出左之通

- (九十二貫五百目) 一ウシセメサ舟、手前 一 (二十一貫目) チシカメサ舟、十人組
- (二百貫目) 一銀野舟、渡り高内小玉セシメ、上田組

右之外臨時六十日限御為替式朱判左之通

- 一皆式朱判イ仙舟サシ兩手前 一 上同イ仙舟兩 十人組
- (二千五百) 一皆式朱判イ仙舟兩渡り高 上納六月十八日 一 上同セ舟サシ兩 上田組

右之通無故障請取申候、尤例之通為御届相廻り申候

一右之節去巳七月十八日上納御納札御書損有之断書左之通

覺

一巳七月十八日上納銀高九拾貳貫五百目御証文諏訪之御名字

諏訪と御座候得共、其辰御請取置被下候間、自然御勘定之節御差支御座候ハ、其節於江戸表願上引替候様可仕候、仍如件

巳七月晦日

三井組名代
杉本久次郎印

右之通相認差上置申候

四月十七日 晴天

金サシツゝツサ入 昼ツ入サ厘
錢ウゝイセ厘
肥後米休日

一新田利平次当地御役所江罷越候由ニ而立寄ル

四月十八日 天氣

金サシツゝツ入 昼同事
錢ウゝイセ厘
肥後米サシエトチ入

一新田弥助右同断用向ニ付出坂立寄ル

四月十九日 雨天

金サシツゝツサ厘 昼イ入
錢ウゝイセ厘
肥後米サシチ

一銅座を為替之儀ニ付用事有之候間、宍人罷出候様申来り候付、則嘉十郎差遣候処、元方御金蔵江御納金野舟兩程有之候間、例

之通三十日切相納候様若林様、藤本様を被仰聞候由、尤御金蔵納相成候ハ、九十日限可有之哉、其段相同候処当地ニ而相分り不申候付、此度者先九十日限ニ差下シ、於江戸相同御差図次第上納可致旨被仰聞候、尤右断書者明日差上候様被仰渡候

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

四月廿日 天氣 金サシツ、セ入 昼マ入

錢ウ、也
肥後米サシエ、ツ入

一右銅座断書左之通

書付ヲ以御断申上候

一永松銅山御前貸御手当金、人參座御手当金江戸表江御差下被遊候節は、三十日限上納仕候様先達而於御勘定所被為仰付奉相動候、此度蓮池元方御金藏江御上納金は初而被為仰付、殊ニ当地從御金藏江戸御金藏江御差下被為成候節、九十日限奉相動候御儀ニ御座候ニ付、右同様九十日限被成下候様奉願上候、以上

三井組宛

竹内文次郎印

杉本久次郎印

午四月廿日

銅座

御役所

右之通相認差出候処、御金藏納相止、若林様、藤本様江之御下

金ニ相成候付、右差出候書付御差戻し被成候

一井上伊織殿御事讚州江明日日出立御參詣被成候由ニ付、為錢別干菓子一折今日文次郎持參、主中様方御口上程能申取差送り申候

四月廿一日 晴天

金サシツ、マ入サ厘 昼ツ入
錢ウ、也
肥後米サシエ、ツ入

一井上伊織殿御事弥今朝出立、讚州江御越被成候

一明後日渡御為替金銀為何久次郎罷出候之処、仲間江定式之方銀

(二百貫目) 臨時六十日限之方式朱判セ仙サ舟兩御渡被下候筈、則

割合書付、後明書付御月番江差上、御書替八十人組江持帰り申候

四月廿二日 晴天

金サシツ、セ入サ厘、イセ厘 昼同事
錢ウ、イセ厘
肥後米サシエ、ツ入

一明日渡御為替金銀証文式通今日久次郎持參、御月番江差上御書替十人組江持帰ル

一中井嘉十郎不快ニ付為養生宿元江引取申候

一笠間御屋敷、昨日文次郎宛手紙今日中罷出候様申来り候付、則致參上候処、御紋付麻絹御上下一具拝領被仰付候付、御札申上、京都へも右之段申遣候、且又此間種村定右衛門殿江出候節、御有合之由ニ而御紋付御拾一ツ被下置候、是者表向拝領被仰付候御儀共不被存候

四月廿三日 晴天

金サシツ、サ厘、イ入 昼マ入
錢ウ、イセ厘
肥後米サシエ、カ入

一今日御為替金銀為請取久次郎罷出左之通

(八十六貫五百目) 十人組
(九十二貫五百目) 一(チシカメサ舟、
一ウシセメサ舟、) 手前 一(セシイメ、) 上田組
(二百貫目) (二十貫目)

メ銀野舟、渡り高内小玉セシメ、上納七月廿六日

右之外臨時六十日限御為替皆式朱判左之通

一皆二朱判イ仙舟サシ両 手前 上同イ仙舟両 十人組
(二千五百) 上同野舟サシ両 (二千五百) 上田組

一右之通無故障請取申候付、例之通為御届相廻り申候
上納六月廿六日

一右之節去巳年中御為替渡銀訊書目録、東西遠国方御役所江久次
即持参差上候

一伏見布屋弥兵衛方江安永式年巳十二月大坂本店、両替店を銀イ
メ、宛取替有之、安永四年未七月両替店を又タイメ、取替、其
(七百四十七) 後両替店之内江銀エ舟ツシエ、元済有之候、然ル処六七年巳前
(七百四十七) る一向之不埒ニ付、此間中人呼下敷敷及対談、右エ舟ツシエ
(三百) ヲ是迄延引之利足ニ両替店江引取、元銀高最初之通りマメ、
ニ引直シ、此度マ舟、元入為致、向後無利十ヶ年賦之積り一ヶ
(六十) 年マ舟と相定、毎年三五七九極月毎銀カシ、通帳ヲ以請取、
(七貫五百) 年々ニ相済遣候趣致対談遣し候

一岡田金兵衛家質貸銀エメサ舟、外方ニ而振替、前件エメサ舟、
請取相済申候 (七貫五百)

四月廿四日 雨天 金サシツ、イ入セ厘 昼イ入
銭ウ、セマ厘 肥後米サシエ、マ入

一去ル十四日朝五ツ時江戸幸橋御門内松平薩磨寺様御装束屋敷を
出火、横町表長屋拾間余り焼失、北風少々有之候得共四ツ時火
鎮り申候、阿部能登守様御屋敷御隣ニ候処、風脇ニ而御別条無

御座候之段江戸表を申来り、京、江戸表をも阿部様江恐悦御状
参り候付、今日久次郎御中屋敷江為恐悦罷出候

四月廿五日 朝之内雨天 金サシツ、ツサ厘イ入 昼同事
昼時過晴 銭ウ、也 肥後米サシカ、ツ入

一今日天神講 平ひりやナ 汁大根輪切
かわりな からし

一道明寺代参出入又兵衛為相動候

一松坂店元方御状致到着候処左之通

一昨十九日当店臨時寄会之上左之通
是迄上座役 橋本周助 是迄上座格 山中半蔵

右此度役頭役申付候 右此度上座本役申付候

右之通被仰渡候段、当廿日出御状申来り候

四月廿六日 晴天 金サシツ、イ入サ厘 昼セ入サ厘
銭チ、ウ入チウ厘 肥後米サシエ、イ入

一小野藤次郎病氣全快、昨夕を致出動候

一清藏様御儀江戸為御勤番昨朝京都御出立、東海道十二日経御着
府之積り御下向被遊候由、尤御在府中者長五郎様と御名乗被遊
候旨京都店を申来り候、依之御悦状差下申候

一高麗橋三町目町代与一死去後跡役之儀同人実子新六事与次兵衛
と相改、跡役被仰付被下候様、尤未若輩者ニ付親類共申合後見
仕為相動申度旨親類共并新六町中江相願申候付、一同相談之

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

上願之通申付候、依之与次兵衛并親類共同道為御礼町中井店表江も罷越候

一京都店引取金銀左之通

一皆式朱判野仙両

(二百二十貫目) 一銀高野舟セシメ、内常是包内、セ舟シサメ、サメサ舟、小玉ツメサ舟、爰元

右之通今夕舟ニ野崎新兵衛并出入男平兵衛、幸七、為幸領為差登申候、但当店無人ニ付新兵衛雇遣ス

四月廿七日

朝之内雨降 金サシツ、セ入ルサ厘 昼セ入 昼時晴天 銀ウ、イセ厘 肥後米サシエ、イ入

一新田会所の書状差越、当麦作菜種共春中已来冷氣御座候故、後レ申候而未突入最中ニ而御座候由、依之綿蒔附も見合罷在、漸此節ニ至蒔附申候由、稻作之儀も春植之分未植付不申候旨、且又東新田先頃之捨子未相片付不申候上、西新田ニ者行倒者致死去御届申上、其外非人、病人、行倒致養生罷在候段申越候付、右之趣京都店江新田方無番状ヲ以及通達候

一安井新十郎殿、松井官左衛門殿、安東丈之助殿を今日久次郎、文次郎宛手紙到来左之通

被仰達儀有之候間、明廿八日四ツ時過彦人西御役所江可被罷出候、已上

四月廿七日

三井次郎右衛門殿

右之通申来り候付、御請相認遣候

名代中

四月廿八日 晴天

金サシツ、イ入ルサ厘 銀ウ、イセ厘 肥後米サシエ、イ入

一今日西御役所江久次郎罷出候处、無程手前、上田組一所ニ於御書院次ノ間、殿様并御用人中、表方与力衆御立会之上左之通

午四月廿八日申渡覚

上田三郎左衛門

三井次郎右衛門

此度富家之者共江御用金被仰付候付、其方共も先達而呼出有之、御趣意委細申聞、分限ニ応出金之儀取調候处、当时者為替方手当之外遊銀無之由追々申立候趣無抛相聞得候付、此上取調之不及沙汰候条、是迄之勤向弥不差滞候様可致候

右之通被仰渡候上殿様御退座被遊候、跡ニ而御懸り与力衆三人被仰聞候は、追々申立候趣無抛相聞得候付、此上取調之不及沙汰候条、是迄之通勤向弥不差滞候之様可致旨被仰聞候付、難有奉存候段御礼申上引取、夫々森氏初御用人衆、表方与力衆三人宅々へも久次郎手札持參御礼相廻り申候、右之通首尾能被仰渡候付、今夕無番状ヲ以委細及通達、猶又右ニ付殿様并森氏始御用人衆、表方三人之衆中江之音物之儀上田組承合、跡も可得御

意候得共、其元御存寄も有之候ハ、可被仰聞候、其趣上田組へも談合可申旨も申遣候

一 今午下刻榎木町淀屋橋筋西角る出火、折節西風少々有之、即時ニ東側江燃付大川町地尻へも火移り、東江三十間計焼、西側之方北八大川町境迄西江式拾間計凡半町四方焼、申刻前火鎮申候、尤心齋橋筋西北角家式軒計引崩申候、且又同所手前抱屋敷は風上ニ而別条無之致大慶候

一 右出火ニ付新田会所人足拾人差越申候

四月廿九日 晴天

金サシツ、イ入サ厘セ入
肥後米節句前休

一 笠間御屋敷江文次郎御見舞申候処、種村定右衛門殿、渡辺九蔵殿御事讃州路る今日御帰坂之御積りニ付、則御屋敷も為御出迎御出被成候付、文次郎儀も御同道申道筋迄罷出申候、尤銘酒一樽持参差送申候、御無難今日七ツ時過御着坂被成候

四月晦日 晴天

金サシツ、イ入 昼イ入
肥後米右同断

一 種村氏、渡辺氏着坂為悦主中様方御口上取繕變拾本種村、同七本渡辺、孫兵衛、文次郎る手紙相添為持差送り申候処、京都江も何分宜為申登呉候様御両所共返書致到来候、猶又今日孫兵衛御帰坂為御悅御見舞申候、且種村氏る缺御所望ニ付、一升相調別段

差送り申候

一 今日惣会所融通一件ニ付、本店呼出有之候付、小島久兵衛罷出候処、惣年寄金谷与右衛門殿、今井与三右衛門殿御立會御書付ヲ以左之通

諸家用弁井世上金銀融通之御趣意依御下知旧年已来其元共追々呼出シ分限ニ応御用金申付、銘々出金申付、貸付方之儀等も具ニ申渡置候処、惣人数之内ニは追々貸付候者も有之由ニ候得共、諸家向々申込有之候而も無訳相断、未貸付不致者多ク有之趣ニ相聞得候

右御用金被仰付御趣意先達而委細申渡候趣ヲ如何心得罷在候哉、近年諸家用弁世上金銀融通も不宜趣ニ而、右者諸家之返濟不埒故、金主共手を引居候ニ可有之哉ニ付、分限之者共ヲ撰、御用金被仰付、直ニ御貸付被成、公金之名目ヲ以貸付被仰付候儀ニ而既返濟方滞候節之御取扱も格別ニ御仕方相立、右御用金聊以公儀江御取立之筋ニも無之、於貸付方者損銀無之儀ニ候得は丈夫存、諸家返済方少も不危踏何れ申込有之候而も及熟談手広ニ貸付可申答之処、貸付及遲滞候段、自分之勝手或は過分之利倍等ヲ考候儀ニ可有之哉、左候而者、右之御趣意ニ不相当被仰渡ヲ不用道理故、おのすから一統相糺候様ニも相成可申候、銘々出金高申渡候已後者即時ニ貸付可申事ニ候得共、勘弁繰合も可有之儀故、左様ニハ成兼可申哉ニ付、先ハ其分ニ差置候得共、是迄余程之月数相立候而も貸付

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

不申者共も有之段、全申渡候趣ヲ心得違罷在、貸付等閑ニ打過候事と相聞得候付、尚又右之趣申渡候間、得と相弁當時の諸家ノ申込有之候分ハ勿論、此上申込有之節も及熟談早々貸付可申候

右御口上ニ而被仰出候趣承知仕候、是迄諸家方へ貸付候分御名前書上候様被仰渡、是又承知仕候、右御請書仍如件

一右之通被仰渡候付、外方一統御請致印形候、依之明朝日御断書差上候積リニ候、且右之節渡刃新右衛門方先達而(二千)イ仙而と書上候得共相濟不申、身元改御願申上候処、猶又此節御糺之上(五百)イ仙サ舟而ニ而御聞濟有之候

五月朔日晴天 金サシツ、サ厘イ入 昼同事

錢ウツツサ厘 肥後米節句休

一今朝御礼無御座候、乍然笠間御屋敷へ者種村氏、渡部氏讃州ノ掃坂為悦孫兵衛今日罷出候

一当月御月番佐野備後守様、御金奉行本多喜三郎様、下シ番手前当番也

一今朝餚し大根 汁常之通 平焼ふき 屋汁大根葉 焼物調 懸汁切

夜酒肴あめら 鯛子

一今朝六ツ時天満組屋敷安井新十郎殿裏隠居出火有之、右限りニ而火鎮り申候、依之見舞左之通

一酒三升并握飯一重、煮染一重 安井氏

酒三升宛 河方 由比 安東江 右之通差送り、猶又御見舞申候

一明後三日渡り御為替金銀為同文次郎罷出候処、三組江定式銀高(百貫目)、臨時六十日限ニ朱判野仙サ舟而御渡被下候段被仰渡候、則割合後明書付御月番江差上申候、且先月十八日上納相濟候御納札三通御月番江差上申候、御書替手前江持帰り候

一融通一件、本店返答書今日差上左之通

乍憚口上

一昨晦日被召寄御書付ヲ以先達而為金銀融通結構之御趣意ヲ以御用金被為仰渡、右金高直ニ其本人江永久御貸付ニ被為仰付難有御請奉申上候処、右金子貸渡候哉未何方江も貸シ不申候哉、委細書上可仕旨被仰付奉畏候、先達而追々奉申上候通、私義呉服商売仕罷在候処、近年甚不操合ニ付、商売物仕込金も他借等仕相持居申候仕合ニ而、當時金子甚払底ニ御座候故、未何方江も一切貸付不申候、當時殊之外逼迫仕罷在候得共、此末随分操合勘弁仕、少も貯金出来仕候ハ、其節者無油断御諸家方江貸渡候様可仕候、右之通聊相違無御座候間、右之趣宜被仰上可被下候、此段口上書ヲ以御断奉申上候、已上

天明六年午 五月朔日

越後屋八郎右衛門

出店預

久 兵 衛

惣御年寄中様

右之通相認、久兵衛持參差上申候処、何れも御詰合無之候間、

差置罷歸り候様下役中被仰聞差上罷歸り候

(九十三)

一京都店本状昨日到来、二条御藏御入用金ウシマ両当月三日当地御金藏の御請取被成候付、御藏手代權奥次郎殿罷下り被申、無故障御請取被成候上、此方江御渡例之通為替ニ而為御取登被成度段御頼之由ニ而、則皆式朱判ウシマ兩之御三判手形一通下り申候、且右奥次郎殿事大坂江初而罷下り被申候間、万端心添具候様、訛而御頼之由申来り候

一佐野備後守様若殿与八郎様御奥様於江戸表三月廿八日御安産、御男子様御出生被遊候由ニ付、右之趣京都江申遣、為御祝儀御着一折差上申候、尤此料金マ舟定、尤京都る恐悅御状下ル、依之右目錄今日久次郎持参差上申候

五月二日 晴天

金サシマ、チ入ウ厘々ウ入

銭ウ、エチ厘
肥後米林

一明日渡御為替金銀証文武通今日日文次郎持参、御月番江差上御書替手前江持歸り申候

一今暮半時過天潢西町牧野判四郎殿屋敷長屋出火有之、無程火鎮り申候、尤座敷向台所表門は別条無之、堀者打崩申候、就右見舞左之通

- 一酒三升、握飯一重、煮染一重 牧野平左衛門殿江
- 一酒三升宛 安井、河方、由比、安東江

右之通差送り猶又御見舞申候、尤牧判、牧平親類之由候

五月三日 晴天

金サシマ、チ入ウ厘ウ入 厘ウ入
肥後米林

一今朝御為替金銀為請取文次郎罷出左之通

(四十三貫五百目)

一ツシツメサ舟、手前 一ツシツメサ舟、十人組

シセメ、上田組

メ銀舟、渡り 内セシメ、小玉 八月六日上納

右之外臨時六十日限御為替皆式朱判左之通

一皆式朱判イ仙舟サシ兩 手前 一 上同イ仙兩 十人組

上同マ舟サシ兩 上田組

メ皆式朱判野仙サ舟兩 上納七月六日

右之通無故障請取申候付例之通為御届相廻り申候、尤先月十八日江戸上納相濟候御納札引替も相濟申候

一 二条御藏方御請取式朱判ウシマ兩權奥右衛門殿今朝無故障御請

取、直ニ手前江為替御頼被成候付、例之通御三判手形ヲ以請取

申候、尤御同人御用向相濟今夕舟ニ御帰京ニ付、為餞別饅頭五十差送り申候

一今初夜半時立売堀阿波橋北江入町出火在之候処、無程火鎮り申候

五月四日 晴天

金サシツ、るサ厘 厘サ厘々イ入
銭チ、ウ入サ厘々ウ、
肥後米林

一阿部能登守様御家中村田權左衛門殿、島村新兵衛殿御事、先月

廿三日御出京、八郎右衛門様、三郎助様、元之助様江為御土産龍門御上下一具宛御到来被遊并孫七郎江給帶地二筋御差越、孫七郎江御面談被成度候之間、木屋町三条上ル町御旅宿江罷越吳候様被仰聞候処、同人儀此節大坂店勤番ニ罷越、勿論於大坂表右御屋敷江罷出不申候付、致不快分同役共參上為致可申旨返書認遣、清太郎御旅宿江罷越懸御目候処、御酒御吸物御差出被成候上、御兩人被仰聞候者、年来且那方勝手向御世話相成、一同忝存候、是迄何角御無沙汰申置候上御頼申入候も氣毒存候得共、一昨年砂降領分大損毛、又候去年凶作ニ而必至と差支、当秋収納迄之所取統難出来、其上臨時物入等相嵩致難波、差当り(一千五百)当節句前弘方差詰申候、依之何共申兼候得共、當時金高イ仙サ舟而御調達之儀御頼被申入候、返済之儀者九月、十月兩度ニ無相違返済可致候、此段宜御頼申入候様能登守被申付候、彈右衛門上京御頼可申答此節公用ニ相懸り大坂難相離、万大夫上京之積支度致候処、時候相中其上差懸り候用向出来、不得止事拙者共罷登候、右兩人も何分宜御頼申入候様申之候段御演説ニ付、不取敢御断申達、御意重ク御座候条罷歸り主人共江申聞候上、尚又參上御断可申上旨程能申達罷歸り候

一右旅宿見舞為着悦左之通

一生着一折兩人宛 主中様方孫七郎

一干菓子一箱 清太郎孫七郎

右之通差送(由指)候、尤清太郎儀是迄右御屋敷江罷出不申候得共、何れ向後毎度罷出不申候而は相成申間敷ニ付、連名ニ而差送り候

段申来り候

一右御頼一件主中様方江申上、何れも相談之上何れニ素手ニ而之御断も相立申間敷ニ付、当五月切御用達金舟サシ(百五十)兩、元利引繼金高セ舟而御請可申上旨、先月廿七日清太郎參上御返答申上候得共、御聞濟無之候付、猶又何れも及相談候之処、強而右之通ニ而御断申切候ハ、氣障りにも可相成、其上当冬御渡シ物等ニ差支可申哉ニ付、詰り之所マツ舟而ハ調達不致候半而者相済申間敷ニ付、夫々日々旅宿江清太郎參上、段々御懸合申、前件舟サシ(百五十)兩元利引繼候而金高ツ舟而來ル十月切利足月イ歩イ之積り御用達申積り御対談相済申候

一右御兩人先月廿八日清太郎江生着一籠致到来候

一右御用談相済候付、御兩人共先月晦日夕舟ニ御帰坂被成候付、為饒別左之通

一數寄屋縮一反宛 主中様方屬子十本入一箱宛 孫七郎

一多葉粉入五ツ

右之通差送り候段申来り、着坂着悦状主中様方一通、孫七郎孫七郎も考通、清太郎も同一通、是者清太郎宅江權左衛門殿為挨拶御出ニ付着坂悦旁差下申候

一右之通御対談相済候間、御屋敷御案内次第度新調達金ツ舟(四百)兩之内当五月切舟サシ(百五十七)兩去十二月當五月迄之元利引繼殘金相納舟サシ(百五十七)兩之御証文差戻シ、改金ツ舟而之御証文申請候様本状(四百)申来り候

一右之通申来り有之候処、昨夕方村田權左衛門殿、島村新兵衛殿孫七郎

久次郎江手紙到来、此度於京都御頼申入候調達之内、当月（百五十七）切舟（二百四十）サシ兩元利致差引、殘金（六匁）今四日相納呉候様申来り候付、則致差引（二百四十）殘金セ舟ツシ兩、銀カ、今朝久次郎致持参候処、村田権左衛門殿御逢一通り御挨拶有之、右証文未御印形相揃不申候間、後刻（百五十七）自是証文為持遣シ可申候、其館下地之舟サシ兩証文殘金野舟（二百四十）ツシ兩、銀カ、引替相渡呉候様被仰聞候ニ付、承知之段御請申罷歸り候、然ル処八ツ半時過下役衆前件金ツ舟兩之御証文御持参致取引呉候様被仰聞候付、則久次郎懸御目候之処、彼是世話之段御挨拶之上左之通

預り申金子之事

金四百兩者

但文字金也

此利月巻歩壹疋

右者阿部能登守為要用預り申所実正也、返済之儀は当月限撰州知行所物成、米代を以元利無相違急度返済可申候、為其仍如件
天明六丙午年五月

- 三井八郎右衛門殿
- 三井三郎助殿
- 三井次郎右衛門殿

- 島村新兵衛印
- 原田五左衛門印
- 村田権左衛門印
- 岡孫右衛門印

三井元之助殿
前書之通相違無之候、以上

平田彈右衛門印

村田万太夫印

飯島茂太夫印

右之通御証文御渡被成候付、当五月切舟サシ兩御証文返上并正（百五十七）金セ舟ツシ兩と銀カ、御渡申、則利足請取書左之通
覚

一金百五拾九兩三歩 永百五拾文

内

金百五拾兩

元金

金九兩三歩

永百五十五文

右之利已十二月（百五十七）午五月迄月巻歩壹六ヶ月分

右者調達金元利御返済被下櫛請取申候、以上

午五月

杉本久次郎印

- 夕田弥太兵衛殿
- 関口大助殿

右之通相認遣取引相濟候付、則今夕京都店（百五十七）本状を委細及通達候

一寺井瀨兵衛儀、当地并若山御用向ニ付、今昼舟ニ罷下り無難八ツ時過致着坂候

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

五月五日 天氣風立 諸相場休日

一今朝御礼久次郎、文次郎罷出御而殿并御金方天満与力衆勤方之分夫々相廻り申候

一笠間御屋敷江孫兵衛、瀬兵衛、文次郎罷出候

一森繁平殿江今日瀬兵衛罷出、融通一件上ケ物并森印江挨拶之品も持参差送り、猶又本店筋右一件内意等申込候事

一今朝汗ふき 平熨とうふ 屋汗熨とうふ 鑰熨とうふ 鑰熨とうふ 平熨とうふ 酒有
熨とうふ 平熨とうふ 鑰熨とうふ 鑰熨とうふ 平熨とうふ 酒有
熨とうふ 平熨とうふ 鑰熨とうふ 鑰熨とうふ 平熨とうふ 酒有

五月六日 晴天 金サシツ、イ入 昼休
 錢チ、ウ入也 米相庭休

一今朝西方寺江半兵衛参詣ス

一上島大郎兵衛事当地并紀州御用向ニ付昨夕舟ニ罷下り、今朝無難到着、猶又瀬兵衛と万端示合有之候

一今日御金方手前、十人組并十人両替御呼出有之、五月十六日

上納之積金高七千工仙両、式朱判式割半差之積御買上入札被仰付候付、即答申上候は、先達而式朱判無差別と被仰出候付、小判難

相調御座候間、皆式朱判上納被仰付被下候様御願申上候處、未御金方江右体之儀相届不申候付、此度は式朱判式割半差之積上

納可致候、追而右願書差出可申旨被仰付候、彼は押合候上不得止事三組割合ニ申談、十人両替方は日々相庭書上乍致不念之段

御叱有之候、則割合左之通 書上相庭サシツ、イ入マ匣之所
 サ毛引下ケサシツ、イ入セ匣サ毛替

一金高七千工仙両 内イ仙エ舟両 手前 一番
 八仙エ舟両 十人組 二番
 マ仙エ舟両 十人両替 三番

右之通不得止事御請申上、則一同請書差上申候

一今晚店寄会相動、猶又取締之儀申談候上、井上氏勤柄行作等之

儀も孫七郎申談、將又店出入医師之内導引菅田改吉田兵部と申仁於表向不行儀之事共有之、且取替銀も余程有之候付、右之仁今夕相招右取替銀濟方之儀其外行作不宜候段も申談候處、向後急度相改可申旨申之罷歸り候

五月七日 天氣 金サシツ、イセ入 昼ツ、サ匣イ入
 錢チ、チ入カエ匣

七ツ時曇 今日建替 筑前米サシセ、サ入

一今朝六ツ半時備後町堺筋東江入北側疊屋二階出火有之候處、

右家限りニ而火鎮り申候、尤四町目手前抱屋敷風脇ニ而別条無之候

一今日佐野備後守様於御屋敷種村定右衛門殿御振舞有之候付、右

為御取持鴻池善右衛門殿并同所名代利兵衛、手前瀬兵衛、文次郎御頼ニ付罷越候、尤瀬兵衛初而御目見被仰付、分而御懇御意有之候、夜八ツ時前首尾能相勤罷歸り候

五月八日 雨降 金サシツ、イ入サ匣 昼ツ、サ匣
 錢チ、チ入エチ匣

筑前米サシセ、ツ入 実入ウ斗チウ升

一奥村次右衛門先頃不快罷在候處、一兩日別而相勝レ不申候付

京都より西三省様并本店田中嘉右衛門為見舞罷下り被申候
 一 上島太郎兵衛、寺井瀨兵衛今昼時出立、紀州江罷下り申候

五月九日 晴天

金サシマ、チ入サ厘ウ入 昼同事
 錢チ、チ入エチ厘
 筑前米サシセ、チ入

一 奥村次右衛門病症西三省様御覽被成候処、御見立爰元医師と差而相替儀も無之、次第快方可有之趣ニ付、三省様御儀今昼舟ニ御帰京被成候

一 井上伊織殿御事讃州より一昨七日御無難御帰坂ニ付為悦鱸三雙主中様方口上取繕久次郎持参、福屋弥十郎殿江向差出候処、則伊織殿御逢御叮嚀御挨拶之上、何分京都江宜為申登呉候様被仰聞候、尤御同人御事来ル十四日朝御出立陸地御旅行之積八幡江御参詣、同夜伏見泊り、十五日御出京之段御家来福屋氏相咄被申候、依之右之趣京都江申遣候

一 佐野備後守様御儀、今般両川口浚住吉浦新田開御用懸り被蒙仰候段森氏一昨日瀨兵衛江御咄有之候付、聞流ニも相成不申、則右之趣京都江も及通達、彼地も恐悦状取寄為御祝儀御肴料金^(三百)マ舟正右披露状一所ニ今日久次郎持参差上申候処、厚ク御挨拶被仰出、京都江宜敷申遣候様森氏御申聞被成候

一 田中嘉右衛門御用向ニ付出坂之由ニ而本店庄太郎同道入来、并井口、山中、宅々江も入来有之候

五月十日 雨降

金サシマ、ウ入サ厘ろツ、 昼同事
 錢チ、チ入チウ厘
 筑前米サシセ、エ入

一 渡辺九藏殿御事今日道明寺江参詣ニ付、文次郎為案内罷越候
 一 松浦弥二郎殿御事御用向ニ付、先達而大江江御登り、当六日御出京被成候由、然ル処近々之内御出坂可被成旨ニ而、今日孫兵衛、久次郎、文次郎江為御土産紅葉海苔式袋宛致到来候
 一 当節季賄方払之内ニ而引落貸方江引取候分、其外内請取之分左之通

一 サシサ、セ入セ厘 中川新七皆済 一 シ、鍵屋多兵衛内請取
 一 セシカ、チ入平井清左衛門内請取 一 シ、出入卯兵衛内請取
 一 シ、 出入儀兵衛内請取 一 セシ、和勢屋仁兵衛内請取
 一 セシ、 和勢屋新兵衛内請取 一 シ、 出入又兵衛内請取
 一 セシ、 天満屋内請取 一 シ、 出入平兵衛内請取
 一 舟、 三好門兵衛内請取 一 セシサ、 石井遊野内請取
 一 セシ、 堺屋与次兵衛内請取 一 セシサ、 布屋弥兵衛内請取
^(五百三十七宛)
 メサ舟マシエ、セ厘 当五月節季取立
 右之通取立申候

一 此度御買上金上納証文順席之儀、十人兩替之方御為替方より上席ニ相認、十人兩替を相認差上候付、為御伺御金方江久次郎罷出候処、十人兩替者御金方御支配ニ無之候付、何れ共急度難被仰付候得共、先御為替方上席ニ可有之儀ニ候、併此度之所者入札順番ニ致置可申候、已後之所者組々別証文ニ致可遣候間、此段兼

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

而相心得候様被仰渡候、尤此度之入札手前一番、十人組二番、十人兩替三番右之通ニ候得共、兎角十人兩替上席ニ可相成趣相見得申候付、猶相談之上迎も之儀躰と相糺置可然哉、依之近々森繁平殿江向先内意申込候積候

五月十一日 天氣

金サシマ、ウ入サ厘トツ、屋同事
錢チ、チ入エチ厘
筑前米サシセ、エ入

一抱屋敷之内古手町、槐木町、斎藤町、江戸堀一町目、二町目、玉水町、糺町、京町堀、奈良屋町、山本町、四郎兵衛町先達而一通り孫七郎見廻り候得とも、猶又今日半兵衛、彦次郎同道相廻り申候

五月十二日 天氣

金サシマ、ウ入ウ厘ツ、屋同事
錢チ、チ入サカ厘
筑前米サシセ、サ入

一今日相記候儀無之候

五月十三日 天氣

金サシマ、チ入サ厘
錢チ、チ入カ厘
筑前米サシセ、カ入

一井上伊織殿事弥明朝出立八幡御參詣、十四日夕伏見御泊り御上京被成候付、京都ノ差圖之通り銘酒三升入一樽、白繩卷樽ニして今日久次郎持参差送り申候処、御逢御叮嚀御挨拶被仰聞、何分京都江宜申遣候様被仰聞候、尤兼而陸地御旅行御積り候処、

俄ニ陸地相止、明朝御乗船、八幡御參詣、伏見御泊りニ相成候段福井弥十郎殿御咄被成候、依之右之趣京都江本状出口走りニ而申遣候、但右銘酒之儀余り宜酒無之候付、不得止
富士見酒ヲ三千年酒と致改名遣候事

一上島太郎兵衛、寺井瀬兵衛、紀州御用向相濟、今日無難致帰坂候、尤彼地願込之様子至極宜、何れニ近々御様子吉左右相知レ可申と之御事ニ候、依之上島太郎兵衛儀直ニ今夕乗船致帰京候、且田中嘉右衛門儀奥村氏病氣見舞旁罷下り居候処、病人も順快ニ付右上島氏同船ニ而致帰京候、寺井瀬兵衛儀者種村氏当十五日於大坂今宮神事并有氣被相祝候付用事有之、其上森繁平殿江も引合之用事有之候付、今暫逗留ス

一寺井瀬兵衛并竹内文次郎、笠間御屋敷江罷越ス

一今般御買上金之内式朱判之方今日於銀座包立候付、藤次郎持参、包立無故障相濟申候

一右同断後藤方包立役人今十三日昼舟に罷下、明十四日包立候筈ニ付、右旅宿上町岩田屋伝兵衛方江為挨拶藤次郎遣ス

五月十四日 曇天

金サシマ、チ入サチ厘
錢チ、チ入イセ厘
筑前米サシセ、エ入

一御買上金今日後藤旅宿上町岩田屋伝兵衛於宅包立無故障相濟申候、尤先格之通為挨拶虎屋饅頭百入一折遣ス、且手前ノ藤次郎罷越ス

一明後十六日御為替渡り高為伺久次郎罷出候処、仲間江銀舟（百貫目）、

御渡被下候様被仰渡候付、割合書付後明書付并先月廿六日当月六日江戸上納相濟候御納札七通御月番江差上、御書替十人組江持帰り候

一 明後十六日納金銀左之通

金舟マシマ両イ歩
(百三十三)

一 銀サ
(五匁)

一金サシ両
(五十)

一 銀チカカ舟
(八匁六百目)

京愛岩山感徳院拝借金
去巳年分返納
京漆間屋冥加金
去巳年分
京造酒屋冥加銀
去巳年分

ノ

右金銀今昼舟ニ京都店深井助九郎并出入男吉兵衛持下り、舟中無難今八ツ半時致着候

五月十五日 曇天

折々小雨

金サシマ□ウ入ルセ厘 昼ウ入チ厘
銀チ、チ入マツ厘
筑前米サシセ、エ入
(由緒)

一種村定右衛門殿御事於大坂今宮神事并有氣相祝被申候付、惣主中様方并三ヶ津名代共る祝物左之通

二 見輕台

金銀土器并
定紋付塗盃漆

一 鯖酢一桶
京名代連名
江戸名代連名
大坂

鮎雀焼 ふの焼玉子

ふくめ ふくの皮煮付

ふく溜 ふ酢漬

ふき 右ふ七種於大坂台ニ組器物具懸

生鯛一折 大坂調

右之通今日瀬兵衛、文次郎持参、主中様方御口上取繕差送り御取持申上候、尤孫兵衛不快不罷出候

一 今朝御礼久次郎罷出候、尤今日小田切様御屋敷江御城代様被為入候付、東様御方御礼不被為請候

一 明日渡御為替証文且京都御役所納金銀証文両通御月番江差上、御書替十人組江持帰り候

一 右之節先月廿六日当月六日江戸上納相濟候御納札之内、御印移り有之候付御断書左之通

覚

一 当午四月廿六日上納之内銀高九匁六百八拾五匁四分九厘七毛之御証文御印移り、同五月六日上納之内銀高六拾匁目之御証文し御座候得共、其俣御請取置被下候間、自然御勘定之節御差支之儀御座候ハ、其節於江戸表御認替願上引替候様可仕候、為其仍如件

午五月十四日

三井組名代
杉本久次郎印

右之通断書相認差上引替相濟申候

一 太田檢校殿事、昨昼舟ニ罷下り被申候事

五月十六日 雨天 金サシマ、ウ入ウ厘ツ、昼ウ入

銭チ、チ入マ厘
筑前米休日

一今朝御為替銀請取御買上金上納且又京都御役所納金銀等久次郎

持參無故障相納、御納札両通ニ申請、御買上金代り銀も無故障

請取、定式御為替銀舟(百貫目)、三組江是又無故障請取申候、則割合

左之通

(四十三貫五百目)

十人組

(四十六貫目)

手前

一ツシカメ、

銀舟(百貫目)、渡り高

内小玉銀(二十貫目)、

上納八月十八日

右之通無故障請取申候付、例之通為御届相廻り候

一京都御役所納金銀御納札両通今夕差登せ可申候、大雨ニ付出舟

無之候付、出舟次第明屋舟夜舟之内見合為差登申積りニ候

一寺井瀬兵衛、竹内文次郎、種村氏江昨日之為挨拶罷越候、瀬兵衛

儀者夫々森繁平殿江參り、本店融通一件御礼等之儀及内談候

一当午年中御為替ニ相渡り候小玉銀、丁銀ニ振替上納仕段於江戸

表御願申上候処、願之通被仰付候旨十人組江申来り候付、於当

地御金方江御届申上、左之通

覺

一当午正月十六日渡り追々奉請取候定式御為替銀高之内、小

玉銀当年中奉請取候分丁銀ニ振替上納仕度段、例之通於江戸

表奉願上候処、願之通被為仰渡候付、当四月十八日上納御証

文二小玉銀無御座候、清水様御銀之分者丁銀、小玉共上納仕

候儀ニ御座候、右之段御断奉申上候、以上

午五月十六日

三井組名代

杉本久次郎印

十人組名代

佐藤惣兵衛印

宛なし

右之通相認御届申上置候

五月十七日 昨夜中

雷雨降

金サシマ、ウ入チウ厘

屋ツ、
銭チ、チ入セマ厘
筑前米休日

一今晚寅刻長堀間屋橋北詰西角浜納屋材木置場出火、本家建江
火移候而家数四五軒焼失、六ツ半時火鎮り申候

一本店融通一件御礼之儀森氏江瀬兵衛及内談候処、不及其儀事ニ

候得共、夫ニ而ハ氣済不致候ハ、輕クして内々差出可申旨被申

候付、猶又内談之上左之通

御印 御紋付数寄屋縮五端、内浅黄二反、玉子一反、島二反

御肴代金(五十)仙疋、尤縮未出来不致候付、今日八目録ニ

而差上置、追而出来次第差上候積、金方直納

森印 定紋付同二反、御肴代サ仙疋、且御内証御子息江数寄

屋縮一反宛 但縮之方跡金方直渡

右之通今日瀬兵衛持參、繁平殿江懸御目差上候処、厚ク御挨拶
有之候、扱又右之節御為替組、十人而替順席之儀申込候之処、不
及申御為替方上席可有之候、併表向御申立候ハ、此方御金

方江申達候様可致候得共、内々之取計ニ候ハ、御金方ハ此元江被相尋候ハ、何時ニても御為替方上席之段可申達旨、猶此儀ハ杉本久次郎江可申談と被申聞候、右之外光林屋敷、鴻池縁談之儀等色々之御咄有之候由

一 融通筋一件ニ付残御用人、与力三人江左之通

(二十) 御用人 福島台右衛門殿 此兩人ハ八郎右衛門様、
一金イ仙疋宛 勝浦恒右衛門殿 次郎右衛門様御連名ニ而
差送り、本店ニツ割

懸り与力衆

安井新十郎殿 此三人ハ次郎右衛門様御
(五百) 松井官左衛門殿 一名八郎右衛門様分は
一金サ疋疋宛 安東丈之助殿 此間本店ハ差送り候由

右之通口上書相認、久次郎持参差送り申候

一 寺井瀬兵衛儀、紀州、笠間、森氏対談筋相済候付、今夕舟ニ致
帰京候

一 京都御役所納金銀御納札而通助九郎并出入吉兵衛為持、寺井氏
同舟ニ而為差登申候

五月十八日 天気 金サシマ、ウ入サ厘ツ、 昼同事

銭チ、チ入マツ厘
筑前米サシセ、也

一 御益様御儀被遊御安産御女子様御出生、御二方共御機嫌克御肥
立被遊候間、九郎右衛門様、伝蔵様宛御悦状差上可申旨京都店
ハ申来り候付、則右御歡状今夕為差登申候

一 松浦弥二郎殿御事当地并伏見御用向有之候付、今十八日京都御

出立、伏見御用向相済次第十九日夕舟ニ御出坂可被成候間、大
坂御逗留中先格之通相動可申旨京都店ハ申来り候

五月十九日 晴天 金サシマ、ウ入サ厘 昼同事

銭チ、チ入ハイ厘
筑前米サシセ、イ入

一 太田校校殿御事何角之為挨拶御出被成候

一 笠間御屋敷立文次郎御見舞申候

五月廿日 曇天 金サシマ、ウ入ウ厘ツ、 昼同事

八ツ時ハ雨降 銭チ、エ入ウ厘チ入
筑前米サシセ、イ入

一 松浦弥二郎殿御事今朝京橋二町目会所江御着坂之段、一ツ橋様
御用達播磨屋仁兵衛ハ為相知申候付、主中様方口上取繕、生着
一折今日文次郎持参差送り申候

一 右御同人今日店表江御入来、何れも懸御目候
一 孫七郎今朝ハ伊丹江罷越、七ツ時前致帰店候

五月廿一日 曇天 金サシツ、イ入ハサ厘 昼同事

折々晴 銭チ、エ入エチ厘
筑前米サシセ、ツ入

一 明後廿三日御為替渡り為同、久次郎罷出候之処、仲間江銀舟(百貫)
目、御渡可被下旨被仰渡候、則割合後明書付御月番江差上申候
一 松浦弥二郎殿立 着坂為悦今日久次郎罷越候

一 今朝津久井武兵衛殿店表江入来、後刻種村定右衛門殿御入来可

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

被成候間、輕キ支度差出シ具候様被仰聞候付、御請申上候、尤津久井氏無程御歸り被成候、種村御氏八ツ時御入来ニ付店座敷江御通申、支度酒等差出シ、孫兵衛、文次郎御挨拶申候、尤家来衆江も支度酒差出申候

一村田万太夫殿御子息權左衛門殿死去之段承候付、為御悔今日万太夫殿方江久次郎罷越候

五月廿二日 曇天

金サシツ、イ入ルサ厘 昼同事セ入
 錢チ、エ入エチ厘
 筑前米サシセ、サ入

一明日渡御為替銀証文久次郎持參御月番江差上、御書替者上田組江持歸り申候

一今夜亥刻天満天神正遷宮有之候、并座磨末社稻荷遷宮、且博勞町之社も今日遷宮有之候、何れも相応ニ參詣有之候

一種村定右衛門殿、渡辺九藏殿御事当地御用向相濟、明廿三日御出立、昼七ツ前後御乗舟、山崎へ御揚長岡天神江御參詣、乙訓寺江御參詣、廿四日夜伏見御泊、翌廿五日宇治江御廻り、同日遅ク候而も京都御着之積り御登り被成候、尤太田檢校殿も御一所ニ御登被成候、依之大坂名代餞別左之通

一團扇七本箱入 種村氏 一扇子五本一包 永松伊兵衛殿
 一有馬花山椒二曲 渡辺氏 一御肴一折 太田檢校殿
 一同三本入箱入 但於京都料物ニ而差送り候
 右之通為持差送り、猶又為御暇乞罷越候

五月廿三日 雨降 金サシツ、マ入サ厘セ入 昼イ入マ厘
 錢チ、エ入チウ厘
 筑前米サシセ、サ入

一今朝御為替銀為請取久次郎罷出左之通

(四十六貫目) 一ツシカメ、 手前 (ツシマメサ舟、 十人組)
 (一貫五百目) 一ツシカメ、 上田組

(五貫目) 銀舟メ、渡り高 内セシメ、小玉 八月廿六日上納
 右之通無故障請取申候付、為御届例之通相廻り申候

一今日店影待相祝候、茶食 汁もそく 平ひりやうす 肴賣身
 一孫村氏、渡辺氏并太田氏共弥今八ツ時御乗船被成候付、舟場迄孫兵衛御見送り申、文次郎儀は鯛鮎味噌漬一桶持參致御供、先山崎迄罷越候積りニ候、尤京都を為御出迎山崎江五十川清太郎

罷出候積り之段、兼而京都を申来り有之候付、於山崎清太郎、文次郎相談之上文次郎儀京都迄も致御供可罷越哉、又は山崎限ニ而罷歸り可申哉、兎角山崎之模様次第第二兩人相談之上相極申積りニ而罷越候

一井上伊織殿御事、当月九日京都御出立御帰府被成候段、此間京都店を申来り候

五月廿四日 天氣 金サシツ、マ入サ厘セ入 昼セ入セ厘
 錢チ、エ入チウ厘
 筑前米サシセ、セ入

一今日相記候用向無之候

五月廿五日 晴天

金サシツ、セ入サ厘 昼同事
銭チ、エ入イセ厘
筑前米サシセ、也

一五十川清太郎、種村氏為出迎橋本山崎江相廻り、同所ニ止宿
相待居候処、昨廿四日朝五ツ時前着舟、久々ニ而懸御目候、夫
ろ所々御參詣被成候、兼而は昨廿四日夕伏見御泊り之積り有之
候所、御着早ク御座候付俄ニ宇治御泊りニ相成候、翌廿五日同
所御發駕、所々御參詣、廿五日夜初夜時前京都御着被成候、尤
清太郎、文次郎も致御供、京都迄罷越申候

一初齋出候付御而殿江二本宛、両御家老衆三軒、同御用人衆四軒、
笠間御屋敷三軒江一本宛差送申候

一天満天神正遷宮御座候而、今日は天氣も宜參詣夥敷、諸方ニ作
り物俄ねり物、夜分者大坂中一同家並高挑燈差出、浜側橋々一
同右同断、段尻斬子杯も有之、參詣人日之内ハ勿論、夜分迄も
不怪致群集候事

一今日道明寺代參庄次郎、供男又兵衛罷越ス

五月廿六日 天氣

金サシツ、セ入セマ厘 昼同事
銭チ、エ入ウ厘チ入
筑前米サシセ、

一宗義様二十三回忌御祥当ニ付、西方寺江本店吉太郎、両替店ろ
喜三郎參詣ス

一明後廿八日北野播宇於座敷伊勢講相勤申候段、当番林源兵衛、
渡部新右衛門ろ廻文来ル

五月廿七日 晴天

金サシツ、イ入チウ厘 昼セ入サ厘
銭チ、エ入サ厘
筑前米サシセ、也

一種村定右衛門殿、大坂御逗留中生齋御所望被成候処、未其節者
出不申候、然ル処一昨日ろ出申、今日二番齋之由ニ而着屋致持
參候付、御同人江致進上候積りニ而、生齋五本陸地走り出入儀
兵衛ニ為持京都店江為差登申候

一松浦弥二郎殿ろ見世中江為見舞深代寺蕎麦、組有一重、切作一
重今日致到来候付、為御礼久次郎分罷越

五月廿八日 晴天

金サシツ、セ入イ厘 昼セ入ツサ厘
銭チ、エ入カ厘
筑前米休日

一戸川鉄藏様当地用達佃屋吉兵衛方ろ今般鉄藏様江片桐石見守様
御妹御縁組御願之通被仰出候段為相知来り候付、則右之趣京都
江申遣候

一孫七郎、今日住吉御田植井堺生船為見物罷越、暮時過罷帰り候
一伊勢講江孫兵衛、半兵衛、久次郎罷越、本店ろ庄右衛門、藤兵
衛、吉次郎罷越被申候

五月廿九日 晴天

金サシツ、セ入サ厘 昼同事
銭チ、エ入チ厘
筑前米サシイ、チ入

一松浦弥二郎殿江一昨日到来物為挨拶生齋二本、今日孫兵衛、久
次郎、文次郎ろ手紙相添差送り申候

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

六月朔日 曇天 金サシツ、セ入サ厘 昼同事

小雨 筑前米休日

一今朝御礼久次郎罷出申候

一竹内文次郎、種村氏勤方相濟昨夕舟ニ罷下り、今朝無難致掃坂

候、尤於京都主中様方店々江当春御役替被仰付候為御礼相廻り

候、尤御持分於南御宅御酒被下置候上、御上下一具致拜領候

一当月御月番小田切土佐守様、御金奉行寺尾善左衛門様御勤被遊

候、尤下シ番手前也

一今朝餚大根汁な 平焼こもふ 昼汁ふき 焼物あし 夜肴長いも

一松浦弥二郎殿御事当地御用向相濟、明朝陸地御旅行杖方御泊、

三日伏見御泊り、四日大津御着之御積り御登り被成候、依之名

代共暇乞相動輕キ煮肴一折差送り申候

六月二日 雨降 金サシツ、セ入マ厘 昼セ入ツサ厘

折々晴 銭チ、チ入イ厘 筑前米サシイ、チ入

一昨日井川善助店々申来り候は、加州御屋敷江貸付有之候御印質

米年賦証文差出候様申越候付、今日久次郎并新太郎罷越、善助

江致面談候処、已来御印之方式朱之利付、質米之方吉朱之利付

ニ而、下地之御証文御用ひ此度御紙被成、当時御役人御仕法

之衆中御印形被成候段申聞候付、直ニ今日御紙被成下候哉と

相尋候処、今日は御用多候間、来ル六日四ツ時又々罷越候様被

申聞候付、右御証文之写両通差出、猶御仕組置被下候様相頼、

扱御元入之儀相尋候処、此儀當時ニてハ一向相分り不申候、御

勝手相直り候ハ、御繰合次第相渡り可申哉、先當時之姿ニてハ

年々利足計御渡被成候御積り之由、猶存寄有之候ハ、追而相願

可然旨被申聞候付、程能及挨拶引取申候

一右之利足算用於此方致見候処、左之通

御印方 (二百六十六貫百石) (二歩)

一残銀七舟カシカメ舟、年七朱 (五貫三百二十二石)

一ケ年利足サママ舟セシセ、

米質方 (九百二十一貫三百四十八石九分九厘) (一石)

一残銀ウ舟セシイメマ舟ツシチ、ウ入ウ厘ウ毛 年イ朱 (九貫二百三石四分九厘)

一ケ年利足ウメセ舟シマ、ツ入ウ厘 (十四貫五百三十五石四分九厘)

メ利足計シツメサ舟マシサ、ツ入ウ厘

右之通相当り候、右者先達而及承候御仕法宜相成候付、牧

印之移りニても有之、右之通宜相成候儀と存候付、猶又近

日牧印江久次郎罷越候而、右之挨拶且御元入願方等之儀も相

尋申積りニ候、依之右之趣京都店江も委細及達違候

一松浦弥二郎殿許今朝御出立被成候

六月三日 雨降 金サシツ、セ入サカ厘 昼セ入サ厘

銭チ、チ入也 筑前米サシイ、チ入

一明後五日渡り御為替為同文次郎罷出候処、仲間江銀舟メ、御渡

被下候答付、則刻割合書付後明書付等御月番江差上申候、且右

之節先月十八日江戸上納相濟候御納札四通御月番江差上、御書替手前江持歸り候、然ル処右御納札之内式通、墨付一通、御印移り一通有之候付、例格之文言ヲ以御断書差上引替相濟申候

一今日佐野様於御役所御種人參代金御為替被仰付、手前請取番ニ付文次郎罷出、左之通

- 一 金セ仙サ舟ウ兩イ歩 (二千五百九) 六月三日請取
- 一 金セ仙サ舟ウ兩イ歩 (二千四百五三) (五)
- 一 銀シセ、サ入マ厘サ毛 (五) 七月廿六日上納

- 内
- 一 二千五百四 (三) 手前
 - 一 一仙舟サシツ兩マ歩 (二十九)
 - 一 一仙ウシ兩 (二)

- 一 十人組 (十二及五分三) (五)
- 一 一セ舟カシツ兩セ步 (二百六十四) (二) 上田組

右之通割合手形差上申候、尤十人組、上田組之手形も一所ニ文次郎持參差上、外組も罷出不申相濟申候、但此義先格ニ而有之由

一本川九十九殿江先達而ニ才計之男子養子致入家被申候付、京都江申遣主中様方る為祝儀肴代金セ舟疋、名代る守袋一ツ、饗節一連差送り申候、尤主中様方る之御悦状は京都る御肴一折と認入有之候御状ニ付、一所ニ為持遣候

六月四日 曇天 金サシツ、セ入マツ厘 昼セ入ツサ厘
 銀チ、エ入ウ厘チ入 鉄前米サシイ、チ入 昼時過晴

一明日渡相為替証文今日文次郎持參御月番江差上、御書替手前江持歸り申候

一本川九十九殿御事、御内用有之明朝出立江戸表江罷下り被申候付、先格之通為餞別金セ舟疋名代る差送り御暖乞相勸申候、尤御内用之由ニ付、当地限ニ而京都江不申遣、勿論主中様方る之御餞別も差送り不申候得共、江戸表江ハ右之趣及通達候

六月五日 天氣 金サシツ、セ入カ厘 昼セ入マ厘
 折々曇小雨 銀チ、エ入カ厘 鉄前米サシイ、セ也

- 一今日御為替銀為請取文次郎罷出左之通 (四十三貫五百目)
- 一 銀ツシカメ、手前 一 銀ツシマメサ舟、十人組 (四十六貫目) (十貫五百)
 - 一 銀シメサ舟、上田組 (百貫目) (二十貫目)
 - 一 銀舟、内小玉セシメ、上納九月六日

右之通無故障請取申候付、例之通為御届相廻り申候

六月六日 天氣 金サシツ、セ入エチ厘 銀チ、エ入カ厘 鉄前米サシイ、チ入

一南都御役所御為替銀三貫六百目、壹貫貳百目、先月廿六日江戸上納無故障相濟、御納札右之通ニ通為差登、外組も同様致到着候、此度之引替番手前江相当り候付、外組御納札一所ニ取集、今朝文次郎出立、南都御役所江手形為引替罷越候

一加州御印質米手形紙之儀、当月二日之所ニ相記有之趣昨夕牧

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

野平左衛門殿江久次郎参上委細御咄申、猶又相頼候処、先達而右之儀被申聞候節井川善助江一通り相咄候処、其後未拙者へハ何等之返答も不申聞候、然ル処其元江直々ニ引合、此度仕法之趣繼紙致相濟候様相成候ハ、跡々之為ニ相成申間敷存候、何れニも井川方ハ此方へも一応申聞候上、手形繼紙被申請候方可然旨牧野氏被申聞候付、今日加州御屋敷江久次郎参上、今日手形御繼紙被成下候御儀ニ付、今一応井川方江引合申度儀御座候間、暫之所御延引被下候様御断申上候処、左候ハ、得と引合相濟候上ニ而宜旨御申聞被成候、右牧野氏御申聞之趣内々井川方心得ニ相咄置可申と、久次郎同人方へも参り候処、折節京都江登り申候由ニ付、不得止事加州御屋敷江直ニ御断申上候

一今晚当店月並寄会相勤候

六月七日早朝大雨

金サシツ、セ入カエ厘 昼休
 銭チ、エ入エチ厘
 筑前米休日

一御種人参代金御為替割其外遊金都合皆小判千六百五拾両、今夕飛脚便りヲ以京都店江為差登申候

一昨夕寄会之節御屋敷方名代大蛇之目傘之儀并居風呂屋時過る初夜四ツ過迄も仕廻不申候付、已後風呂始方屋八ツ半過る始可申旨、且爰元店ニ是迄消炭一切相見得不申候付、此儀等申談、将又秋季下男一人減シ候而不苦間敷旨申談置候事、右跡ニ而井口氏江孫七郎の内々合申儀有之候事

六月八日 雨天

昼半時入止曇

金サシツ、セ入チ厘 屋マ入サ厘
 銭チ、エ入エチ厘
 筑前米サシセ、カ入

一竹内文次郎儀、京都御役所御納札引替無滞相濟、今暮時過無難致帰坂候

一戸崎おいく死去、今日葬式有之候、藤次郎儀内縁も有之候付、何角兼帯之心持ニ而差出候

六月九日 天気

七ツ時過る雨天

金サシツ、マ入マツ厘 昼同事
 銭チ、エ入エチ厘
 筑前米サシセ、ツ入

一一種村定右衛門殿、渡辺九藏殿御事京都御用向相濟、昨朝祇園会山鉾御覽之上昼時出立、木曾路御旅行道中十四日経、来ル廿日御着府之御積り御帰府被成候、尤為御見送り之儀茶屋鴻池名代加納迄罷越候付、清太郎儀も不得止事同所迄見送り申積り之段申来り候

一今日店々寄会於本店相勤被申候付、孫七郎、孫兵衛、半兵衛、久次郎、文次郎罷出候、差而相替相談も無之候、尤式目京都月並御寄合之通

料理 汁からしも 平青蔵 焼物うなき 塩いり肴
 焼ねぎ 肴のやき 岩茸

六月十日 雨降

金サシツ、マ入サカ厘 昼同事
 銭チ、チ入イ厘
 筑前米サシセ、サ入
 (二十五貫目)

一伏見町加賀屋四郎兵衛方江御印セシサメ、右同町掛屋敷二ヶ所

為引当請取置候処、右ニケ所此節外方江(二十貫目)セシメ、之家質ニ差入
(二十貫目)正銀セシメ、相渡可申候間、(五貫目)残銀サレ、致用捨呉候様申越候、
 依之色々懸合見候得共、是非サレ、致用捨呉候様押而申間候付、
 不得止事明日致出訴候積リニ而、夫々江相届置申候処、今夕夜
 ニ入候而右町内会所ノ老人罷越候而、右一件今一応致相談度筋
 有之候間、明日御出訴之儀御見合被下候様申来り候付、先明日
 之所者見合可申旨申遣候

六月十一日 雨降

金サシツ、マ入カ厘 昼同事
 銭チ、エ入ウ厘チ入
 銭前米サシマ、イ入

昼時止曇

一 加賀屋四郎兵衛方ノ手紙ニ而鈴鹿屋利 利足請人ニ為致可申候
 間、家質ニ引直呉候様申越候得共、家質ニ引直候時は布屋濟方
 無覚束、其上利足請人不宜候付不承知之段及則答、弥明日致出
 訴候積り夫々江相届申候

六月十二日 天氣

金サシツ、ツ入イセ厘 昼同事
 初夜過、大雨雷鳴
 銭チ、チ入イセ厘
 銭前米サシマ、マ入
(二十五貫目)

一 加賀屋四郎兵衛方御為替滞銀セシサレ、弥今日御訟訴申上候、
 則願書左之通

乍恐書付を以奉願上候

一 御為替銀之内銀高式拾五貫目伏見町加賀屋四郎兵衛、同手代
 太助両判手形ヲ以、去巳十月廿日限相究御銀相渡置候処、日限

相濟不申候、尤為引当同町同人家屋敷ニケ所書入ニ取置申候、
 乍恐右之者共被為召出相濟候様被為仰下候様奉願上候、以上
 但加賀屋与左衛門儀は請人ニ御座候付、相手取不申候
 天明六年午六月十二日
三井組名代
 杉本久次郎印
 御奉行様

右之通相認御願申上候処、阿部領左衛門殿御申間被成候者、加
 賀屋与左衛門儀家屋敷書入証文ニ致連判罷在候得は、証人加判
 而様之内ニ而相手取相願候筋ニは無之哉と御尋ニ付、久次郎則
 答申上候は、与左衛門儀は家屋敷計之致加判候付、相手取不申
 候と申上候処、然は其趣致加筆可申旨被仰候付、右但シ書之処
 今日加筆ニ而御濟被下候、無程御前江双方被召出御定法之通
(目取)六十限相濟可申段土左守様被仰渡候付、御札申上退出、即刻御
 勝手江も為御礼罷出候、且遠国方御役所江先格之通書付相認御
 届申上候、則左之通

覚

一 御為替銀之内銀高式拾五貫目、伏見町加賀屋四郎兵衛、同手
 代太助両判手形ヲ以御銀相渡置候処、相濟不申候付、今日奉
 願上候、依之御届申上候、以上

午六月十二日

三井組名代
 杉本久次郎

宛なし

右之通相認差上申候、尤前件加賀屋与左衛門事銀証文ニ印形無
 之候而も書入証文ニ印形有之候上ハ、其方願方次第ニ而連判証

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

人加判、何れニ相願候而も当人同様濟方日限等被仰付候事ニ候得共、其方々相手取不申候趣ニ候得は、其通り之儀と阿部領右衛門殿先刻御前被仰渡前被仰下候得共、差掛り致方無之候付右之通但シ書相認差上候由、將又文次郎儀是迄右体出訴之節罷出不申候付、今日為手習久次郎同道初而右一件ニ罷出候

一右加賀屋与左衛門相手取、御願申上候善之処、全手前心得違ニ而願書江与左衛門名前書加不申候、依之猶又相談之上四郎兵衛同様御日限被仰付、無相違皆濟仕候様御召出被仰付候様、猶又御願申上候積リニ候、依之与左衛門町内江も改相届申候

六月十三日 大雨降

金サシツ、ツ入カエ厘 昼サ入イセ厘
銀チ、チ入サカ厘
筑前米サシツ、

一右加賀屋与左衛門願書相認、今日東御役所江久次郎罷出、阿部領右衛門殿江内々入御覽候之処、難相分趣被仰、彼是隙取今日之御召出間ニ合不申候、依之又々明日罷出申積リニ候

六月十四日 晴天

金サシツ、ツ入サチ厘 昼同事
銀チ、チ入ツ厘
筑前米サシマ、サ入

一明後日御為替渡り高為御伺、今日文次郎罷出候処、仲間江銀舟(百貫目)御渡被下候善ニ候、則割合書并後明書付等差上申候、且右之節先月廿六日江戸上納相濟候御納札五通御月番江差上、御書替十人組江持帰り申候

一前件加賀屋与左衛門願書弥今日差上左之通

乍恐書付ヲ以奉願上候

一御為替銀之内銀高式拾五貫目伏見町加賀屋四郎兵衛、同手代太助両判手形ヲ以去已十月廿日限相究御銀相渡置候処、日限相濟不申候、尤為引当町同人家屋敷式ヶ所、道修町老町目加賀屋与左衛門連判書入ニ取置申候、然ル処昨十二日右四郎兵衛、同手代太助兩人被為召出相濟候之様被為仰付被下候様奉願上、与左衛門儀相手取不申候様奉申上候付、右兩人御召出六十日限被為仰付被下、難有奉存候、併右御日限家屋敷ニ而御銀不足仕候ハ、下ニ而对談難行届奉存候、何卒右与左衛門御召出、四郎兵衛同様御日限無相違皆濟仕候様被為仰付被下候様、尚又奉願上候、以上
天明六年六月十三日 三井組名代 杉本久次郎印

御奉行様

右之通御願申上候処、御前江双方御召出、四郎兵衛同様六十日限濟方被仰付、目安方於御役所請書印形御取被成候、尤御懸り阿部領右衛門殿ニ候、尤願書昨日差上候姿ニ而今日右之通被仰付候

一佐野備後守様御姫様、室賀老岐守様江御入御座被遊候御方、当月三日於江戸表御死去被遊候由ニ付、其段京都店江申遣、先格之振合ヲ以御菓子一折差上申積リニ候処、漸一日之御慎ニ而御出勤、明朝御礼も例之通御請被遊候付、上田方申合、上ヶ物者勿論、御悔ニも罷出不申承流シニ而相濟申候

六月十五日 晴天

金サシツ、ツ入ウ厘サ入 昼ツ入チ厘
銭チ、チ入セマ厘
筑前米サシマ、サ入

一明日渡り御為替証文今日文次郎持参、例之通御月番江差上、御書替十人組江持帰り申候、尤先月廿六日上納相济候御納札引替も相济申候

一今朝御礼文次郎罷出候

一出雲、肥前、阿波御蔵屋敷稻荷御神事ニ付、何れも夥敷作り物有之、参詣群集ス

一今夕月並之通酒出ル、尤肴 調撫煮 玉子よの焼 右之節当店井口氏初若キ者、子供ニ至うかい之節杓直ニ口江付うかい致候者六七人も有之、其上清キ手水たらい、金たらゐ江直ニ足入あらい候者共も有之候付、右之儀今夕井口氏初支配人中江も申談候上、風呂場江左之通板ニ而為相認差出置申候

うかひ之節口江杓直ニ付候儀堅無用并金たらい江直ニ足差入あら
ひ申間敷事
午六月

右之通為相認差出、猶又一回江申談置候

六月十六日 曇
金サシツ、ツ入セ厘 昼同事
正九ツ時 銭チ、チ入マツ厘
月帯九分戌亥 筑前米休日

一今日御為替銀、為請取文次郎罷出左之通

(四十六貫目) 手前 一ツシカメ、 上田組
(四十三貫五百目) ツシマメサ舟、 十八組
(十貫五百目) シメサ舟、

銀舟、内小玉セシメ、 上納九月十八日

右之通無故障請取申候付、例之通為御届相廻り申候

一阿部様御用人村田万太夫殿并御勝手方元々來る書状相添、先達而御用達金御請申上候付、左之通

一金マ舟疋宛 (三百) 八郎右衛門様 一金マ舟疋 (三百) 深井孫七郎
三郎助門様 次郎右衛門様 (五百) 一 金サ舟疋 五十川清太郎
元之助様

右之通被下置候付、御礼状京都認來り候付、内見之上右ニ而宜存候付致封メ夫々相届申候

一今日御靈宵祭屋料理 汁菜 平鍋搦入 酒なし

一土岐様御屋敷粟田唯右衛門殿御事病氣ニ付退役被仰候由、跡役未相知不申候付、高池三郎兵衛る知ス

六月十七日 晴天 金サシツ、ツ入エチ厘 昼休
銭チ、チ入セマ厘
筑前米休日

一御神事当日朝汁葱子 平午尻 竹子 昼汁 體さくら 鱈朝うり
平鍋てんぷら 焼生巻 酒無 夜食茶漬 夜酒 午尻しらか
生かき 井鉢 櫛煮 錫鉢 朝うり
観蓋巻き 納豆 粉豆 ひわ

右之通之料理方ニ而表江挑燈出シ、手前見世常之通暖簾懸ケ、当日は天秤仕廻相休申候、尤客無之故前ニ掃除と申候様成義も無之候、屋三好門兵衛并出入男四、五人押懸ケ参り、夜分酒之節門兵衛、平五郎兩人見得申候、別宅之内山中氏入来ニ候、右夜酒計、見世ニ而若キ衆一同吸物差出、朝昼者台所ニ候

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

※(欄外書)
「地車拾三番餽大較四番有之」

六月十八日 晴天

金サシツ、マ入チ厘ツ入 屋セ入セマ厘
錢チ、チ入セマ厘
筑前米サシマ、サ入

一 伏見町加賀屋次右衛門、同九郎兵衛家質銀三口、追々利足相滯候付色々致対談候得共相渡シ不申候付、不得止事元利共致出訴候積りニ相極、昨十七日同町会所江も相届置申候

一家質元銀拾八貫五百目

加賀屋次右衛門

滞利足壹貫貳百七拾貳匁八分

一同元銀拾七貫目

加賀屋九郎兵衛

滞利足九百九拾四匁五分

右二口次郎右衛門様直御名前前二付、出店預り喜三郎罷出候積り、則家守藤次郎奥印之訴状相認、昨日伏見町会所江為持遣し、今日及出訴候旨相届置候

一家質元銀拾七貫目

加賀屋次右衛門

滞利足壹貫百六拾九匁六分

右者阿波屋伊兵衛名前前二付右之趣訴状相認同人方江為持遣、町内届等相済申候、出訴之節同人直ニ罷出申積

右為出訴弥今日東御番所江喜三郎、阿波屋伊兵衛罷出候所、於御前例之通来月十八日迄之内下ニ而対談相済候ハ、其通、若相済不申候ハ、来月十八日双方罷出対決被仰付候段御裏御印被下置候付、則伏見町会所江兩通共店庄助ニ為持遣請取書取置申候、

尤右訴状御用帳ニ留有之、此所略之ヌ

一 爰元店ニ而炭薪等相調候節、是迄目方等相改候様子見請不申候付、支配人中江相尋候処、炭薪とも凡一間ニ炭三十俵、薪二十貫目持十五荷宛出入方ニ売上ケ候由ニ而、炭一俵之目方何程有之候哉存候者、支配人中者勿論賄方并男頭等も同前ニ付、薪之儀目方改候哉之段相尋候処、是迄相改候儀無之只一荷貳拾貫目持と心得罷在候而已之由、依之炭薪共為取出目方相改候処、(六貫五百目)之儀と相見得、正目有之も有之、又サメウ舟、カ俵(六貫三百目)カセ舟、カメマツ舟、位之方多有之候、俵数五俵之内右之通段々不同有之候、薪之方一荷凡六束持と相見得申候付、右之積りニ而目方相改候処、六束ニ而シエメチ舟、シエメチウ舟、シチ(十七貫八百目)カセ有之、凡式割余之欠ニも相当り可申候、右ニ付米之儀并燈油、酒、醬油等之儀も相尋申候処、飯米は一石宛ニ定、升目改請取申候由、其外酒、醬油、燈油等ハ樽詰ニ而先方ニ持来り候俵之由ニ候、右之通仕来り余りはつと致候儀ニ付、已来炭薪共目方相改被申、其外樽詰之類も夫々氣ヲ付相改被申候様支配人衆、賄方江も申談置候

六月十九日 晴天

金サシツ、サ入セ厘 屋サ入ツサ厘
錢チ、チ入セ厘
筑前米サシマ、エ入

一 今日相記候用向無之候

六月廿日 天氣 金サシツ、サ入 屋ツ入セマ匣

今晚六ツ前大白雨 錢チ、チ入イセ匣
筑前米サシマ、サ入

一京都両御役所御入用銀式拾貫目来ル廿三日爰元御金藏の御請取被成候付、右御証文并写御添簡等京都店出入男吉兵衛、甚兵衛昨夕舟ニ持下り、今朝無難着、前件御証文御添簡等相改請取候、右出入男兩人共直ニ今夕舟ニ帰京ス

一右之節当地御屋敷江京都主中様方之暑氣御見舞御状当月廿五日之日付ニ而、右御証文便リニ持下、是又請取申候、尤御書物等之儀例之通本状通達別紙書拔ヲ以委細申来り候

一右之節笠間御家中杉浦大藏殿御親父素為殿、同舟ニ而御出坂、当店江入来ニ付文次郎御挨拶申、軽キ支度差出申候、尤当地毛利石見守様御蔵屋敷御留守居ニ而御逗留被成候由ニ候

一大脇利左衛門殿当店江無抛金高ツシ而預リ置候处、御同人今日入来、右金子此節入用有之候間、不残相渡具候様被仰聞候付、喜三郎懸御目預リ手形引替相渡申候、彼是世話之段厚ク挨拶有之候

六月廿一日 天氣 金サシツ、マ入チ厘ツ入 昼休

夕方冷氣 錢チ、エ入チウ匣
筑前米サシマ、チ入

一明後廿三日渡御為替為何久次郎罷出候处、仲間江銀高舟^(百貫目)、御渡被下候様被仰渡候付、則割合書後明書付等差上申候、且又右之節当月六日江戸上納相濟候御納札三通御月番江指上、御書替

上田組江持帰り申候

一右之節京都両御役所御請取銀式拾貫目之御証文写一通御月番江差上置候

一今日上難波官御神事ニ付、地車五番饒大^ニ轍^ニ五番有之候

六月廿二日 曇天 座摩御神事諸相庭休

冷氣拾單物着

一明日渡御為替銀証文并京都両御役所御請取銀式拾貫目之御証文等今日久次郎持参、御月番江差上御書替手前江持帰り候

一今日本店神事ニ付、昨日当店支配人中宛本店支配人中手紙到来、今日店表神事有之候、差而不珍、殊ニ御存知之通御德意方御入来ニ而致混雜候得共、深井様御在坂之御事ニ御座候得は、宜御申入被下、御指合無御座候ハ、何れも様被仰合、夕方御凌旁御出可被下候、右之段別宅中も宜敷申進候様被申之候、右得其意如斯御座候、以上

六月廿一日

右之通申来り候付、則答見合、参上可致旨程能返書相認遣し置候、右之儀是迄例格申来り候哉之段相尋候处、是迄本店神事ニ付右躰之手紙到来候儀皆而無之由、然ル処先頃中西庄右衛門殿当店山中氏江相咄被申候由、深井氏在番中御酒ニ而も進申度旨、兼而奥村氏被申居候处、自身病氣店表^ル彼是用事多、段々致延引候旨御申聞ニ付、山中氏程能挨拶被申、御神事之節見世之景

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

氣見物ニ被參候様成儀可宜哉と返答被申候儀有之候由ニ付、全右之趣意ニ而申來り候儀と被存候、然ル処勤番之儀当年限と申候ても無之、殊ニ是迄爰元店江別段呼手紙參り候例も無之、已來之當り障りニも可相成哉ニ付、今日夕方無拋用事有之趣申立程能断申遣し候事

一今日座摩御神事為拜見、村井新十郎出見世江罷越候、但地車三番大轍一番其外ナガシ等有之候

六月廿三日 天氣 金サシツ、セ入ツサ厘 昼同事

昼七ツ時過大地震兩度 錢チ、チ入イセ厘 筑前米サシツ、エ入

一今日御為替銀為請取久次郎罷出、京都兩御役所御請取銀共無故障請取申候、則左之通

(四十六貫目) 一ツシカメ、 手前 一ツシマメサ舟、 十人組
(百貫目) 一シメサ舟、 上田組

メ銀舟、内小玉銀セシメ、 上納九月廿六日
(二十貫目)

一銀セシメ、京都兩御役所御請取銀
右之通無故障請取申候付、例之通為御届相廻り候、尤右之節當月六日江戸上納相濟候御納札引替も相濟候

六月廿四日 雨天 金サシツ、マ入セ厘 昼休

折々晴 錢チ、チ入セマ厘
今已五朝土用入 筑前米休日

一今朝せんさい餅 平搦豆腐 屋常之通ニ候
今真刻已後地震西二度 ますひ

一天神宵祭ニ付例年之通笠間於御屋敷御酒被下置候付、夕方ハ孫兵衛、文次郎罷越候

一明日天神祭岡ニ而致見物候哉、舟ニ而可致拜見哉、尤舟之儀例年直段極り無之候、今年之処三人乗申候網舟ニてもサカメ位之

旨ニ付、右直段自分ニ差出シ舟ニ而致見物候ニ及不申候、岡ニ而致見物可申候間、爰元堂島抱屋敷借屋之内江成共參り可申段

申之候処、天神祭之儀は舟ニ而見物之方宜敷御座候間、諸人用致割合參り可申哉之段山中氏、杉本氏被申吳候得共、勤番之儀

当年限と申しても無之、各方江御苦勞懸ケ候儀も氣之毒、又此時節柄、店ハ御振舞之儀も如何成物ニ候間、兎角岡ニ而見物致

可申、乍然堂島借屋之内江參り候ても不苦候ハ、此方江參り可申旨申之候処、左候ハ、堂島借屋見物勝手宜敷方江明早朝案内

可申遣旨山中氏被申聞候

(表紙) 一天明六年六月廿五日ハ 七月廿八日迄

大坂店勤番日記

深井孫七郎

(別一五七二一)

六月廿五日 朝之内天氣 天神祭ニ付

其後曇小雨 諸相場休日
九ツ時過る晴 夫ハ地震兩度

一今日道明寺代參、出入儀兵衛參詣為致候

一 去ル十二、三日両日之大雨ニ而新田三ヶ所作物之分不殘打倒、其上崩所切レ所等夥敷致出来候付、見分致具候様利平次昨日申来候、依之今日為見分井口孫兵衛新田ハ罷越申候、尤右修復料凡マツル程相懸リ可申様之趣ニ相聞得申候、猶耽と積リを書付差越申答ニ候

一 今日天神祭孫七郎見物所之儀、堂島抱屋敷借屋之内ニ而致見物候ニ相極置候処、今朝ニ相成時節柄故舟不景氣ニ而、此間迄サカメ文と申候舟、イメサカ舟ニ相成候間是非舟ニ而可致見物、尤右直段位下直成ル儀も無之旨ニ而、段々相進メ被申候付、再応断申候も如何ニ付、左候ハ、如何様共致世話被具候之様、杉本氏、井石井氏は当時賄方之儀ニ付相頼置、猶又山中氏江孫七郎申談候者、舟之儀俄ニ下直ニ相成候由ニ而何れも厚く御世話被下忝存候、右ハ此間も申候通、勤番当年計之事ニ而無之候、然ル処当年舟直段格別下直ニ有之候通、来年之買置も相成申間敷存候、譬此度之所各方割合ニ而御出被下候共、例格之様成行年々御割合御苦勞懸ケ申候儀も氣之毒、又御時節柄店表ハ御振舞被下候儀も如何成物ニ御座候、依之岡ニ而見物致可申旨申候儀ニ御座候、乍然舟之儀段々と御世話被下候付、弥舟ニ而可致見物候得共、舟賃之儀ハ例年相極り不申、年ニ高下有之候得は、当年之舟賃ハ私る差出可申候、尤右舟江弁当等持出候儀ニも御座候ハ、是者随分軽クして店表ハ御差出被下候様致度候、左候得は各方江割合之御苦勞も懸り不申、又舟之儀御世話

被下候趣意も相立可申哉ニ候間、先当年之所者右之通御取計被下、明年々者勤番了簡次第二御取計可被成旨申談、弥舟ニ而致見物候、尤案内人之儀右之通之意味合ニ付、役人之分ハ除之、岡田彦次郎、賄方石井彦四郎、林庄助同道致度旨申候処、両石井断、林氏一人之案内ニ而御神事御渡り見物致候、尤夜ニ入候而、山中氏、小野平五郎舟江被參、夜四ツ時致帰店候、尤団尻四拾九番迄有之候、併是者宵宮限りニ而大方仕舞、今日者余り引通り不申候

六月廿六日 雨降

金サシチマツ入
銀チ、チ入マツ屋
朝五ツ時大雷白雨
筑前米サシサマ入

一 右雷落候ケ所左之通

安治川 久宝寺町 ちち屋町 山本町

伏見堀花屋橋 炭屋町

右之通落申候由、追々噂有之候

六月廿七日 曇天

金サシツマ入ツ屋 昼同事
銀チ、チ入ツサ厘
涼氣 筑前米サシサマ入

一 今日御城代様御中屋敷井土岐様御屋敷江久次郎暑中為御伺罷出候、尤御城代様江従京都御差上被遊候御菓子御状箱相添久次郎持參差上申候

一 笠間御屋敷江暑中為御見舞今日孫兵衛、文次郎罷出候、尤右同

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

人々の音物も今日差送り申候

一 御両殿并御家中御金方其外天満与力衆手中前勤方之分、今日久次郎、文次郎罷出相勤申候、尤音物左之通

一 御両殿立沙糖白目五斤入一曲宛 但白木台乘文次郎

一 御金奉行御二方様江右同断五斤入一曲宛 右兩人

一 両御家老御用人御取次目付書簡方共一同唐目式斤入一曲宛名代兩人を差送り申候

一 兩地方支配与力衆七人江久次郎、文次郎を唐目式斤入一曲宛差送り申候、右之外筑後御屋敷ハ岸本安次郎名前、今治御屋敷は宇野政七郎名前ヲ以御役人方江音物有之候、其外者京都通達之通夫々差送り申候事

一 今日土岐様御屋敷を店表江御使者入来、暑中為御尋八郎右衛門様江御紋付御帷子一ツ、孫七郎江御役人中御状相添御袴地一行被下置候付、今夕本状を右之趣及通達、例之通御礼状取下シ、溜等も例年之格ヲ以御礼状到着之上一所ニ差送り候積リニ候

六月廿八日 雨降 金サシツ、マ入サカ厘 昼同事

午刻地震 銭チ、チ入ツサ厘 筑前米サシエ、ウ入

一 佐々木佐京殿用向ニ付出坂、店ニ而被致逗留候

一 京都店出入男当地本店江用向有之、森氏へも用向有之罷下リ、今朝無難致着候

一新田利平次植足シ稲苗并崩所切レ所、其外何角為相談、今日致

出坂候付、右之趣則今夕京都店江及通達候、委細新田状有之候付略之ヌ

一 今日生玉神事ニ付、両御役所江新町并島之内ねり物参り候由ニ付、西御役所江孫七郎、久次郎同道見物ニ罷越、見物相濟ハツ時罷帰り候、団尻も六七番有之、是も御役所江参り申候

六月廿九日 雨降 金サシツ、ツ入カセ厘

銭チ、チ入カエ厘 筑前米休日

一 佐々木左京殿次男勝四郎と申者、是迄当店ニ相勤罷在候処、親類内無抛相統筋之儀有之候付、暇之儀相願被申候、誠ニ無余儀趣ニ付願之通首尾能暇為祝儀銀子三枚差遣候、尤右之趣爰元店支配人中立会被申渡候

一 今日住吉神事雨天ニ而淋敷方ニは候得共、団尻七八番も引出し申候

七月朔日 天氣 金サシツ、サ入セ厘

銭チ、チ入カ厘 筑前米サシエ、也

一 今日御屋敷御礼無之候

一 当月御月番佐野備後守様、御金奉行酒井与左衛門様、下シ番手

前ニて候

一 今朝 朝うり 汁常通 平丸子こもか 屋汁常通 焼物鱈骨切

夜酒 取肴鱈小串 煮煮し煮せ煮う煮 湯湯とう湯ふ湯

一京店出入藤兵衛今朝陸地罷登り申候

七月二日 曇天

金サシツ、サ入サエ匣 屋ッ入チ匣
 錢チ、チ入サカ匣
 折々小雨 筑前米サシエ、セ入

一京都店々本状到来、御所司様御組紙筆墨其外諸入用銀七百九拾九匁五分、来ル五日当地御金藏の御請取被成候御証文一通、同写一冊右御添簡等出入吉兵衛、甚兵衛持下り改請取申候、尤右兩人直ニ今夕舟ニ帰京ス

一津久井武兵衛殿暑中為見舞店表江入来

一佐々木左京殿勝四郎召連今夕舟ニ京都江向罷登り被申、夫の直ニ帰郷之由ニ候

七月三日 晴天

金サシツ、サ入マサ匣 昼同事
 錢チ、チ入ツサ匣
 筑前米サシエ、セ入

一明後五日渡御為替為伺今日文次郎罷出候処、仲間江銀サシメ、御渡被下候筈、則割合書後明書差上候、尤右之節先月十八日江戸上納相濟候御納札三通并京都御請取銀七百九拾九匁五分之御証文并写共御月番江差上、御書替手前江持帰り候

一岡田彦次郎儀昨日迄致出勤候処、昨夜中の時氣当り候哉致腹痛余程六ツケ敷様子付、今朝の喜三郎罷越、医師方彼是江懸御目候処、少々見直し候方之由ニ候

一今晚店月並寄会相動候上、宇野藤五郎事病氣ニ付、先達而暇願

差出候処、今夕願之通申渡、為合力金子(七)兩并京都勤仕之内年褒美銀(八十八匁)チシエ、共相渡、御札一札取之置候

一右寄会之節毎月天神、昆沙門天、威徳天等無懈怠飭可申儀、且見世早く明ケ可申儀等一同江申設置候

一牧野平左衛門殿子息平馬殿病氣養生不相叶昨朝死去ニ付、為悔久次郎罷越、今夕天満寺町於妙福寺葬式有之候付、是又久次郎罷越候、且又右膝中為見舞菓子料金野舟足、久次郎、文次郎の差送り申積り候、右者加州一件此節引合之儀も有之候付、一通りの致宜遣し候事

七月四日 晴天

金サシツ、カ入サ匣エ入 昼サ入マ匣
 錢チ、チ入エチ匣
 筑前米サシエ、セ入

一明日渡御為替銀証文今日文次郎持参、例之通御月番江差上御書替手前江持帰り候

一右之節京都御役所御請取銀御証文猶又於御金方御改被成候処、是迄右御証文京都御奉行様方御奥印ニ有之候処、此度ハ御裏印ニ有之、先格と致相違候付、明日銀子御渡難被成旨被仰渡、右御証文御戻し被成候付、不得止事今夕右御証文出入平兵衛、儀兵衛為持京都江差登せ、本状ヲ以右之趣委細及通達候

七月五日 雨天

金サシツ、サ入チ匣 昼カ入マ匣
 錢チ、チ入ウ匣
 筑前米サシエ、セ入

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

一今日御為替銀為請取文次郎罷出左之通

(二十三貫目)

一セシマメ、手前

(二十一貫五百目)

十人組

一セシマメ、内小玉シメ、上納十月六日

右之通無故障請取候付、例之通為御届相廻り候、尤右之節先月

十八日江戸上納相濟候御納札三通引替相濟申候

一爰元店出入平兵衛、儀兵衛儀、今朝京都罷歸り候

一江戸店先月廿九日出四日切仕立飛脚、手前、上田組申合為差

登候書状今夕初夜半時致着候處、此度金銀融通之儀ニ付諸国寺社、山伏、百姓、町人共々金銀差出候様被仰付、右出銀御領は其

所之御奉行御代官御預所役人、私領者其領主地頭江戶最寄は

江戸三井組、上田組、大坂最寄ハ彼地三井組、上田組立可差出候

之間、請取之右出金之分当面組立御預被仰付、右取扱ニ付諸

入用之儀は取調相同可申、尤右御預之儀は当分之御儀ニ而御座

候旨松本伊豆守様并御勘定金沢安太郎様御立会御人私ニ而被仰

渡候旨、尤右者官門跡方尼御所は相除キ、諸国寺社、山伏之分

本寺本山并重立候社家ニ而取調へ、其末々之趣ニ随ひ上之分一

ケ所ニ而金シサ而と定、其已下者相応之出金高本寺本山并重立

候社家ニ而相極、末寺触下、支配等江可申渡、且諸国御領私領

并百姓ハ持高百石ニ付銀セシマメ宛、但於大坂表此度御用金差

出候者ハ相除キ候積リニ候、右同断町人之分ハ間口巷間ニ付地

主銀マ、宛、但大坂表ニ而此度御用金差出候者ハ相除キ候積

り、右之通当年來ル戌年迄五ヶ年之間出金被仰付、御公儀も御金被差加、一同大坂表於会所利足七朱之積ヲ以諸家江御貸

付ニ相成、返済引当之儀者大坂表通用之米切手并領分之内相応

之村高証入ニ書入、万一相滞候節ハ米切手御定法之通御取計切

手米為相渡、村高ハ最寄御代官立預り其物成ヲ以返済之積、勿論

右出金銀之分御用相濟次第出金銀致候者共立御戻シ被下、利足

ハ七朱之内会所諸入用之分引之、其余之利足ハ右元金銀御戻し

被下候節、是又致出金銀候者共立可被下、尤出金銀納方之儀は

諸国共寺社山伏銘々之出金銀高本寺本山ニ而取極申渡候上、日

数二十日之内百姓町人者前書申渡候趣相達次第、是又日数廿日

之内致出金、來末年ハ正月中之積リ可致出金旨被仰渡候段申

來り候付、右之趣昨今京都立も懸ケ合、上田組立も追々及相談

不得止事御請申上候積リニ相極申候、且右一件已後度々通達可

有之ニ付、此書状ユ印と相定可申段江戸店申來候

七月六日 雨天 金サシツ、エ入サ厘 昼休

亥刻過晴 錢チ、チ入ウ厘 筑前米サシチ、ウ入

一右ユ印御用筋ニ付、当朔日江戸店四日限任立飛脚之書状今昼

四ツ着坂ス、并右ニ付京都店も通り走り之書状今朝五ツ時、

今昼八ツ時過、同七ツ時過追々三ヶ度着ス、依之右一件爰元、上

田方示合候上為相談、今夕舟ニ久次郎御請書上田印形持參、上

京ス

一今日於西方寺例年之通墓參、且自空様三十三回忌御祥当十一日有之候処、定式墓參今日有之候付、右御法事引上、今日御回向御頼申候、然ル処今日參詣之刻限ハ雨強降候ニ付、定式墓參リハ延引、自空様御法事計相勤候積ニ而、本店、両替店ハ支配人一人宛參詣之積り候、依之孫七郎申候者、定式六月一日ニ極候墓參ハ延引、十一日御祥当ヲ引上候方、雨天ニても両店ハ支配人之内一人宛參詣是非被相勤候積り候ハ、墓參定式之方も一所ニ相勤被申候方可然旨申候付、両替店ハ喜三郎參詣、中元包銀共持參相濟候、本店ハ支配人一人參詣と被申聞候処、致如何候事候哉、藤兵衛殿、武右衛門殿參詣被申候、尤本店者墓參リ之方延引、右自空様御法事計之積リニ候

七月七日 曇天

金サシツ、チ入サ厘 屋サ、サ入
鏡チ、ウ入イ厘
筑前米休日

- 一今朝御札御而殿并御家中御金方天満与力衆、文次郎罷出相勤申候、尤久次郎儀京都江罷登申候付、御屋敷方江者当分不快之断申上置候
- 一笠間御屋敷江今日為御札孫兵衛、文次郎罷出候
- 一今日見世休日 献立朝猪口 鱒朝うり 汁な 平牛尻こもふ
屋菜類 酒 吸物鱒きほうし 肴類一種 ねいも
- 一両本願寺於対面立花為拜有之候

七月八日 快晴

金サシツ、イ入サ厘 屋サ、ツサ入
鏡チ、チ入チウ厘
筑前米益前休、後十七日ハ

一今日天氣ニ付例年之通西方寺江墓參可致旨本店ハ申来り候、然ル処、当店之儀者一昨日致墓參、定式中元包銀も差送り相濟有之候事本店ニも承知ニ可有之処、右之通又々申来り候儀如何之儀ニ候哉と相尋候処、七月六日両店申合舟ニ而參詣、西方寺迄ハ精進料理、西方寺江上り候得は、彼寺ハ素麵差出被申、夫ハ銘々墓江參詣之上又々乗舟行水等有之、魚類料理ニ相成致緩々大方夜ニ入下向之由、尤右諸人用之儀者本店、両替店年番ニ而相勤、店出シ致来り候旨、扱右參詣人之儀大方西方寺且那之当役計ニ支配人付添參詣申儀ニ而、当時奥村、井口杯西方寺且那無之故參詣無之由相咄被申候ニ付、是迄ハ右之通之仕来リニ而可有之候得共、七月六日之墓參リハ両店ハ支配人一人宛之參詣ニ而可宜、別宅中不殘參詣と申儀ニても無之、大方西方寺且那計參詣と申ニてハ自身勝手強キ相当り、御時節柄不相応ニ可有之哉、猶本店江も被及内談可然旨山中氏江申談置候、尤今日之所ハ差懸り候儀ニ付断ヲも難申半兵衛、文次郎罷越候、本店ハ中西庄右衛門殿、奥田吉太郎殿越候

一大坂三郷町中ハ毎年差出候人足賃銀、先年御改已後年々銀高相増、別而近年町役銀多ク相懸り、町人共難儀之趣相聞得候付、此度而御役所并惣会所諸入用減シ方御取調へ之上卯辰巳三ヶ年之平均銀高七百七拾八貫八拾壹匁七分七厘九毛八絲之内、式百

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

九貫五百七拾目余此度相減シ、已来壹ケ年出銀高五百六拾八貫五百八匁三分四厘七毛六絲二而、右之外出銀相懸り候儀無之候間、節季毎々出銀高者毎年七月、十二月ニハ当御役所江可書出候、尤右之書付は通達町江取集可差出候、右之趣相心得三郷町々江其方共可申通候、右之通之御触有之候

七月九日 晴天

金サシカ、サカ入 昼エ、イ入
銀チ、チ入ウ厘ウ入
筑前米益前休

一 小野儀右衛門儀勝手ニ付、此度過書町住所引払本店江出勤、妹儀者小野平五郎方江引取申候段、本店を為知来り候、依之右之趣当店掛り江知せ遣候

※一 小野跡岸本安次郎引越

一 杉本久次郎京都御用談相濟、昨夕舟ニ帰坂又

一 二印御用一件京都御存寄、且当地同断上田方存寄等於京都御相談之上御請書江戸表江御差下、猶又彼地存寄等六日七日兩夕四日切仕立飛脚ニ而京都通達有之候付、爰元を仕立者差下不申候、右京都ニ而相談之趣久次郎帰坂之上、猶又上田組立も申合此度右取立御用被為仰付難有奉存候段、今日御城代様御中屋敷并兩御役所御広間兩御勝手江書付ヲ以御届申上置候、則左之通

乍恐以書付奉申上候

先月廿九日於江戸表金銀融通御用向蒙仰難有奉存候、右之段

御届旁奉申上候以上

七月

宛なし

※一 此書付西之内中半切認尤印形なし

右之通手前、上田銘々ニ相認差上申候、尤上田方者自身罷出被申、手前方ハ久次郎罷出申候、且右御届書下書京都る下ル、京都も今日右同様御届有之筈ニ候

御為替三井組名代
杉本久次郎

七月十日 晴天

金サシカ、マサ入 昼同事
銀チ、ウ入ツサ厘
筑前米休

一 明後十二日渡御為替為同文次郎罷出候処、仲間江銀サシメ、御渡被下候筈、則割合書付後明書付并先月廿六日江戸上納相濟候御納札四通、且又京都御役所御請取銀七百九拾九匁五分之御証文并写御添簡等、昨夕舟ニ京店出入吉兵衛、甚兵衛持下り、今朝無難着御証文同写御添簡共請取候付、右之御証文等も御月番江差上、右御書替何れも上田組江持歸り申候

一 笠間御屋敷元メ衆を孫兵衛、文次郎御手紙相添、谷新左衛門殿、茂手木平兵衛殿を被仰越候由、例年之通晒害疋宛被下置候付、御礼答相認遣候

一 三郎助様御儀当地御屋敷方江暑氣御見舞且当月末頃江戸表為御勤番御下向被遊候付御暇乞御兼被遊、今昼舟ニ御下り被遊、舟中御機嫌能今七ツ半時御着被遊候、將又当地御而殿江御上ケ物之儀、是迄年頭と御暇迄御兼被遊候節者定式御扇子ニ御着添御

差上被遊候得は、暑氣御見舞と御暇乞御兼被遊候節も、定式御帷子ニ別段交看一折御添御差上被遊候ニ此度も御改被遊候間、已来右之通取計可申旨、本店も申来り候

七月十一日 晴天

暑氣強 暑氣強
七ツ時過雷鳴 筑前米益前休
金サシカ、セ入ルツ入 昼セ入
銭チ、ウ入エ厘

一 明日渡御為替証文并京都御役所御請取銀御証文等文次郎持参、御月番江差上御書替手前江持帰り候

一 三郎助様御儀、今朝も当地御屋敷江暑中御見舞、江戸御下向御暇乞御兼、御城代様御中屋敷并御両殿、同御家中、天満与力衆、御金奉行様方、同手代衆其外御屋敷方、町方共御勤被遊候、尤右御上ケ物并御家中天満与力衆江音物定式之通ニ付略之ヌ、右之内御両殿江之御肴者此度改差上ル

一 御城代阿部能登守様も今夕方店表江御使者人来、此度江戸表江罷下候付為御餞別晒布料金サ舟疋平田彈右衛門殿、村田万太夫殿手紙相添被下置、且万太夫殿御自分手紙相添為餞別田麩五種入一箱、将又岡孫右衛門殿、原田五左衛門殿、島村新兵衛殿も八品無之手紙ニ而暇乞被仰聞候、右之通御使者御持参被成候付三郎助様最早御乗船御帰京之趣取計、御使者江者右品々致請取遣申候、尤右両品共直ニ三郎助様江御渡申上候、右御請御札状者京都も御差下シ被遊候御積りニ付、右御手紙今夕為差登、猶又右之趣本状も委細及通達候、猶御札状到着相届候節、右御使者

江溜め式朱一片、中間老人江鳥目百文紙相添遣し候積り候
一 三郎助様御出坂ニ付、為御悦今朝本店別宅衆中支配人并組頭被参、猶又今夕方右之衆中為御暇乞被参候

一 御同所様御儀、当地御用向無御故障相濟候ニ付、今夕舟ニ御同道敷田堅吾殿并御供西谷東吾其外草履取等帰京ス

七月十二日 晴天

暑氣強 暑氣強
筑前米益前休
金サシサ、チウ入 昼カ、イセ入
銭チ、ウ入カエ厘

一 今日御為替銀為請取文次郎罷出左之通

(二十三貫目) 一 (七十一貫五百目)
一 (七シマメ) 手前 一 (七シイメ) サ舟、十人組
一 (五十貫目) 内シメ、小玉 上納十月十八日
一 (七百九十九匁五分)
メ銀サシメ、 右之外京都御役所御請取銀エ舟ウシウ、サ入

右之通無故障請取申候付、例年之通為御届相廻り申候、右之節先月廿六日江戸上納相濟候御納札引替も相濟候

一 三郎助様、京都御屋敷方御土産之儀御同所様御出坂、一兩日已前も堺表出入看屋藤兵衛、七兵衛相願候付、時之柄温氣殊ニ益前市立仕舞之砌旁彼是及対談候処、堺表市立は十三日迄有之候付間違候儀は曾而無之請合候段申之候付、何れも相談之上御兩殿初其外共一統塩煮肴可宜ニ付、右之通請合之儀ニ候ハ、弥塩煮肴ニ相極可申候間、無間違取計今十二日八ツ時過迄ニ致持参候様申付遣候、然ル処今日九ツ時右堺七兵衛罷越、肴扠底難

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

致出来旨断申聞候、依之過急之儀外ニ致方も無之、菓子之方ニ可致と直様虎屋相招及相談候処、是以今日之故蒸菓子損シ可申、箱も過急ニ難出来旨申之、半断同前之仕義相成候付、不得止事御両殿江虎屋出来合桐箱入干菓子一箱宛両御家中拾三軒、北御用人四軒、両公事方与力八軒、右之分両面焼饅頭五十宛之積り取計、則今夕爰元出入男ニ為持為差登、猶又右之趣別紙の委細及通達候

一 右之通堺肴屋不行届致方ニ付、今日の藤兵衛并七兵衛店出入留申付置候

七月十三日 晴天

暑氣強
 金サシサ、ウ入サ厘カ、
 錢チ、ウ入マサ厘、
 筑前米休、
 昼カ、イ入

一 融筋本店の御猶予之願書今日差上被申候積リニ付、昨日森氏江文次郎参上、内意申込候処、先差出し見可申旨被仰聞候付、今日本店小島久兵衛願書持参、安井新十郎殿江向差上被申御前江被入御覽候処、御取上ケ無御座候、其節安井氏内々被申聞候は、右之類彼是多分有之候付、其元計御取上被遊候と申儀難相成候、依之御下ケニ相成候旨御申聞被成候

一 今日西地方御役所の手前、上田組御呼出有之候付、手前の久次郎、上田の吉郎兵衛罷出候処、此度被仰渡候融通金銀包方其外納方、請取方等之儀御尋之上書付差上ル様被仰渡候付、御請申上置、猶又今夕安井新十郎殿江久次郎参上、右一件一通り御咄申

上、当地御役所江江戸表の御通達振り等荒増承り、明日差上可申書付等之儀も御尋申候

一 聖靈会ニ付西方寺今朝店表江入来有之候

七月十四日 晴天

金サシカ、マツ入
 錢チ、ウ入マサ厘、
 筑前米休、
 昼ッ入

一 今日西地方御役所江昨日御尋之書付相認、久次郎、吉郎兵衛同道差上申候、尤書付并委細之訳者融通方帳面ニ留置、此所略之

一 退役并諸出入方江取替有之節季取立之分、夫々対談通り取立申候、委敷取立帳面ニ留置候

七月十五日 曇天 諸相場休日

一 中元御礼何れも申合夫々相勤候、勤番孫七郎ハ本店并同所宿持三人且両替店宿持兩人計相勤、大坂宿持并退役中迄も相互取遣有之候由、尤何れも継上下二而麻上下二而ハ無之候事

一 今日料理方朝鱈期うりし白酢汁な、平午尻、焼とうふ、頭いも、焼物なすひ、焼てんかく、酒肴無
 昼汁すいき、平ひりうす、夜酒も無之候

七月十六日 曇天 諸相庭休

一 小野平五郎今日店表江中元為礼入来、夕飯給被申、勘定場江通

り、此度之融通筋京、江戸之通達書状引出し見被申候、且先頃も勘定場ニ而本帳繰出し、手前之帳合ニ有之候哉写取被申候付、今日之任義旁不相濟儀と存、改呼寄、井口氏立会、心得違之段急度申渡、猶又已来無断勘定場江罷通り被申間敷旨申渡置候、依之掛板相改置申候

一爰元店別宅中五節句出礼之節供之者大方店表之参り候仕来りとし見請申候付、御屋敷方勤、家方勤夫々訳も可有之候得共、何れも一時ニ不罷出代り々被参候様、家方勤之分相互申合被申候ハ、高直成雇賃相減シ、右ニ付何角失替も無数相成候趣相考被申可然旨申談置候

一今日料理方朝餉朝うり 汁赤みそ 平白とうふ
屋汗鯉さくら 平鯉簡切 酒肴無 夜酒も無之候
平白 平あんかけ
屋汗たきまな 平こんふ

七月十七日 天気
折々曇

金サシカ、セ入チ匣
銭チ、エ入チ匣
筑前米サシカ、チ入

七月十八日 天気

金サシカ、セ入チ匣 昼同事
銭チ、エ入チ匣
筑前米サシカ、チ入

一京都店之別紙到来、八郎兵衛様御方御対様御儀、昨夜亥刻御安産御男子様御出生被遊、御二方様御機嫌能御肥立被遊候間、八郎兵衛様、八郎右衛門様宛御歎状為差登可申旨申来り候付、則

為差登申候

一六月十八日及出訴候伏見町加賀屋次右衛門、同九郎兵衛家質滞願御日限今日候処相濟、兩人共病氣ニ付其段御断申上候間、手前も罷出候様申聞候ニ付、店之喜三郎代庄助、阿波屋伊兵衛代卯藏罷出右病書断書ニ致奥印、佐野様御役所差上申候所、来月十八日双方猶又罷出候様被仰渡候

七月十九日 天気

金サシカ、セ入チ匣 昼同事
銭チ、エ入チ匣
筑前米庚申ニ付休

一八郎右衛門様御儀、当地御屋敷方江暑中為御見舞御下向可被遊候処、未御不快ニ付其御儀無御座候ニ付、今日為御名代御而殿江文次郎罷出、定式精好平御袴地二具桐箱入一箱宛持参差上并而御家中御家老、御用人、御取次迄金野舟疋宛、書簡方目付衆江者金疋宛、是又定式之通差送り相廻り申候

一先月十二日及出訴候伏見町加賀屋四郎兵衛方ニ相滞候御為替御用銀セシサレ、濟方之儀、右引当家屋敷方江家質ニ差入、銀子致調達候由、尤右打銀当五月之七月迄之処半減ニ而致用捨兵衛様此間之段々相頼候付、何れも相談、当月之所半月致用捨遣、則右元銀セシサレ、且当五月之当月中迄之打銀共今日町代清助持参請取相濟申候、乍然右濟口御届之儀者一兩日中申合罷出申度旨申聞候付、先今日之所者仮請取書遣置、表向濟口御届相濟候上本証文引替遣シ申積(由)致対談、銀子請取申候

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

一今日川口御船為拜見罷越、紀伊国丸、土佐丸、浪連丸右ニ添候御巻御茶器御刀懸其外御手道具等、右之外御海大一艘、小四五艘有之候、尤右拜見十八日ノ廿日迄之由

一当店勤番交代之儀、最初御定之通弥半年代り之積り、猶又被仰付候間、孫七郎八月江入候ハ、勝手次第罷登り、於京都示合相濟候上、代り役罷下り被申候積り之段、此間内番状ハ申来り候、然ル処今日又々内番状致到着候処、兼而右之通之御思召ニ御座候処、此度融通御用被仰付候ニ付、先當時交代延引、是迄之通相勤可申、右ニ付宗巴様御思召も御座候旨申来り候、依之御断ヲも難申上御請申上候

七月廿日 天氣

金サシカ、サ匣
銀チ、エ入チウ匣
筑前米休日

昼同事

一今日相記候用向無之候

七月廿一日 天氣

金サシカ、サ匣
銀チ、エ入チ匣
筑前米カシ、イ入

昼同事

(五十貫目)

一明後渡御為替為同文次郎罷出候処、仲間江サシメ、御渡被下候筈ニ付、則割合書後明書付并当月六日江戸上納相濟候御納札等御月番江差上、御書替上田組江持帰り候

一加賀屋四郎兵衛、同与左衛門御為替銀相濟候届之儀、今日罷出呉候様申越候付、則濟口届書相認東御役所江久次郎罷出、由比

甚右衛門殿江懸御目書付差上候処、御前江被仰上候間、差上置可申旨被仰渡相濟申候、尤向方も同様御届申上候
一先達而店町内学屋喜兵衛、同半兵衛江融通金マ仙而宛被仰付候ニ付、不如意之御断申上置候之処、当十九日御呼出御免被仰付候、尤此度被仰出候間別三匁之出銀差出候様被仰渡候

七月廿二日 晴天

金サシカ、サ匣カ入
銀チ、エ入カエ匣
筑前米カシ、イ入

昼同事

一明日渡御為替銀証文次郎持参御月番江差上、御書替上田組江罷帰り申候

一此度被仰出候融通筋家別間口一間ニ付銀三匁宛出銀之儀、次郎右衛門様は御為替御用且此度融通御用被仰付、源右衛門様御儀者御広敷御用御勤被遊候付、右御両所様当地御名前屋敷之分不残前件三匁宛之出銀御免被成下候様上田組申合、西御役所江今日書付差上候処、地方田坂直右衛門殿御請取、大坂御用達之銘々都而江戸表江御伺相成、未御返答無御座候、右書付は差上置候様被仰渡候

一右之節直右衛門殿被仰聞候は、先日申渡候当地右御取集銀、来月三日迄ニ御役所江取立候銀子ニ而請取可申哉、夫迄ニ江戸表カ金納之御沙汰無之候ハ、当月晦日頃右之趣御断書差上候様御申聞被成候付、承知之段御請申上置候

一戸田因幡守様当地用達平野屋嘉十郎手代罷越、此度被仰出候御

用金納方之儀委細承り申度旨申候付、荒増相咄猶又御差出書案請取書案見せ申候而、追而相納之節前広ニ案内被致候様申遣候

七月廿三日 晴天

残暑強

金サシカ、サ厘ノイ入 昼カ、サ厘
銭チ、チ入イセ厘
筑前米サシマ、ウ入

一 此度被仰出候間口巷間ニ付三匆宛出銀之儀ニ付、当地手前抱屋敷有之候町々追々尋来り候付、八郎右衛門様、源右衛門様、次郎右衛門様御名前之分御役所江夫々御断書差上置候間、宜御取計可被下旨、町々江申遣候

一 八郎兵衛様此度御出生之幼様宗之助様と御名附被遊候段、京都店申来り候

一 杉本久次郎儀、今日就吉辰安土町難波橋筋南横町西側借宅江引移り申候付、先格之通相祝、鯉鱒小焼物并軽キ取着ニ而、次座喜三郎計致益事 但、右弘之儀、追而相勸申度旨ニ付、右之趣京江戸店江及通達候、当地本店其外家督退役中江も為相知候

一 今日御為替銀為請取文次郎罷出、左之通

(二十三貫目) 手前 一セシマメ、 十人組
(二十一貫五百目) セシイメサ舟、 上田組

(五十貫目) 銀サシメ、 内シメ、 小玉 上納十月廿六日

右之通無故障請取申候付、例之通為御届相廻り申候、尤当月六日江戸上納相済候御納札引替も相済申候

七月廿四日 晴天

残暑強

金サシカ、イ入サ厘ノセ入 昼同事
銭チ、チ入イセ厘
筑前米休日

一 江戸大水当月十二日同十八日迄大雨降続、西国川筋強キ水ニ而川上隅田川辺吉原土水越山谷辺一□ニ水入、所々家流レ而国橋大間橋杭ぬけ、通路留り、新大橋、永代橋落、浜町薬研堀辺、水道橋、何れも舟筏ニ而致通路、神田川筋供水ニ而川岸通りは勿論、所々橋落水場家流レ、死人多ク、其外山手所々崩レ、小石川辺、水戸橋御屋敷辺舟筏ニ而致通路、本所深川ハ不及申、浅草観音此所も舟筏ニ而致通路、江戸中大水死人多ク有之候旨、今八ツ時飛脚屋方為相知申候

七月廿五日 晴天

残暑強

金サシカ、ツ入サ厘 昼ツサ入
銭チ、チ入カ厘
筑前米サシマ、ウ入

一道明寺江代参出入男参詣ス

七月廿六日 曇天

折々小雨

金サシカ、マ入 昼セ入サ厘
銭チ、ウ入
筑前米カシマ、サ入

一 西地方御役所呼来り候付、文次郎罷出候処、堺御役所御種人参代御為替被仰付、則左之通

一金式拾兩三歩 七月廿三日請取
銀九匁七分九厘毫毛 九月十八日上納

右之通無故障請取申候、尤追而上納之節費安善守様宛御納札申請差上候様被仰渡候、且此度は小金高ニ付、手前一手ニ請取、

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

其段外組江申達置候

一京都兩御役所諸冥加金銀当地御金藏納御為替被仰付、則左之通

金貳百五拾六兩二步

七月廿五日請取

一銀拾四匁三分壹厘

十月十六日上納

此永貳百三拾八文五分

銀百拾八貫六百拾三匁五分九厘五毛
右御為替金銀無故障請取候間、追而上納之節御納札八通ニ申請
為差登可申旨本店(状カ)委細通達有之候

七月廿七日 天氣 金サシカ、イ入ダサ厘 屋イ入サエ厘

折々曇小雨 錢チ、チ入カエ厘 筑前米カシカ、イ入

一加賀屋四郎兵衛、同与左衛門方御為替銀(二十五貫目)、滯口相濟候
付、東目安方与力七人、東御用人式人江為挨拶金野舟疋宛久次(二百)
郎、文次郎を差送り申候

七月廿八日 天氣 金サシカ、サ厘ダイ入

折々曇風立小雨冷氣 錢チ、チ入サカ厘 筑前米

一今晚寅刻前舟町中筋北横町西側裏借屋を出火有之、横町江焼拔
凡拾貳間四方程焼失、卯刻火鎮り申候、手前抱屋敷玉水町、齋
藤町風下候处、別条無之候、乍然家質ニ取置候堺屋幸次郎家屋
敷半類焼相成申候

(以下次号)

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

史料紹介

深井孫七郎「大坂店勤番日記」その二

—天明六・七年の大坂両替店—

前号に引き続いて、本号では天明六年十一月一日から天明七年二月六日までの分を掲載する。

この期間の大坂両替店は、江戸、大坂、京都全店を包み込んだ大坂御用金の様な大問題を抱えることもなく、また天明七年五月の打ち毀しの危機感もまだ表面化しない時期である。しかし、前号で一石当り五〇匁台を保っていた米相場が天明六年七月末には六〇匁台となり、本号ではすでに八七匁を越して、ついには一一〇匁台まで上がっている。

本文史料の後に、この「深井孫七郎『大坂店勤番日記』」その一、その二を通して人名補注、および毎日付の下欄に付帳で記されている金、銭、為替打銀、米の各相場を一览しやすいよう数字に直して表にした。人名補注の内容はおおむね天明六年二月七日より翌七年二月六日現在のものである。相場表については、天明六年十一月以降の米の値段が日々、徐々に上がっていくのがわかる。天明七年二月六日以降の各相場については、大坂両替店

「日記録」(三井文庫所蔵史料本四六)を参照されたい。

なお、本文史料紹介「その一」において校正上の脱落個所があり、左の通り補充するので、あしからず御了承願いたい。

(天明六年二月十三日付) 三六四ページ下段左端および三六五ページ上段右端との間に左の三行が入る。

「右同町五歩一

表口貳拾二間貳尺

右御同人御名前

元方持

裏行十四間

(樋口知子)

凡例

一、漢字、仮名ともに現行の字体を用いた。

一、読みやすくするために読点を適宜につけた。欄外書は当該の条項の後へ※印をつけて「」で括り、右肩に(欄外)と注記した。

一、符帳は、できるだけ行間に実数を付したが、技術的に入れることが困難な個所は省いてある。使用されている付帳は左の二種類である。

一二三四五六七八九十百千貫匁分

イセマツサカエチウシ舟仙メ々入

曾野見江佐留所於戒敬

一、献立の中で「午尻」とあるのは「午房」のことであり、また「雑煎」とあるのは「雑煮」のことである。注記を入れる余白がないため、そのままにしてある。

〔表紙〕
「天明七年十一月朔日ヨリ
天明七未二月六日迄

大坂店勤番日記

(別一五七一―二)

深井孫七郎

十一月朔日未天氣
冬至申三割
但二十年巳前明和四年亥年ニ
冬至亥四割ト有之其前不考
金サシ、セマ入 星マツ入
丸打舟、舟セシト位
錢チ、ウ入ウ厘
肥後米チシエトセ入

一今朝御礼久次郎罷出例之通相勤ル

一当月御月番小田切土佐守様、御金方春田半十郎様、且下シ番十人組ニ而相勤ル

一落合権太夫殿手代杉本専助入来、御祓并新曆等持参ス

一阿部能登守様御屋敷江為対談今日久次郎致参上候処、島村新兵衛殿御事御陳屋江御越被成候付、猶又近日参上致対談候積リニ候

一村井新左衛門入来、西方寺和尚来春本山黒谷御忌当日之導師相勤被申候付、彼地ニ而之物入も多ク御座候付、諸旦那江右之趣致吹聴、本店、両替店其外江も可然申達呉候様相頼被申候間、宜取計遣呉候様申来リ候事

一規矩文兵衛儀、中西とな方相統之儀、先達而願之通御聞濟有之

候処、文兵衛病氣ニ付入家延引ニ相成有之由、此節者全快ニ付弥頼之品差送り申度旨為届、手代伊兵衛ヲ以申越候付、勝手次第取繕可申段、聞届遣候

一加賀屋次右衛門方家質滞銀、阿波屋伊兵衛名前ヲ以、当六月相願候処、伊兵衛致病死候付、右願御引上ケニ相成候付、此節当伊兵衛代判藤兵衛ヲ以改御願申上候付、願書并家質証文写等相認遣、明日御番所江右藤兵衛為御願罷出申筈、店庄助家質証文本紙持参付添罷出候積リ、依之右之趣伏見町会所并当人加賀屋次右衛門方へも申遣シ候之処、承知之段申越候付、弥明二日双方罷出候積リニ候

一今朝汁常之通 平人參 こもふ 小芹 繪花鹽 屋汁かふら 平鷄 なま 焼物塩麴

夜食常之通 夜酒肴 白坂 いもてんか 但冬至ニ付焼物増 且 甘酒 神棚荒神

一今般御代替御礼当朔日、二日、四日右三日之由江戸表申来ル

十一月二日晴天 金サシ、ツツサ入 星カエ入

丸打ウシ、舟シ、位
錢チ、ウ入イ厘
肥後米チシエトセ入

一佐々木左京殿丸亀江罷越候由ニ而、今朝当店江向出坂、一兩日逗留有度旨、且右之節先達而申込被置候親類内之子供深尾音五郎と申十二才ニ相成候者同道、猶又出勤之儀相願被申候付、何れも相談之上直ニ今日ハ出勤為致候

一 清藏様御儀、昨日於江戸表御元服被遊候付、右御歛状江戸表江

老通、長次郎様江老通差上申候、尤清藏様御儀御在府中者長五郎様と御名乗被遊候付、其通相認差下申候、將又八助様御方江

南御倉様先達而御入家、昨日御婚禮首尾能御整被遊候付、南次郎右衛門様、小川八助様江御歛状為差登申候、尤右何れも京都店々申来、猶又当地本店申合、御悦状差上申候事

一 加賀屋次右衛門方家質滞銀元利シチメカ舟チ、セ入今日阿波屋

伊兵衛代藤兵衛東御役所江罷出御願申上候処、於御前例之通御裏印可被下旨被仰渡、則来月二日双方罷出候様之御裏印致頂戴罷歸り候、依之伏見町会所江庄助ニ為持遣請取書取置申候、委細之儀御用帳ニ留置、此所略之ヌ

一新田利平次今夕京都江罷登候由、為届入来

十一月三日天氣

金サシイ、マサ入、昼イ、マ入
丸打ウシ、舟シ、位
錢チ、ウ入サカ厘
肥後米ウシ、カ入

一 明後五日御為替渡り為伺今日久次郎罷出候処、仲間江二朱判曾仙両、銀セ舟ツシメ、御渡可被下旨、依之割合書後明書付、且先月十八日江戸上納相濟候御納札老通共御月番江差上、御書替者上田組江持歸り申候

一 深井助九郎儀、大和江為判元松野手代伊兵衛同道、当店江向罷越、今朝着坂、即刻大和路江罷下り申候

十一月四日天氣

金サシイ、セマ入、昼イ、マツ入
丸打舟、舟セシ、位
錢チ、ウ入イセ厘
肥後米チシウ、サ入

一 明日渡御為替証文今日久次郎持參、御月番江差上御書替一当町芋屋市右衛門死去ニ付、為悦半兵衛、藤次郎罷越候、尤弊札今日八ツ半時於浜墓所相嘗被申候付、藤次郎罷出申候、半兵衛代も相兼、且喜三郎不快ニ付罷出不申候

十一月五日天氣

金サシイ、イ入、マ入、昼チ入、イ、
丸打ウシ、舟シ、位
錢チ、チ入ウ厘、ウ入
肥後米チシウ、也

一新町源右衛門様御方江竹屋町御式様御儀一昨二日就吉辰御入家被遊候得共、御悦之儀者追而御弘之節御請被遊候間、其節右御両家様江御歛状差上可申旨京都店々申来ル
一 今日御為替金銀為請取久次郎罷出、左之通

式朱判ツ舟兩 (五百)
銀舟チメサ舟、 手前
式朱判サ舟兩 (六百)
銀舟カメ、 十人組
式朱判伊仙兩 (二百四十貫目)
銀セ舟ツシメ、 上田組

一 式朱判イ仙兩 (二百四十貫目)
銀セ舟ツシメ、 内小玉セシメ、 上納来ル未二月六日

右之通無故障請取候付、例之通為御居夫々相廻り申候、尤先月

十八日江戸上納相済候御納札引替も、今日無故障相済申候

一 上田方江御印取組銀舟(百五十貫目)サシメ、先月切二而有之候、家質銀も来ル末三月切二而舟サシメ、有之候処、右家質之方引当余程不足

二 相見得申候付、先達而返済又者元入兩様之催促致罷在候処、此度切月相廻り候御印之内江シメ、致元入、家質之方も来三月迄之内追々致元入候対談二而、先此度御印之方二而シメ、相減シ、改舟(百四十貫目)シメ、之取組二相成申候

十一月六日天気 金サシメウ入イ、昼同事 丸打ウシメ舟シメ位 寒氣強 肥後米チシチメサ入

一中井敬順一周忌二付、為菓子銀子今日差送ル

一 茨木屋庄右衛門死去二付、葬礼男頭徳兵衛差出ス

十一月七日天気

同断 金サシメイ入イ、星メチウ入 丸打ウシメ舟シメ位 肥後米チシチメサ入

一 佐々木左京殿今夕舟二讃州丸亀江罷下り被申候

一 深井助九郎儀大和路判元相済、昨日昼時帰坂、則夕舟二川原町

松野手代伊兵衛同舟帰京ス

一新田利平次此間京都并大津表江も罷越、今日致帰坂入来ス

十一月八日天気 金サシメエチ入 昼同事 丸打ウシメ舟シメ位

肥後米休日 肥後米休日

一 京都店西田新四郎儀勝手二付、新町通六角上町西側江致変宅候段、別紙ヲ以申来ル、且右之節当地本店、兩替店懸り、別宅并家督退役中ニ至迄住居所書為差登候様申来候付、則夫々別紙ニ相認為差登申候

一 鳥居幸七方亡父忌七日為志小豆一重店表江差出ス

一 今夕当店寄会相勤、天王子屋弥次兵衛家質シサメ、之所三割通

致用捨呉候ハ、元銀相済可申、左無之候ハ、家引取呉候様申聞候付、一割通り致用捨可遣段及返答候処、不承知ニ付猶又今夕

及相談二割引遣し可申哉、何れニも家屋敷流込申儀望無之、依

之右之趣京都店江も及相談可申旨申談、將又秋田万兵衛儀入道

松甫久々致中絶、当店江参り不申候処、此度九郎右衛門様当

店支配人中江御状被下、右之者店差支之筋無之候ハ、前々之通

り出入為致候様被仰下候付、相札候処、全鉢店表ハ出入差留候

而者無之、先達而中井嘉平次と彼是申合之儀有之、其後自ら被

参候儀二付、九郎右衛門様も右之通被仰下候旁差而之趣意も

無之候付、改願ニも候ハ、出入為致可然旨相談相決、九郎右衛

門様江も右之趣申上候、其外加州御屋敷御埒合一件、且又正金

入替之儀及内談候

十一月九日天氣

金サシイハハサ厘 星メチウ入
丸打チシハハ舟ハ位
錢チハウ入セマ厘
肥後米チシエハセ入

一新田弥助入來、銀子入用之儀申來候付、半兵衛、喜三郎立會取納何角之儀及相談候

十一月十日天氣

金サシイハハサ厘 星同事
丸打チシハハ舟ハ位
錢チハウ入マツ厘
肥後米チシエハセ入

一森繁平殿御増預金野舟兩、利足年セ歩之儀致対談、則返答之趣今夕久次郎ハ寺井瀬兵衛江別紙ヲ以及通達候

一阿部様先月御返済金ツ舟兩為催促今日御屋敷江久次郎參上、島村新兵衛殿江懸御目押合候処、御屋敷御難波而巳御申双、何分來年迄致延引呉候様被仰聞候付、右之趣今夕京都店江本状ハ委細及通達候

一上田蔵方名代水谷武右衛門死去、今日八ツ時長柄於鶴満寺葬式有之候付、店ハ代藤次郎、且杉本久次郎も罷越候

一紙屋次兵衛方ハ正金イ仙兩末二月切ニ預り、代り銀ツシエ、利足月千朱ニ而返済之積貸遣ス、但町内芋屋弥一郎口入也

十一月十一日昨夜八ツ半ハ

雨降今四ツ止
丸打チシハハウシハ位
錢チハウ入マツ厘
肥後米チシエハセ入

一牧野平左衛門殿江加州御屋敷當年御塚合之儀ニ付、久次郎今日罷越引合方之儀何角及面談候、且右之節養子入家被致候段吹聴有之候

一油小路北御善様御儀、当夏中立亮三郎助様江戸表御下向為御暇乞御出被遊、其後御帰リ不被遊候付、油小路ハ御帰リ被遊候様度々被仰遣候得共、御不承知ニ付、夫ハ宗巴様、八郎兵衛様御直之御引合も有之、於元方別宅中惣寄合も有之候而種々御評儀御座候而、此度御双方様御納得之上誠美敷御離縁被遊候、尤右之御仕義合旁以來者是迄ハ御睦敷被遊候間、右之趣相心得可申旨、昨十日出ヲ以京都向崎吉郎兵衛、丸山弥兵衛ハ爰元奥村次右衛門、当店勤番深井孫七郎宛元方状致到来、則書面本店庄右衛門被致持參、孫七郎一覽之上、右返書於本店相認為差登被申候

一右之節本店庄右衛門被申聞候者、福田丹藏儀、先達而御届申置候通、不行跡ニ付本店出入并文通共相止罷在候、然ル処其後連も相直リ不申益不行跡相券候付、弥先達而御届申置候通り、此度者表向ニ而申渡候間、此段相心得呉候様被申聞候付、承知之旨則答申置候

十一月十二日天気

金サシイ、イセ入、星イ、サ厘ガイ入
丸打カシ、ウ入カエ厘、位
暮半時地震
今曉七ツ時風吹 肥後米チシカ、カ入

天明六年午十一月

右御兩人宛

越後屋安次郎代

平三郎印

右之通請取書両通ニ相認、具足屋江持参、銀子請取申候

十一月十三日曇天

金サシイ、イセ入、星同事
丸打マシ、ウ入マツ厘、位
風立寒気強 肥後米チシカ、カ入

一加州御屋敷江今朝久次郎参上、当年御渡方之儀御催促申上候処、先達而御改法御儀定之通御為替之方年セ歩之御利足、質米之方八年イ歩サ之御利足弥御渡被成候段被仰聞、則右之積ヲ以今日御藏元具足屋方ニ而銀子請取申候

覚

一五貫三百式匁

文丁銀 「右斜書」
「御為替方」

但天明三卯年十一月御元入銀引残、元銀貳百六拾五貫百目
年式歩之御利足壹ケ年御渡高

右者私ハ差上置候銀子御改法ニ付、当午年御利足銀御渡被成請取申所仍如件

天明六年午十一月

杉本久次郎印

小寺武兵衛殿
笠間九兵衛殿

覚

一拾三貫八百壹匁分壹厘

文丁銀 「右斜書」
「質米之方」

但天明三卯年十一月御元入銀引残、元銀九百貳拾貫七拾四匁式分、年壹歩半之御利足壹ケ年御渡高

右者私ハ差上置候銀子御改法ニ付、当年御利足銀御渡被成請取申所仍如件

一勢州一融様御儀、今般宗融様と御改名被遊候段、京都ノ別紙ヲ以申来り候、依之御歎状差上申候事、且又宗龍様御方御西様御被初御祝儀十六日御悦被遊候間、是又本店申合御悦状為差登可申旨来り候

一前田新太郎父方祖母积妙守五十回忌為志芥子餅一重今日致到來候、尤祥当今月十六日也

一西御組勝部丈右衛門殿、成瀬九郎左衛門殿、河方勘兵衛殿事願ニ付御役御免被仰付、跡御役替左之通

一寺社方江 田坂直右衛門殿 二寺社方助役
三地方助役 上納方江 安東丈之助殿 四御金方江 吉田三郎助殿

五目安方本役 勝部弥十郎殿 六目安方助役 葛山龜右衛門殿
安井大助殿 永田兆十郎殿

七火事方 杉浦兵左衛門殿 八御勘定方 小川甚五右衛門殿
七牢扶持方 成瀬正兵衛殿 十流入方 服部平右衛門殿

九盜賊方 御石方

右之通被仰付候段、下宿大和屋庄兵衛方を為相知候

一 牧野平左衛門殿江小泉忠兵衛殿甥養子被致、則両御頭様江御目通りも相濟候段御吹聴ニ付、為祝儀鏝節一連金サ舟足今日差送り、猶又為御悦罷越候

十一月十四日天氣

金サシイ、トセ入 屋マツ入
丸打マシ、トセ入
風立寒氣強 錢チ、チ入ウ厘ウ入
肥後米チシサ、チ入

一 明後十六日御為替銀為伺今日久次郎罷出候处、仲間江銀舟(百貫目)御渡可被成旨被仰聞候付、則割合書付并後明書、且又先月廿六日江戸上納相濟候御納札式通共御月番江差上、御書替者手前江持帰り申候

一 右之節御為替渡増銀之儀猶又相願候处、此節御收納無數御増渡難被成候得共猶致勘弁、来ル廿三日少々成共相増候様御取計可被成段被仰聞候付、猶又御願申上置候

一 先達而家質滞主伏見町加賀屋次右衛門儀致病死候ニ付、今日御番所江御届申上候間、手前も立会呉候様町内へ申越候付、則喜三郎代藤次郎西御番所江罷出候之処、於目安方次右衛門致死去候付願付之分御引上ニ相成候間、名跡人相極候ハ、可申出旨被仰渡候、且今一口阿波屋伊兵衛代藤兵衛東御番所懸リニ付町内一所ニ罷出候处、是又於目安方追而名跡人相極候上改御願可申上旨被仰渡候、尤御裏印之訴狀者伏見町直ニ致返上候、右

之節伏見町々内之者并加賀屋手代申聞候者右一件当人致死去候得は、猶内談之上何卒下濟ニも致度旨申罷在候

十一月十五日天氣

寒氣強 金サシイ、トセ入 屋マツ入
丸打セシサ、トセ入
但月帯食今卯八刻 錢チ、チ入ウ厘ウ入
辰一刻一分半かけなから入 肥後米チシサ、チ入

一 今朝御礼久次郎罷出候、相勤申候、但後明院殿御法事於天王寺御執行有之由、依之申上置明日渡御為替証文今日久次郎御月番江持参差上、御書替者手前江持帰り申候

一 今朝料理朝常之通、屋小調塩焼 汁かふら才 夜酒肴玉子ふの焼

一 江戸当月六日出正金七仙両、今四ツ時無難到着ス

一 道修町老町目薬種商亮奈良屋藤兵衛居宅引当ニ取之、御印銀(四十五貫)シメ、利足チサ来ル四月切ニ而新取組出来、則今日取引相濟、尤町年寄裏印至極丈夫候也

一 当月十日丑中刻過々江戸市ケ谷本村尾州様御上屋敷御殿向焼失、明六ツ時火鎮り申候由、尤御殿向計之由飛脚を知ス

一 先月廿六日江戸上納銀拾壹貫五百目之御納札少々黒付有之御差支御座候付、御断書久次郎を差上置申候

一 当店子供玉村熊次郎病氣ニ付、今夕も宿元江引取致養生候

十一月十六日天氣 金サシ、マツ入、昼同事
 寒氣強 丸打セシ、ツシ、位
 肥後米休日 錢チ、ウ入、マツ厘

一今日御為替銀為請取、久次郎罷出左之通
 一銀^(四十三貫五百目)ツシ、マ、サ舟、十人組
 一銀^(四十六貫目)ツシ、カ、手前 一銀^(十貫五百目)ツシ、マ、サ舟、上田組

銀舟^(百貫目)、内小玉シ、上納来末二月十八日

右之通無故障請取申候付、例之通為御届夫々相廻り候、尤先月廿六日江戸上納相濟候御納札両通引替も相濟申候
 一今夕寒入二付、今昼せんさい餅 平倉橋大根 汁常之通

十一月十七日天氣 金サシ、ウ入、イ、昼サシ、カエ入
 丸打ウシ、舟シ、位 錢チ、チ入、ウ厘ウ入
 肥後米チシカカ也

一御酉様御被初御悅状宗龍様宛認今夕為差登申候

十一月十八日天氣 金サシ、エ入、ウ入、昼同事
 寒氣強 丸打舟、舟セシ、位
 錢チ、ウ入、イ、セ厘 肥後米チシカカセ入

一高池三郎兵衛入来、土岐様御家中桜井伝右衛門殿御事、此度五
 十石加増御年寄役被仰付罷登被申候、尤用向者関東井上方御領
 分共洪水風破損、其上殿様御代替等二而御物入多ク、当暮御差

支之由ニ而上方金主江金高^(四千)ツ仙兩御頼被成度候間、先鴻池方拙者内談致置候様、先達而申来り候付、同所江追々及内談候
 処、マ仙兩位出金可有之趣ニ相聞得申候、左候時は殘金イ仙兩^(二百)

ヲ四五軒の金主方江御頼可被成と奉存候得は、格別之金高二ても無之候、御家も御頼可被成候条随分御出金可被遣、尤右者御当用之儀ニ付御返濟方別段年限御定随分早ク御返濟被成候御工面之由相咄被申候付、何卒手前方御用捨相成間敷哉之段此方難^(虫)申断申取候処、皆無之御断者^(宜ケルマツ)間敷存候得共、前件之通鴻池方ニてマ仙も致出来候得は舟敷七舟御調達被成候而も相濟可申積奉存候、定而廿一、二日頃ニは着坂可有之候条、猶又差含及挨拶置旨可申旨被申聞候付、何分宜御断御申入可被下段相頼置申候

一江戸店々当月八日出為登金イ仙^(二千八百)チ舟兩今日無難致着候

一尼崎松平遠江守様御用人関六郎左衛門殿、外谷郷左衛門殿御出坂二付、店表江御入来、井口孫兵衛江宜申入候様御申置、猶又御酒五升一樽、饗節二連致到来候、右御屋敷孫兵衛死去二付、半兵衛名前二相改可申旨、此間口入之者江申入候処、今年者最早諸証文御取調へ相濟候付、明年々相改可申段申聞候、依之今年所者矢張孫兵衛名前二而相濟候

一本店中西庄右衛門殿初其外店掛り之寒氣為見舞入来、且江戸飛脚江戸屋源右衛門々為見舞鷹一羽到来ス

十一月十九日天氣

金サシ、カチ入、屋サシ、マサ入
丸打舟、ウ入、船、位
錢チ、ウ入也
肥後米チシエ、サ入

一 京都兩御役所御入用銀三拾貫目、來ル廿三日当地御金藏、御請
取被成候付、右請取方例之通手前江京都於御役所被仰付、則右
御証文本紙并写御添簡等相渡り候付、昨夕舟二京店出入男吉兵
衛、藤兵衛ニ為持差下シ被申、無難今朝着、右御証文并写御添
簡等請取申候、右京都店出入兩人者直ニ今夕舟ニ帰京ス
一 御兩殿并御家中御金方天満与力衆江寒中為御見舞今日久次郎罷
出申候、尤文次郎不快ニ付、不罷出候

一 阿部能登守様、土岐美濃守様御屋敷江同断為御見舞今日久次郎
罷出候

一 津久井武兵衛寒中為御尋店表江入來、京都江も宜為申登呉候様
御申置被成候

一 江戸店、当月十四日出本五日切書狀今酉刻前致到着候処、御為
替増渡之儀於彼地申込候処、來ル廿三日、來春江懸ケセ舟、
宛之積り、尤十二月渡り之内一建位者当地御金方御繰合次第マ
舟、渡リニ可被成下旨之御添簡申請為差登候付、即刻右御書
平三郎ニ為持遣、猶又明朝久次郎御金方江罷越御願申上候積り
ニ候、依之右之趣京都店へも及通達候

十一月廿日天氣

金サシ、ウ入、イ、屋同手
丸打舟、ウ入、マツ厘
寒氣強
肥後米休日

一 今日御金方江増渡り之儀為同久次郎罷出、吉野勝之助殿江懸御
目相尋候処、來ル廿三日セ舟、來月マ舟、同十六日、
來春江懸ケセ舟、宛御渡可被下旨被仰渡候、右冬分、春頃迄
セ舟、宛御渡可被下候、何卒可相成候ハ、当冬分江御繰越
マ舟、渡シ被成下候様仕度段相願候処、御繰合は相成候様子
ニ候得共、江戸表、宛と御下知御座候ニ付、於当地春
渡リヲ冬江御繰越之儀御取計難被成趣御申聞被成候付、右之趣
猶又江戸店、京都江も及通達候
一 秋田万兵衛事松甫当店出入差免候付、右御札請書等今日被持參
候付、猶又喜三郎及面会候

十一月廿一日天氣

金サシ、イ、入、屋、マサ入
丸打舟、ウ入、工、位
錢チ、ウ入、エ、也
肥後米チシカ、也

一 明後廿三日御為替渡為同猶又今日久次郎罷出候処、仲間江定式
之方銀セ舟、且清水御收納銀カシ、御渡可被下旨被仰渡
候付、則割合書并後明書、將又当月六日江戸上納相濟候御納札
尅通御月番江差上、御書替者十人組方江持帰り申候
一 本店支配人、当店支配人江手紙到來、奥村次右衛門剃髮願之通

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

御聞濟御座候付、昨廿日致剃髮、貞山と致改名并子息丈助儀次右衛門と致変名候由、右弘之儀は来月朔日、二日兩日ニ熨斗昆布ニ而相祝被申候段為相知来り候付、猶又本店江相尋申候処、右丈助儀は内々致養子ニ被置候由ニ而未京都江之届も無之候付、今夕右之趣京都江通達有之旨、將又右祝物之儀近来一統相止ミ有之候得共、役柄之者ニ候間、此度者元方并店々々も可被下置段申来り候由、尤家督人者忠右衛門ニ而、丈助儀は次男相建申候旨本店ニ而内々相咄被申候、依之右之趣京都店江為申登祝物等之儀尋合申候、且前件之次第当店掛り家督并退役中江も相知せ、猶又江戸店江も及通達候

一道明寺役人木戸与左衛門儀江戸表納経拜礼無故障相濟、去ル六日江戸出立道中無難今朝致着候由ニ而入来、尤江戸表逗留中彼是御世話罷成、其上彼地出立之節は御餞別等被下之忝奉存候、何分宜申遣具候様被申參候

一松坂宗惠様御儀、当春頃御声渴ク御痰症之御様子ニ而御座候処、此節寒氣強、別而御勝レ不被遊候付、彼是御医師方御伝被遊余程御六ヶ敷御様子之段、松坂店元方江御通達有之、右状面写京都店も爰元へも下り申候、然レ共御見舞状ニ者不及申候段申来り候付、差下不申候

一京都兩御役所御請取銀三拾貫目、来ル廿三日御請取被成候御証文之写一通、今日御金方江久次郎持參、御月番江御案内申上置候

一撰州吳田吉田喜平次方江安治川抱屋敷式ケ所引当ニ取之、銀高(三十貫目)マシメ、利足月チ朱、且無引当ニ而銀高(三十貫目)マシメ、利足チ朱サ右(八)両口共御印ニ而来ル未五月切ニ取組申候

一舟間屋高津屋幸七方江富島一丁目居宅并古川一丁目掛屋敷引当ニ取之、銀高(十五貫目)マシメ、利足ウ朱来未六月切ニ取組申候、吳田喜平次者勿論高津屋共随分丈夫口也

十一月廿二日天氣
金サシイ、エチ入 昼サエ入
丸打カチシ、位
錢チ、ウ入マツ厘
肥後米チシエ、也

一明日渡御為替証文并京都御役所御請取銀御証文、今日御金方江久次郎持參御月番江差上、御書替八十人組江持帰り申候

一鳥井幸七着船ニ付入来、田牧市右衛門、江戸屋源右衛門寒中為見舞入来ス

一今夜亥之刻梅檀木筋南本町南横町東側へ出火、即刻西側江火移り唐物町北側兩角へ南本町兩角迄不殘焼、凡東西三十間、南北四拾間計焼失、丑ノ刻時火鎮り申候

十一月廿三日天氣
金サシイ、ムサ厘 昼イセ入
丸打ツカシ、位
錢チ、ウ入セマ厘
肥後米チシエ、セ入

一今日御為替銀并京都御役所御請取銀等為請取久次郎罷出、左之

通

一銀(九十二貫五百目) 手前 一銀(八十六貫五百目) 十人組

一銀(三百貫目) 内小玉(二十貫目) 上納来末二月廿六日 一銀(二十貫目) 上田組

右者定式之方 一銀(二十八貫目) 手前 一銀(二十五貫目) 十人組

一銀(六十貫目) 小玉なし 上納右同日 一銀(七貫目) 上田組

右者清水御收納之方 一銀(三十貫目) 京都兩御役所御請取銀

右之通無故障請取申候付、例之通夫々為御届罷越申候、尤当月

六日江戸上納相濟候御納札引替も相濟申候

一次郎右衛門様御儀江戸表御帰京并寒中御見舞御兼被遊、今昼

舟二御下向、今暮時過舟中御機嫌能御着坂被遊候、御供寺田十

太郎并下男等無難致着坂候

一右御着坂為御悦本店中、中西庄右衛門、支配人奥田吉太郎、組頭

役片山儀兵衛入来ス

十一月廿四日 金サシイ、セ入サ厘 昼サシ、エチ入

丸打カチシ、位 錢チ、ウ入マツ厘 肥後米休日

一土岐様御家中桜井伝右衛門殿御用向ニ付御出坂為御土産左之通

八郎右衛門様江 一御菓子盆五枚箱入 一浅草海苔十枚 一御状熨斗包添 一御状熨斗包添 深井孫七郎江

右之通御足輕一人、中間一人ニ為持被遣候付、請取書認遣、右

之趣本状及通達御状品共為差登申候、尤伝右衛門殿御事追而

上京有之候段、右使之衆且高池も及承申候

一今日寄会相勤、本店中、中西庄右衛門、支配人奥田吉太郎、組頭

近藤三右衛門致出席候 (機脱) 一右寄会江次郎右衛門御出坂御出席被遊、左之通

一 大坂兩替店 是迄頭 矢野庄次郎

(此度組頭格被仰付候)の記事脱

右之通結構被仰渡難有奉存候、依之右之趣京、江戸、松坂江之元

方御状并京、江戸店江本状ヲ以及通達候、且京都、江戸、松坂主中

様方并店々江庄次郎御礼状夫々差上申候、將又当地店掛り、

家督并退役中、新田役人江も為相知遣候、尤本店掛りは本店も為

相知被申候、右之節料理 汁竹輪とうふ 茶碗蒸粟鳴 ねいも 焼

物細切身 酒肴 硯蓋くたさす 但金色ニ而右茶碗蒸汁持出ル

一今初夜半頃当店門口江出生四十日計ニ相成候男子捨有之候付、

即刻町内江相届、御番所江当店家守小野藤次郎、年寄病氣ニ付

月行事油屋四郎兵衛、町代付添御届申上候処、御聞置被遊候間、

致養育遣、追而外方遣候ハ、其節又々御断可申上段被仰渡候、

依之右捨子尼ケ崎町并池北江入町并筒屋平次郎借屋并筒屋新七

と申者江下役長藏世話ニ而預ケ置申候

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

一 当月廿二日紀州の御国御幸領衆兩人付添、皆金^(三)マ仙兩為御登被遊候付例之通元ノ衆宛請取書差出、右金高請取置、即夕京都店江右之趣申遣候処、右金高之内今夕金セ仙兩、明夕金曾仙兩天満屋飛脚^(二)為差登可申旨申来り候付、則天満屋江相渡為差登申候

十一月廿五日天氣 金サシイ、サカ入 星マサ入

丸打カチシ、位
錢チ、ウ入サエ屋
肥後米チシチ、也

一 道明寺江代參無人ニ付、横町与兵衛ニ御初穂例月之通銀^(一)イ兩為持代參為致候

一 矢野庄次郎御役入御礼本店并両店掛り当役、宅々江相廻り申候、其外家督并退役江も為挨拶罷越申候

一 次郎右衛門様御儀、今日御城代様、兩御奉行様并御家中、御金奉行様方、且天満与力衆、御金方同心衆、笠間御屋敷、高崎御屋敷、上田方等江戸御帰京御届、寒中見舞御兼夫々御勤被遊候、尤御上ケ物者定式之通、且御城代様并村田万大夫殿は先達而江戸御下向之節御餞別御座候ニ付、定式之外御音物有之、將又御城代様御家中江是迄者一統江戸御土産無之候処、此已来三郎助様初御格式被蒙仰御上京之節為御届御下向被遊候砌、右御家中方御勤先一統江胸紐五掛或者三掛、御家老方江は着添差送り有之候付、此度右之品改江戸御土産として差送り申候

一 土岐様御屋敷ノ御使者川村伴右衛門殿并中間三人店表江入来、

殿様御儀今般御家督被為蒙仰、為御祝儀左之通
一千鯛一箱 八郎右衛門様江 一金七舟疋 深井孫七郎江
金子三百疋
但堅目錄添

右之通御意之趣ヲ以被下置候付、京都江為差登、本状及通達御札狀御使者江之溜メ等之儀も為申登候

一 阿部様御家中岡孫右衛門殿、原田五左衛門殿ノ次郎右衛門様江手紙到来、明廿六日用人共可懸御目候間、昼時頃勘定所江御出被成候様私共ノ可得御意旨申聞候段被仰下候付、次郎右衛門儀京都用向有之候付、先刻乗舟帰京仕候旨、久次郎參上取繕御断申上候、尤島村新兵衛殿も同様申来り候付、是又程克取繕御断申上候

一 渡部新三郎入来、中西とな方内婚礼来月四日相整申積りニ御座候、尤弘メ之儀者来春相務申度旨為届入来

一 次郎右衛門様御儀当地御用向相済、今夕舟ニ御帰京被遊候、依之本店ノ為御暇乞中西庄右衛門、支配人武右衛門、組頭三右衛門入来ス

十一月廿六日小雨降 金サシイ、サカ入 星同事

丸打サエシ、位
錢チ、ウ入サエ屋
肥後米チシチ、ツ入

一 奥村次右衛門儀剃髮、貞山と改名、来月朔日、二日七十賀并剃髮弘メ相整被申候段、本店ノ申来ル、依之当店懸り之衆中江右之

趣為相知遣し候

一次郎右衛門様御儀、明廿七日京都御屋敷方江御帰京御届御出勤被遊候付、御土産物左之通

御兩殿江甘鯛五枚宛 北御用人四人 生半開
兩御家中十二人 金京魚五枚宛
背體入 兩公事方八人

右之通今夕舟ニ爰元出入弥七ニ為持為差登申候、尤右之趣別紙ヲ以委細為申登申候

十一月廿七日曇天 金サシイ、サ入サ厘 昼カ入サ厘

丸打カチシ、位
錢テ、ウ入カエ厘
肥後米休日

一土岐様御家中桜井伝右衛門殿御事、御用向ニ付御出坂之由ニ而入来、尤来月中頃御帰府之段被仰置候事

一右御屋敷久次郎呼来り候付、則致參候処、当月十八日高池三郎兵衛内々申聞候趣、猶又御申双ツ仙両之内マ仙兩鴻地江御頼、(三)殘金曾仙兩之内手前江マ舟兩も御頼被成度候得共、詰ル所セ舟

兩殿舟サシ兩者是非致調達具候様、尤利足エ朱五ヶ年賦御返済之積り、右之趣伝右衛門殿御上京御頼可被成処、短日之砌何角御繁用ニ付、得御出京不被成候間、何分京都江宜為申登具候様、尤右之通致出金具候ハ、当暮年賦者無相違御渡可被成旨被仰聞候

一右之節高池三郎兵衛内々申聞候者、御家督老之助様未御幼年ニ付、沼田御交代無御座、其外万事御儉約被成候得は、一ヶ年ニ

(二)イ仙兩宛者御物入相減シ候付、五ヶ年之間二者急度無御相違御返済致出来候段相咄申候付、右等之趣、且桜井氏此度御役替御加増祝物權代銀野杖ニ鏢節一連八郎右衛門様、鏢節一連孫七郎、差送り可申哉、將又土岐様、阿部様御屋敷孫七郎勅方引申儀、此節御懸合中八郎右衛門様度々御文通御座候付、此砌被仰込可然哉之段等今夕京都店江本状委細及通達候

一 当月廿二日夜九ツ半時、芝宇田川町東側裏町二、三十軒程焼、夫々東江焼出新錢座家數二、三十軒程焼、八ツ半時火鎮り申候由、尤芝口店、南江五、六町程隔風脇ニ而有之候旨、増上寺御浜程近ニ有之候由、江戸屋源右衛門方、為相知候

一 上田三郎左衛門殿、此間次郎右衛門様御出被遊候為挨拶入来

十一月廿八日 天氣 金サシセ、セ入 昼イ、ウ入セ、
丸打カチシ、位
錢ウ、マ厘
肥後米チシ、イ入

一 当月切山本三次郎、三太郎銀セシメ、歩合エサ之口来ル未五月切ニ置居、且鉄質チシメ、歩合エサ川崎屋八三郎置守、来未二月迄置延遣ス

一 今治方池田屋吉兵衛、河内屋伝兵衛、鴻池屋六兵衛、深江屋惣左衛門江御印取組、銀ツシメ、且今治方之貸シメ、共此度対談之上請取、右之外加入方者其儘差置申候事

一新田方貸当春改対談之通、年賦銀今日相納、尤自分貸之方も同

様請取候事

一 今日店荒神祭ニ付、昼汁天王寺 焼物生干金京魚塩焼

十一月廿九日天気

金サシセトイセ入 昼セトサエ入
丸打サエシト位
錢チウ入チウ厘ウ、
肥後米チシウトセ入

一 亀屋伊兵衛名前米平口正金曾(二千)仙兩入替当月切ニ有之候付、対談
之通銀サシ(五百目)メ今日請取、正金曾仙兩差戻シ差引無之候付、証
文取遣等相済申候

一 残蠟払切代銀セシイメ(二十一貫七十五匁七分九)エ入ウ厘、当十八日請取相済候、
右蠟最初メ売払損銀高ウシツメ(九十四匁百六十一匁七分九)舟カシイ、エ入ウ厘之内マシウ(三十九)
メチ舟、京都店引請ニ相成、残りサシツメ(五十四貫三百六十一匁七分九)舟カシイ、エ入ウ

厘者大坂両替店要銀ニ而引捨、蠟方差引此度本帳消合相済申候
一 阿部様御用人村田万大夫殿メ八郎右衛門様、次郎右衛門様、元
之助様江御状相添、例年之通寒中為御尋蕎麥粉一箱、名代孫七
郎江も同式袋京都奥田店メ相届候由、右御札御状本状メ下り申
候付、即刻相届申候

一 土岐様御家督御祝儀被下置候御札状、八郎右衛門様メ江戸御家
老三人宛白米御状箱一ツ、孫七郎メ桜井伝右衛門殿宛書状壹通
下し候付、当地御屋敷江相頼、桜井氏江之書状は此節在坂ニ付
相届御使者川村伴右衛門殿江溜メ銀イ両、若党江セ、仲間式
人江鳥目舟文宛半紙添遣ス

一 加州当年御塚合相済候付、牧野平左衛門殿江龍文絹疋疋、生肴
相添差送り、猶又久次郎為御札罷越候

十二月朔日雨天

金サシマトセ入 昼マトサチ入
丸打サエシト位
但小豆餅相祝候事
錢ウマ厘
肥後米休日

一 今朝御屋敷方御札久次郎相勤候、文次郎儀不快ニ付不罷出候
一 当月御月番佐野備後守様御金方三浦藤左衛門様并下シ番手前ニ
而相勤ル

一 奥村貞山七十賀并剃髮弘今明日相整候付、五ヶ所メ之祝物差送
り、為悦孫七郎、半兵衛、久次郎罷越候

一 牧野平左衛門殿メ久次郎、文次郎江寒中為御尋生肴兩種一籠手
紙相添致到来候付、御札答認遣、猶又為御札罷越候
一 桜井伝右衛門殿今般御中老御加増被蒙仰候祝物左之通
一 御機代銀七枚 八郎右衛門様メ 一 鏝節一連 深井孫七郎メ
右之通此節御出坂ニ付、於当地八郎右衛門様并孫七郎書状相添
差送り申候

一 今朝汁常之通 平人參こもふ 昼汁金京魚とうふか小才 焼物金京魚
いも 餅み 汁

一 当地菓種屋仲間例年十一月晦日仕切候処、菓種并沙糖類大下り
ニ相成、身上差支候分当地井所々ニ而凡左之通
夜酒肴海老鬼焼吹田かかい青そ
二相成、瓦町二丁目 伏見屋太兵衛 和泉屋惣七
淡路町二丁目

内談路町

道修町一丁目

本町町

池田屋三郎兵衛 奈良屋藤兵衛

平野屋半兵衛

平野町一丁目

河内屋仁右衛門

大和屋弥兵衛

平野屋佐兵衛

和泉屋六三郎

日野屋代助

道修町一丁目

奈良屋忠兵衛

上野

内談路町

池田屋宇右衛門

上野

池田屋嘉兵衛

奈良屋藤兵衛

日野屋代助

右之拾四軒者問屋之由、但奈良屋藤兵衛方御印取組有之候付
早速及対談罷在候

一右之外国道修町辺ニ小店之者数多有之候得共、委ク名前相知レ不
申候、尤江戸表二十四五軒、京都ニ而三条室町鍵屋弥兵衛、井
筒屋伊右衛門但二条辺丸大別家手代之由、堺材木町酢屋久左衛
門其外名護屋ニ拾軒計有之候旨ニ候

十二月二日天氣

金サシマ、サエ入 星ツサ入
丸打マサシ、位
銭ウ、セマ屋
肥後米ウシイ、也

一御所司様御組筆墨紙其外諸入用銀七百九拾九匁五分、三輪市十
郎様御役所右同断、銀六百目右御証文両通并写両通御添簡等本
状并御書番状通達ヲ以京店出入喜十郎、甚兵衛持下り、今朝着
改請取申候、尤右両口銀高来ル五日当地御金蔵ヲ御請取之御証
文也

一京都ノ元方状奥村貞山、深井孫七郎宛致到着候処、松紀来状之
写

一大殿様御儀当月七日御剃髮被遊、太真様と御改被為遊候段

同十日御触通在之候

一廿日御触通之趣左之通

大殿様御名文字と同文字相認候名之面々名相改候儀者勿論之
事ニ候、夫ニ付名之上ニ而も下ニ而も、太之字計附有之筋者
名相改候筈、名之上ニ而も下ニ而も太郎と統候筋は名相改候
ニ不及候、太夫と統候筋も改ルニ不及候、たとへは太兵衛、
太左衛門、左源太、右源太と申筋は相改候筈ニ候、太郎左
衛門、太郎助、何太郎と申筋、又ハ何太夫と申筋ハ名改ル
ニ不及筈、シント唱候名ニ而も御名文字と違候筋ハ是又改ル
ニ不及筈

右之通御通有之候間、此段宜被仰上可被下候

一右之通申来り候付、当地御宅々井店々当役人中右御名、同文
字之分ハ右之御趣ヲ以早々致改名候様主中様方ノ被仰付候而、
則廻文差出し候儀ニ御座候、依之其御地店々当役人中迎も右
御触通りニ相当り候名文字之分ハ早々改名可被成候、此旨拙
者共ノ御通達得其意候様被仰付如斯御座候

十一月廿九日

右之通京元方名代已上木村忠兵衛連名ヲ以奥村貞山、深井孫七
郎宛ニ而申来候付、則本店ノ中西庄右衛門持参、孫七郎一覽之
上写置、尤右返事は於本店相認差登ス
一三郎助様御方御善様御儀、今般御里楚様と御改名被遊候段、京
都店ノ別紙ヲ以申来り候

一丸山弥兵衛ノ例年之通寒中為見舞生鱒五尾今日当店江到来ス

一土岐様新調達金之儀、京都江先月廿七日所ニ扣有之候通及通達候処、時節柄御断も被仰度思召候得共、無御処御頼候間、当暮年賦御渡方相違無御座候様御儀定申上、金高舟(百)両御請可申旨申来り候付、今日右御屋敷江久次郎参上、何角取締右之趣御返答申上候処、先以舟(金之)御出金可被下段大慶存候、乍然當時金相庭下直旁舟金ニテハ差繰難致候間、是非舟サシ(百五十七)金御頼申度候、其元江当暮御渡可申年賦凡ツメサ舟(百五十七)程ニ候、當時之金相場二而右ヲ差引申候得は、漸カエ舟(六七百)之手取ニ相成、夫ニ而は甚手操難致候条何分舟サシ(百五十七)両致調達呉候様被仰聞候付、猶又高池へも右之高ニ而相濟候様挨拶致被呉候様相頼候処、先今日は御引取可被成候、今一応相考桜井氏江も致内談候而自是又々可得御意候申聞候付、何分宜御申入給ル様相頼罷帰り候

十二月三日天氣

金サシマハイセ入 昼同事
丸打マサシ位
錢ウエチ厘
肥後米ウシイムツ入

一明後五日御為替銀為伺久次郎罷出候処、仲間江(三百貫目)舟メ御渡可被下筈、則割合書、後明書并京都筆墨紙諸入用御請取御証文之写等御月番江差上置申候

一土岐様御屋敷ノ八郎右衛門様江寒中為御尋中村八郎左衛門殿、渡辺庄左衛門殿、秋田善左衛門殿御状相添、鴨一(御)御到来被遊候(虫掛)右品京都江為差登、本状(虫掛)及通達候、尤御(供カ)足輕一

人、中間一人之段も申遣候

一奥村貞山七十賀剃髮名前譲り替弘替等無故障相整、祝物等差送り候為御礼、悴忠右衛門、次右衛門入来ス

一京本店上島太郎兵衛儀、今般七郎兵衛と致改名候旨京店ノ別紙ヲ以申来ル

一喜多川儀四郎殿并鳥居幸七、秋田松甫寒中為見舞入来、尤儀四郎殿二者京都御主人方名代中へも何分宜為申登呉候様、訳而御申置被成候

十二月四日天氣

金サシマハセツ入 昼同事
丸打マサシ位
錢ウエチ厘
肥後米ウシイムツ入

一明日渡御為替証文并京都御役所筆墨紙御請取御証文両通共御月番江久次郎持参差上、御書替者手前、上田両方江罷帰り申候

一土岐様前件御用達金之儀、高池氏江も相頼色々御断申上候得共、外方江御頼用達被申候振合等御申双、何分ニも舟サシ(金カ)致調達呉候様混(櫻井カ)頼ニ付、今夕右之趣京都店江本状ヲ以猶又及通達候、尤(櫻井カ)氏来ル十一日頃出立御帰府之御積り之由ニ付、其段も申遣御餞別之儀相尋遣候

十二月五日曇天

金サシマハツカ入 昼チ入ムツ
丸打マサシ位
錢ウエチ厘
折々小雨降屋時晴
肥後米ウシイムツ也

一今日御為替銀為請取久次郎罷出左之通

(百三十八貫五百)
一銀舟マシチメサ舟、手前 一銀舟マシメ、十人組
(三十一貫五百)

(三百貫)
一銀マ舟、内小玉マシメ、上納末三月六日 上田組

右之外京都御役所筆墨紙代銀エ舟ウシウ、サ入、右同断
(七百九十九匁五分)

銀カ舟、三輪様分共
(六百匁)

右之通無故障請取候付、例之通為御届夫々相廻り申候、尤京都御役所御請取銀之儀は本状及通達候

十二月六日雨降 金サシマ、チ入、ツ、昼同事
夜中風立 丸打セシ、ツ、位
肥後米ウシ、ウ入 錢ウ、イ入、イ厘

一勢州宗憲様御病氣御同遍と申内、日々御勝レ不被遊候由、依之御見舞差下可申旨、京都店申来り候付、則昨夕差下申候

一山川太右衛門事此度伊右衛門と致愛名候段京都店申来ル

十二月七日天氣 金サシツ、イセ入、昼マツ入
風立 丸打シ、イ入、セ厘、位
肥後米ウシ、イ、也 錢ウ、イ入、セ厘

一奥村貞山方々七十年賀剃髮為祝儀赤飯一重店表江出ス、尤当地限別宅人中江も一重宛到来ス、孫七郎も組合祝儀差送り候付、是又同様到来ス

一鳥村新兵衛殿并西方寺寒氣為見舞入来、尤西方寺は納豆一曲使僧ヲ以到来ス

一石井与三郎半元服、井口庄太郎上座ニ申付ル

一土岐様ハ八郎右衛門様江御到来鳴一番御礼状下り候付、御使へ之溜メ足輕銀セ、仲人鳥目丹文相添為持遣ス
(二百)

一御同所様新調達金之儀段々無扱被仰聞、其上舟サシ金之内相減申候得共、御年賦銀御渡方五ヶ年御断之趣ニ付、不得止事被仰聞候通舟サシ金御請申、右御年賦銀之儀年々無御相違御渡被下候様得と致義理詰御請申上候様、京都店申来り候付、今日右御屋敷江久次郎参上、桜井伝右衛門殿江懸御目右之趣取繕、弥金高舟サシ兩御請申上御年賦銀年々無御相違御渡被下候様御義定申上候処、纏之儀押而御頼申候も氣之毒存候得共、外方一統割合之儀ニ付強而御頼申候処、預御承知忝存候、然ル上者年賦御渡方之儀年々急度無相違御渡可申候条、此段京都江何分宜為申登具候様厚ク御挨拶被仰聞候、尤右新調達年賦御渡方等当十一、二日頃御差引可被成旨、且御同人御事当地御用向相濟候付、当十一日御発駕御帰府之由被仰聞候、依之儀別之儀京都店江内談及通達候

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

一深井孫七郎儀当春々爰元店江為勤番罷出、右之内者阿部様、土岐様御屋敷病氣分ニ申立置候処、此節ニて、ハ、右両御屋敷共孫七郎致出坂罷在候段、薄々相聞得有之趣ニ付、此節右両御屋敷共專御懸合も御座候付而者、何角と不都合之筋も有之候、依

之此度ハ孫七郎右両御屋敷共引退、已来五十川清太郎相勤候積り主中様方ハ御通達被遊候付、右之趣今日桜井氏へも久次郎ハ御断申上、猶又島村氏江も同様取繕御断申上置候

一道修町一丁目加賀屋弥三右衛門居宅并道修町三丁目加賀屋弥一郎抱屋敷一ヶ所引当ニ取之、右別家加賀屋仁兵衛、同美代判宇兵衛連判証文ヲ以銀高サシメ、歩合月イ歩来ル末三月限引当丈夫ニ付、新取組致遣候

十二月八日晴天

金サシツ、ツカ入 屋マ、ウ入ダツ、
丸打シ、ハセシ、位
錢ウ、イ入エチ厘
肥後米ウシ、イ、カ入

暖氣之方

一寺井瀬兵衛儀、南紀御下ケ金之儀ニ付罷下り、今朝着坂、無難

貝塚泊り之積罷下ル、供男甚兵衛、爰元ハ新藏遣ス

一爰元ニ吉野花供儀カ法カと申町内触ニ而家別ニ米一升程取ニ廻ル、且垣当之由町里と同断取ニ廻ル、但二季ニ相廻ル

一勢州宗惠様御病氣御勝レ不被遊候、甚御大切之様子ニ候間、御見舞状差下候様京都店ハ申来り候付、則御見舞今夕京都店向為差登申候

一当店向角屋半右衛門後家死去、今七ツ時於浜墓所葬式相営被申候付、男頭徳兵衛差出ス

一和大屋次兵衛平野町抱屋敷一ヶ所引当ニ取之、銀千貫目シ、歩合月イ歩来ル五月切ニ御印取組、引当随分丈夫口ニ候

十二月九日曇天

暮時ハ雨降
金サシツ、イセ入 屋セマ入
丸打シ、ハセシ、位
錢ウ、セ入サエ厘
肥後米ウシ、セ、セ入

一西方寺貞玉尼ハ寒中為見舞納豆一曲到来ス

一先月廿四日夜当店門口江捨候小兒儀カ氣強養生不相叶今朝致死去候付、早速東御番所江町役人中并爰元店藤次郎同道御届申上候

一御檢使御出被成、書物等御取相営候様被仰付候付、梅田墓ニ而火葬ニ相営申候、御檢使東組同心三宅四郎右衛門殿也

一勢州宗惠様御儀段々御差重御急變差出、終五日夜八ツ時御死去被遊候、依之則兵衛様、則右衛門様宛御悔状差上可申旨、且御

戒名左之通
十二月六日

功々齊宗惠居士

右之通京都店ハ無番状ハ申来ル、依之御悔状京都店江向為差登申候

十二月十日曇天

金サシツ、ツカ入 屋ツサ入
丸打シ、ハセシ、位
錢ウ、セ入ウ厘マ入
肥後米ウシ、ツ、イ入

一桜井伝右衛門殿御事当地御用向相済明朝出立、御帰府ニ付京都店江申遣、御餞別左之通
御端物料
一金サ舟疋 八郎右衛門様ハ 一多葉粉入五ツ 孫七郎ハ

但此度土産到来付

右之通今日差送り申候、尤右餞別之儀御城代已前之格とは格別宜相成候、当時殿様御代も替り、度々御引合事も無之候付、

右餞別之儀等御城代已前之振合ニ立歸り、古^(三十四)伯丹後羽織地袴地^(五十九)之類直段マツシ、或はサシ^(五十九)之位^(五十九)之品ニ而可然哉之旨、京都店江

申遣候処、先此度は近例之通り金サ舟疋可遣段申来り候付、右^(五百)之通差送り申候、已来者前々之形ニ戻り候方可然候事、且大坂

店名代江は土産無之候付、是迄何逆も孫七郎一名ニ而差送り候、

尤孫七郎此度□□退候得共、土産物到来ニ付、右之通差送り申候、久次□□も今日為暇乞堀川御屋敷江罷越申候

一宗惠様御死去ニ付御慎方之儀元方御状之左之通

遠慮四日
御宅々表大戸閉申建
精進七日

遠慮四日
店々内一日見世上ケ
三日長暖簾
精進七日

一其元店々之儀建之通半減ニ相心得可被申候
右之通被仰下候付、当地両店申合左之通

遠慮二日
内一日見世上ケ
精進四日 但十三日迄

右之通ニ付両店共今日夕方見世早クメ候而、本店者明日計台所
中戸江暖簾掛ケ被申、両替店は見世入口西之方江境格子壹枚入
置申候事

一右御不幸之儀本店申合、家督并退役江も廻文ヲ以申遣ス

十二月十一日天氣

金サシサ、也 屋サ、チウ入
丸打シ、マシ、位
銭ウ、ツ入マ厘
肥後米ウシツ、也

一関東筋川々并伊豆国川々御普請御用掛り当月六日^(虫患)之間左
之通被仰付候

松平^(内)蔵頭様

松平安芸守様

三十壹万五千石

四拾二万六千石

松平出羽守様

松平土佐守様

拾八万六千石

二十四万式千石

松平阿波守様

有馬中務大輔様

二十五万七千石

二十壹万石

松平大膳太夫様

松平相模守様

三拾七万石

三十二万五千石

松平富之進様

松平主殿頭様

拾万石

七万石

加藤遠江守様

京極能登守様

六万石

五万千石

内藤徳丸様

伊東虎三郎様

五万石

五万二千石

溝口龜三郎様

九鬼長門守様

五万石

三万六千石

伊達和泉守様

吉川監物様

三万石

六万石

十八大名御知行合式百八十九万石

右之通^(被)仰付候段、江戸店申来ル、尤於当地高池三郎兵衛

二而者御金御手伝ニ而御知行老万石ニ金千七百兩宛之御割法之由、左候時者前件御知行高ニ而金合四拾九万三千三百兩ニ相成ル

一桜井伝右衛門殿御事、弥今朝御発駕御帰府被成候

一江戸当月四日出本六日切、同六日出五日切書状今夕方追々相違

先頃相願候御為替増渡之儀願之通御開濟被成下、春渡り之分年

内江御繰越、当月十六日、廿三日共仲^(金題二百五十貫目)マ舟サシメ宛、来

ル正月十六日、廿三日者サシメ宛御渡可被下旨於江戸表被仰

渡、則右之趣当地御金方江之御添簡御渡被下候処、今夕方到着

ニ付、不取敢先平三郎ニ為持遣御届申上置、猶又御渡シ方之儀

明朝三組申合罷出御伺申上候積りに候、依之右之趣京都店江本

状ヲ以委細及通達候

一宗惠様御不幸ニ付今日当店境格子入長暖簾掛相慎

一御同所様御中陰御法事之儀ニ付、本店庄右衛門殿相談被參、先

格繰出シ宗三様之通り明十二日御初七日ニ相当り候付、於西方

寺御法事御執行御頼申積相極決着致候付、則右之趣同寺江案内

被致候

一京都店本状到来、去巳年大川筋店役銀来ル十六日当地御金蔵

納相成候付、小堀様カ斎藤空之丞殿手前カ深井助九郎、島本方

細野平十郎付添、来ル十四日昼舟ニ罷下り申候間、例年之通

於当地は手前カ何角致世話候筈ニ候間、旅宿案内出迎、其外上納方万端無間違取計可申旨、則御銀高左之通

一銀三拾九貫四百六拾目七分貳厘 手前分

一銀三拾七貫八拾三匁七分三厘八毛 島本三郎九郎分

一銀七拾六貫五百四拾四匁四分五厘八毛

右之通申来り候、且右之外ニ同日伏見新舟運上銀八貫六百目上

納相成候付、右御証文之写一通到来、御銀并御証文御本紙者来

ル十四日昼舟ニ前件便りニ助九郎持參罷下り候間、日限無間違

相納御納札申請為差登可申旨、右之御添簡者昨夕為差登今日着、

則相届申候

十二月十二日曇天 金サシカ、チ入、マ入 昼エ、マサ入

夜中雨降

丸打セシ、ツツシ、位 錢ウ、サカ入 肥後米ウシマ、ウ入

一御為替増渡り之儀為何三組申合罷出候処、御下知之通弥来ル十

六日、廿三日共仲間江マ舟サシメ宛来ル正月十六日、廿三日

者仲間江サシメ御渡可被下旨被仰渡候

一高池三郎兵衛入来、土岐様御用達金之儀御苦勞罷成忝奉存候、

伝右衛門殿ニも宜御札申入候様被申置候旨、於拙者も忝段為換

摺入来、且右御用達金舟サシ両今日之相庭ニ而代銀付仮証文御

渡可申候間、今日金子相納具候様、将又年賦銀御渡申儀は一両

日中自是御案内可申段被申之候、依之右金高舟サシ両今日相場

(五十七名分)

サシエトツ入替之積、式朱判ニ而納代銀八貫六百拾匁代付之飯御証文引替相納申候

一宗憲様初七日ニ付、於西方寺御法事有之候付、孫七郎、久次郎本店の庄右衛門、武右衛門參詣ス

一西方寺来春本山黒谷御忌当日導師被相勤候付、先達而寄附之儀村井新左衛門ヲ以本店、両替店江も被相頼候付、両店相談之上此間金サ舟疋差送り申候処、今日右之挨拶叮嚀ニ被致候

一寺井瀬兵衛紀州御用向相濟、今夜亥刻致着坂候

十二月十三日雨降 金サシエトマ入 昼カトチ入

夜四ツ時ヨ晴 丸打シノカ入サ厘エ入 肥後米休日

一寺井瀬兵衛儀、今日笠間御屋敷江参上、当暮之御勘定一日も早ク御渡被下候様申込候処、来ル十八日以後、金子御買入無相違御勘定可被成段被仰聞候
一右同人今夕罷登リ可申込、雨天故出舟無之見合罷在候

十二月十四日天氣 金サシカトイマ入 昼サトウ入カト

丸打無打シノ位 錢ウツ入サ厘 肥後米ウシカトイ入

一明後日渡り御為替為伺久次郎罷出候処、仲間江マ舟サシメ、御渡可被下旨、則割合後明書、且先月廿六日当月六日江戸上納相

(三百五十貫目)

濟候御納札等持參御月番江差上、且大川筋伏見新舟上納銀之儀等御届申上置候

一寺井瀬兵衛儀御用向相濟候付、今昼舟ニ帰京ス
一江戸屋源右衛門方左之通御用懸被仰付候段相知ス

將軍宣下 松平周防守樣

御代替法令 牧野越中守樣

種姫様御入與 水野出羽守樣

御朱印御改 島居丹波守樣

ノ

一大川筋国役銀并伏見新舟運上銀、同御納御証文等小堀様手代齋藤李之丞殿并深井助九郎、島本手代細野平十郎付添今昼舟ニ罷下、舟中無難今七ツ時着坂、御銀并御証文等改請取申候

十二月十五日終日雨天

金サシサトセサ入 昼ツツカ入 丸打サトシサ位 錢ウツ入サ厘 肥後米ウシカトウ入

一今朝御礼久次郎罷出候、夫ヨ明日渡御為替証文并伏見新舟運上銀御証文共御月番江差上、御書替手前江持帰り申候、尤大川筋納御証文者齋藤李之丞殿ヨ御月番江御差出、御書替も御同人御持帰り被成候

一八郎右衛門様当寒氣為御見舞御下向可被遊処、未御不快ニ付、今日名代ヲ以定式茶宇御上下地二具宛御両殿江久次郎持參、右

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

之趣程能御断申差上申候、且両御家中并天満与力衆江も定式之通目錄為持差送り申候

一 今朝常之通、昼歸あん懸、汁干かふら 夜酒肴鯛小串ゆりね

一 小堀様御手代齋藤李之丞殿旅宿天満河内屋伊兵衛方江久次郎并深井助九郎御見舞申候

一 銅座之此間当月廿九日切江戸御下金三千兩為替被仰付、其段当月十一日御勘定所江御届申上候処、若林市左衛門様御立出、右金子者羽州江御差下ニ相成候付、廿九日ニ相納候而ハ間ニ合不申候間、相働廿三、四日頃相納候様被仰渡候由、然ル処、右引繼為替当月廿八日切ニ当地之取組遣候付、逆も繰越納相成不申、江戸店ニも時節柄遊金無之候付、其段御断申上候得共、半金ニても繰越相納候様被仰渡候段、当月十一日出四日切仕立飛脚ヲ以申来り候、依之爰元取組先江右日限廿三日切ニ縮之儀及内談候得共、二軒ニ而式千兩者右日限引繼無之段断ヲ申、残り千兩式百五拾匁打ニ而廿三日請取候積り致対談、添状取之、且正金千兩今夕七日切ニ而差下、残り千兩者当月廿九日ニ御断申上相納候積り、今夕五日切仕立飛脚ヲ以江戸表江及返答候

十二月十六日朝之内雨天
星過る晴
 金サシサ、ツカ入 昼マサ入
 丸打サ、シサ、位
 銭ウ、サカ入
 肥後米ウシウ、エ入

一 今日御為替銀請取并伏見新舟運上銀納等久次郎罷出左之通

一 銀舟カシイメサ舟、手前 一 銀舟サシイメサ舟、十人組
(百六十二貫五百目)
(三十七貫目)
 一 銀マシエメ、上田組
(二百五十五貫目)
(三十貫目)

一 銀八貫六百目伏見新舟運上銀納方相濟御納札申請ル

一 大川筋国役銀納方無故障相濟、小堀様手代齋藤李之丞殿之手前分上納銀高書替御渡被成候、島本方も同様御渡被成候

右之通請納共無故障相濟候付、例之通為御届相廻り伏見新舟御納札御印等頂戴相濟候、尤当月六日江戸上納相濟候御納札引替も無故障相濟申候

一 右之通大川筋国役銀上納并伏見新舟運上銀上納無故障相濟候付、小堀様御手代齋藤李之丞殿并深井助九郎、島本手代細野平十郎今夕舟ニ罷登ル、尤伏見新舟運上銀御納札彦通助九郎右幸便ニ持登ル、將又右幸便ニ銀マシメ、并当座差引殘金等為差登候様申来り候付、是又右同舟ニ助九郎京店出入又七付添為差登申候
(五十四貫目)
 一 京店差図ニ付銀サシメ、今夕江戸店江当地店之差下申候

十二月十七日晴天
但節分也
 金サシサ、サチ入 昼チ入カ、
 丸打サ、セシ、位
 銭ウ、サカ入
 肥後米休日

一 紀州替金(四十五)ツシサ兩京都店之り候付、栗山惣兵衛殿江向当方之書状相添今夕差下ス、尤此儀此間瀬兵衛罷下り候節、栗山氏江委細申達置候事

一九郎右衛門様、御千勢様、当店江歳末為御祝儀金子舟疋被下置候、尤右者是迄孫兵衛、嘉平次江被下置候代りニ可有御座哉と存候

一 柘植長門守様撰州吹田御知行所太田官次殿入来、江戸右御屋敷江之御下金百両御頼ニ付為替取組遣候、尤此儀先達而江戸於御屋敷御用人衆、三郎助様并名代江も御頼被仰聞、兼而申来り有之候付、其趣ニ取計申候

一大津屋九兵衛御池通三町目一ヶ所、阿波座敷屋町一ヶ所、橋通(四十五貫目)り三町目一ヶ所、右三ヶ所共町々年寄奥印取之、銀高ツシサメ、歩合子朱サニ而来未五月限ニ引当、丈夫ニ付取組

一 今日座敷床江年徳神懸燈明洗米御酒、且同入口江楓ニ洗米、燈明其外神棚荒神等同様料理方朝常之通、星猪口輪大根、汁常之通、平鴈、焼物(丹後)肴(午尻)夜食(平)白(とう)ふう

一 竹内文次郎小齋ニ而十月、引籠罷在、今日、出動ス

十二月十八日雨降夜七ツ
辰二割立春
金サシカ、ウ入、エ入、星カ、ツカ入
丸打シ、マシ、位
錢ウ、エ入、サ厘、チ入
肥後米ウシ、ウツ入

一 戸川山城守様、例年之通次郎右衛門様江寒中為御尋小嶋二羽被下之候付、即夕京都店江向為差登申候、右者用達佃屋吉兵衛方、為持差越ス

十二月十九日曇天
金サシカ、ウ入、エ入、星同事
丸打シ、マシ、位
錢ウ、エ入、サ厘
肥後米舟、也

一 当店昨夜四ツ時、煤払、但夜四ツ時表二有之候証文箱并諸道具奥座敷江相片付、夜七ツ時、表通り店勘定場其外疊揚ケ候事、尤今八ツ時夕飯、(生)汁(大)根、(身)焼物(二ツ)切、酒出ス、肴なし
一 新田浅田弥助儀、当暮、弥右衛門と致変名度旨、差支無之哉之段申来り候付、則差支無之候条、勝手次第変名可有之旨申遣候、尤変名之上猶又相届可申段も申遣候

十二月廿日天氣
金サシカ、ウ入、カ、イ入
丸打無打、シ、位
錢ウ、カ、エ入
肥後米舟、也

一 笠間御屋敷当暮御勘定御差引金当年者不残於当地御渡被成候筈ニ候、右之内江今日金千四百両御渡被成候付、右之趣今夕京都店江別紙ヲ以及通達候
一 江戸店松島太助事今般林右衛門と致改名候段、当地本店、為相知被申候、尤京都店、も同様申来り候

十二月廿一日曇天
庚申
金サシカ、セ入、星同事
丸打無打、シ、位
錢ウ、カ、入、サ厘
肥後米休日

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

一 明後廿三日渡御為替為同文次郎罷出候処、仲間江定式マ舟サシ(三百五十貫)

目、清水御收納銀カシメ、御渡被下候筈、依之割合書付明家質

書付等御月番江差上申候

一 笠間御屋敷御勘定当暮御渡金之内、今日マ仙両御渡、殘金者明日明後日之内御渡可被成旨被仰聞候

一 土岐老之助様御屋敷当暮御年賦并御利足等高池方、今日相渡、左之通

一 銀(三百二十二匁)マメマ舟シセ、
元銀ウシセメ之内(九十二匁)
当年年分年賦渡、
元銀濟殘高シメセ舟之内江当年年分元濟(十匁二百匁)

一 銀カ舟、
元銀ウシセメ之内江当年年分元濟(十匁二百匁)

一 銀サ舟シ、
右同断当年年分御利足

メ銀ツメツ舟セシセ、
右之通相渡り候付、例之通久次郎請取書ヲ以無滞請取申候付、

右之趣京都店江本状、及通達候

一 当地御金同心辻村忠右衛門殿、村田惣右衛門殿事江戸御勘定無故障相濟、当五日江戸出立、東海道十三日経罷登り被申、道中

無難当十七日着坂被致候付、着悦ニ罷越候処、久次郎江惣右衛門殿御逢、拙者儀於彼是病氣罷在、別而彼是と御世話相成、其上出立之節も御餞別等被下、御厚志之段與々忝次第存候、何分

江戸表江宜御礼申遣呉候様御挨拶被仰聞候

十二月廿二日天氣 金サシカ、イ入 昼サ、カチ入
但風立 丸打無打シ、位
錢ウ、カ入イ入 肥後米舟、サ入

一 明日渡御為替証文文次郎持參御月番江差上、御書替八十人組江持歸り申候

一 笠間御屋敷、京都江御登せ金銀左之通

一米拾九石弍斗 宗巴様御扶持方
代銀イメエ舟ツ、(一貫七百四匁) 但チシチ、エ入サ厘替(八十八匁七分五)

右者手前分、右之外左之通

一金セシチ兩 但皆金
一 銀マメウ舟シイ、イ入セ厘(三貫九百十一匁二分二)

内
イメサシイ、セ入サ厘 佐藤源兵衛渡御状添
イメ舟サシサ、チ入エ厘 荒木伊兵衛渡右同断
金セシチ兩 但皆金 同 伊右衛門渡右同断
開名寺渡右同断

右之通為差登呉候様御頼ニ付、請取為差登、猶又委細別紙ヲ以清太郎、瀬兵衛江文次郎、及通達候

一 岸本安次郎、井口伝、餅搗祝儀差出候

十二月廿三日天氣 金サシサ、イ入 昼イマ入
余寒強夕方風立 丸打無打シ、位
錢ウ、サ入チ厘カ入 肥後米舟、イ、也

一 岸本安次郎、井口伝、餅搗祝儀差出候

一今日御為替銀為請取、文次郎罷出左之通

(百六十一貫五百目) 一銀舟カシイメサ舟、手前 一銀舟サシイメサ舟、十人組
(三百五十貫目) 一銀マシエメ、上田組

メ銀マ舟サシメ、内小玉マシメ、上納末三月廿六日
(三十貫目)

右者定式、右之外清水御收納銀左之通
(二十五貫目) 一銀セシサメ、十人組
(二十八貫目) 一銀セシチメ、手前 一銀エメ、上田組
(七貫目)

メ銀カシメ、内小玉シメ、上納末三月廿六日
(六十貫目)

右之通無故障請取候付、例之通為御届夫々相廻り申候

一安井新十郎殿、松井官左衛門殿、三組宛手紙到来、堺御役所御

種人參代金銀拾九兩貳步、四匁四分八厘四毛来末二月十八日上

納之積り御為替被仰付旨申来り候、然ル処少金当番上田組ニ候

得共、名代他行ニ付手前江請取相納具候様申越候付、則手前

証文相認、文次郎罷出右金銀無故障請取申候
(二千三百三十二)

一笠間御屋敷当暮御渡金イ仙マ舟マシチ兩、銀サ、今日御渡被成

皆済相成申候、則差引左之通
(三千五百)

一金マ仙サ舟兩 月並金
一銀シ、右御利足年チ步之積
内 (百七) 舟シ兩 元金イ仙サ舟兩三月、十二月迄
元金イ仙兩四月、十二月迄
元金イ仙兩四月、十二月迄
十一ヶ月分
十一ヶ月分

(シ) 元金イ仙兩五月、十二月迄九ヶ月分

(六十七) カシ兩

メ 一金マ舟兩 (三百)

一金チ舟兩 (八百)

一金サ舟エシカ兩 (五百七十)

一金セ舟チシエ兩七步 (二百八十七)

一金マシエ兩マ步 (三十七)

メ金サ仙エ舟マシチ兩 (五千七百三十八)

メ銀サ、右之通追々請取、当年分御勘定皆済相成候付、右之趣今夕五十

川清太郎、寺井瀬兵衛江竹内文次郎、別紙ヲ以委細及通達、代

り金店状、付替為差登候
(三百)

一今治御屋敷、例年之通歳末為御祝儀金マ舟疋被下置候

一中井幸方、餅搗為祝儀重之内到来ス

一今夕店寄会相勤、当月限対談岡御屋敷取組筋先判人江懸合、其

上ニ而牧印江申込可然旨、且御書届之節雇男大方召連候付、以

来日之内者子供召連、夜ニも入可申候ハ、下男召連可申儀等及

相談候事

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

十二月廿四日天気 金サシサ、マツ入 屋サ、サチ入

但風立 丸打無打シ、位 銭ウ、サ入チ厘カ入

肥後米舟イ、ツ入 但年内今日限 (五百) 肥来正月五日

一笠間御屋敷の文次郎江歳末為御祝儀金サ舟疋被下置候、依之御礼罷越京都店江も別紙ヲ以申遣候

一阿波屋伊兵衛江昨年迄歳末為祝儀例年銀マ枚宛差送り来り候得共、当时ニテハ質方、家質方世話も無之、其上向方代替り旁ニ付、昨夜何れも相談之上当年の改銀野枚差送り申候

一御屋敷方并町方共歳末祝儀昨今ニ為持差送り申候

十二月廿五日曇天 金サシサ、カチ入 屋カ、セ入

但暮時小雨降 丸打無打シ、位 銭ウ、カエ入

肥後米年内昨日限

一歳末為御礼今朝御兩殿并御家中、御金方且天満与力衆其外勤方之分久次郎、文次郎罷越相勤申候、尤御兩殿江は定式目録金サ百疋宛名連ニ而持参差上申候

一阿部様御屋敷村田万大夫殿が久次郎江手紙相添、歳末為御祝儀金マ舟疋被下之、島村新兵衛殿、村田寿右衛門殿も歳末祝儀連名手紙ニ而申来ル、依之御礼罷越、右之趣京都店江も為心得別紙ヲ以申遣し候

一土岐様御屋敷が御使者御入来、歳末為御祝儀左之通 御紋付 御小袖 一ツ 八郎右衛門様江 御使者 小坂源五右衛門殿 但御目録熨斗包添

右高断 一御上下 一具 五十川清太郎江 足輕老人 中間式人

右之通為御持被下候付、請取書相認遣、右品々今夕京都江為差登本状の委細及通達候

一水谷武右衛門名跡大和屋友四郎忌明為御礼入来 一江戸本店田所彦右衛門、今般宿入婚禮首尾能相整申候段申来り候付、則今夕歛状差下申候

一今日道明寺江代参無人ニ付、出入平兵衛為致参詣候

十二月廿六日晴天 金サシエ、マサ入 屋エ、サ入、チ、

但暮時小雨降 丸打無打シ、位 銭ウ、チ入、サ厘

肥後米年内一昨廿四日切

一当店餅搗廿四日夜出入餅屋ニ而内祝、翌廿五日朝せんさい餅相祝申候、酒出ス、肴午前且今廿六日竈上塗祝 夕飯 繪花壁汁天王寺 焼物小鯛掛汁 酒出ス 取肴無之候

一今日西佐野様御役所江十人兩替被仰呼、向後小判百兩ニ付式朱判式拾五兩差交、通用可致旨被仰渡候 一此節米高直ニ付当暮抱屋敷宿賃集り兼可申存候付、相談之上家守中江右之趣申渡、当暮之所別而出情取集可申段夫々江改申渡候事

一佐野様御用達金御利足昨今年御渡不被成候付、久次郎参上、森

繁平殿江懸御目程能申取候処、今年分拵置候間、勝手次第請取罷越候様、昨年之所江は心付不申候付、仕組無之候、来春ニても御渡可申旨被仰聞候、依之後刻文次郎請取書相認罷出、左之通

(六)(二) 元金舟兩当年正月同十二月迄閏月共
一金カ兩七歩 十三ヶ月分御利足月サ朱之積り

右之通繁平殿御逢御渡被成候、尤昨年者御失念御拵置不被成候間、追而御沙汰可被成段御断被仰聞候

一 小田切様右同断舟^(百)兩御利足初年分相渡り、其後御沙汰無御座候付、今日文次郎罷越本川九十九殿江懸御目御催促取締申達候処、尤成儀ニ存候得共、登坂後彼是物入打統難渋罷在候、御手前方は当地逆も呉服店、両替店も有之候付、当冬之処今舟金御頼可申入様存候得共、前件利足も御渡不申候付、難申出見合罷在候、外方も出金致被呉候方も有之候得共、利足催^(五)捉者無之候、右之通難渋之砌候之間、何分今暫御断申入ルも外無之旨被仰聞候付、猶又程能申取致退出候

十二月廿七日天氣 金サシカ、チ入、星エ、セツ入
但余寒強少雪 九打シ、セシ、位 錢ウ、エ入サ厘チ入
肥後米年内休

一 京本店中塚徳次郎当地本店無人ニ付、当分為助勤出坂、吉太郎同道入来

一 笠間御屋敷江爰元店限御用達銀カシメ、御返済之儀、文次郎參上取繕御催促申上候処、御不^(六)操合之由御申双御断被仰聞候付、不得止事当七月同十二月迄閏月共七ヶ月分、利足月チ朱之積^(八厘)
(三頁百六十文) 銀マ、マ舟カシ、今日請取、猶又御返済方之儀程能申込置候事

十二月廿八日天氣 金サシエ、セ八、星エ、ツカ入

但余寒甚強シ 九打シ、セシ、位 錢ウ、チ入サ厘 肥後米年内休

一 土岐様も八郎右衛門様并清太郎江之拜領物御礼状昨日到着ニ付、御使者江之溜メ銀イ兩、足輕江セ、中間兩人江鳥目セ舟文相添為持遣し候

一 若山御勝手方御状到来、銀高サメサ舟マシセマ入サ厘之八郎右衛門様御印形当十月之月付預り手形一通、当地伊豆藏伝藏江可相渡、若大坂ニ而相渡候儀差支候ハ、京都ニ而伊豆藏五兵衛江可相渡旨、尤京大坂何れ江相渡候共伊豆藏方請取書取之、若山江差下可申段被仰下候処、右之儀未京都も何等之案内も不申来候付、当地伊豆藏方も右御状相届、銀子請取度申聞候得共、右之趣断申遣、京都ニ而御請取候様申遣、則右之趣今夕京都店江委ク及達遣、八郎右衛門様預り手形も為差登申候

十二月廿九日天気 金サシエ、のセ入 屋エ、イセ入
 余寒強風立 丸打セシ、のセ入、位
 錢ウ、チ入、のセ入
 肥後米年内休

(百九十七)

- 一阿部様当暮年賦金舟ウシ、兩御渡方之通先達而、久次郎罷越、度々及催促候得共、何分当暮之処甚六ヶ敷今調達致工面居候段被仰聞相分り不申候処、今晚島村氏、手紙到来、年賦御渡金之儀何卒御渡申積色々工面□^(才)覚等申談候処、今日至俄ニ差支之儀有之調達金断申出候而、俄之儀誠致当惑候、最早今日ニ至外ニ手段も無之候間、来ル二月迄御猶予被下度、此段訳而御頼申入候、京都へも書状ヲ以御頼申進候旨御申聞、則清太郎江之書状一通被遣候付、今夕為差登、猶又右之趣別紙ヲ以委細及通達候
- 一右御屋敷、前件調達金對談之為御挨拶金野舟疋久次郎江御勝方御役人連名手紙相添被下之候
- 一右御屋敷調達金ツ舟向来ル未五月切、右同断ツ舟サシ、向未十一月切、右二口今日新証文ニ引替相済申候
- 一新田浅田弥助儀、一昨廿七日、弥右衛門と致改名候段申越候付、右之趣京都店江別紙ヲ以申遣候
- 一頭名靈社木島森江御建被遊、毎年八月廿二日御神事御祈禱御座候而、主中様方并店々、も致參詣候、江戶表ニは無之候付、吉田二位様御筆之御神号宗巴様、被遣候而、毎年正月三ヶ日并八月廿二日燈明御酒洗米等相備、神拝仕候付、京大坂店も右神号相祭候様御懸地一幅御渡被遊候付、爰エ店分一幅今日致到着候、

依之向後毎年正月三ヶ日并八月廿二日御祭、正月者支配人已上十二銅差上、右十二銅年々積置可申旨申来り候事

十二月晦日曇天

朝五ツ時、雨降 金サシエ、のセ入 屋同事
 丸打シサ、のセ入、位
 錢ウ、チ入、のセ入
 肥後米年内休

- 一阿部様当暮年賦御渡方御断ニ付、一昨夕京都江及通達候処、先達而之両口共手返しニ調達御請申上候処、年賦之儀右躰被仰下候而者迷惑奉存候、乍然今日ニ至難仕旨申上候而も不相済儀ニ付御請申上候、左候ハ、来ル二月迄御利足付別御証文御渡可被下旨懸合可申段京都、申来り候付、則久次郎罷越島村氏江懸御目右之趣取繕御面談申上候処、御尤之儀ニ御座候得共、拙者儀も今日無程中野、陳屋江罷越候ニ付右証文御渡可申儀も難相調候、何分来春早々頭役共へも申談候上、自是否哉可得御意旨被仰聞候付、程能及御挨拶罷歸り候
- 一今日座敷床江年徳神且前件頭名靈社祭燈明、御酒、洗米等相備何れも神拜ス
- 一今朝常之通、屋椀替ル 繪花籠 汁、天王寺 平、馬鴨 焼物、丹後酒 肴組重 夜食、豆腐 酒 肴組重
- 一今夕四ツ時本店江歳末祝儀懸方集り為挨拶孫七郎罷越ス、此儀前々、当店筆頭罷越候旨、尤本店、ハ見江不申候
- 一日々金錢相庭三好門兵衛方手代弥四郎并油屋甚七月替り二日々

相庭帳付ニ參ル、依之弥四郎江金野舟疋、甚七江鏝節ニ連遣ス、
但中元も同様遣ス、右之外天王寺屋利左衛門と申者も參り申候
得共、無念釈折々錢調遣ス

一米相庭日々河内屋辰三郎と申者書付差越、依之歳末為祝儀金
野舟疋遣ス、且又京屋宗吉と申者江浜方諸式關合相頼候付、鏝
節一連遣ス、右之分歳末計無伸元(中カ)

一当店書札方相勤候若狭庄兵衛と申者、今早朝罷出、夜ニ入候而
も罷帰リ不申候付、請人方は勿論、其外心当り方相尋候得共相
知レ不申候付、着類相改候処持出候哉皆無同前、古拾古繻伴一
ツ宛、三尺手拭一ツ、其外硯箱、きせる等ニ而一向無之候、然
ル処店々町内髮結江相渡候銀子百目余店之引出し江入有之候処、
此銀子相見得不申候付、決而致出奔候と相見得申候、依之早春
ニ至御番所江御断申上候積候

(表紙)
一天明七未正月元日ヨリ二月六日迄

大坂店勤番日記

深井孫七郎

(別一五七一—三)

天明七丁未年日記扣

正月元日天氣午日 諸相庭無立会

一当月御月番小田切土佐守様、御金方御仮役江原九郎右衛門様、

下シ番十人組方ニ而相勤申候

一今朝御礼御兩殿江久次郎、文次郎定式之通御扇子十本入一箱宛
連名ニ而差上、両御家中方手札計、御金奉行様方手札計、同手
代衆見習共十九軒江者扇子三本入一箱宛持參、天満与力衆之内御
金方立会、東西ニ而四人江手札計ニ候、御為替方与力衆東西ニ而
四人江は定式之通扇子三本入一箱宛持參差送り、夫々相勤可申候
一御城代阿部様御中屋敷并御家中紀州御屋敷、且又土岐様御屋敷
等久次郎相勤、笠間御屋敷江は文次郎罷相勤申候、右之通年
始御礼夫々相勤申候

一町方御礼申合致手分夫々相勤申候

一元日床年徳神頭名靈社祭 朝糴こくしう煎いり 大根 白飯
星汁口塩 鱈花いり 串貝いり 昆布 鹽出汁 向鹽いり 組重
星汁口塩 鱈花いり 平赤貝いり 人參 焼物若狭 小鯛 酒出 肴組重
夜食常之通 夜酒 吸物打割 肴組重 別段長い 玉子煎いり

正月二日天氣

諸相庭無立会

一今日町方年礼何れも申合罷出ル

一新田規矩利平次為年礼出坂入来

一今日床同断朝糴こくしう煎いり 星汁たき 煎いり 平いり 焼物い わし
酒出ス 肴組重 夜食常之通 但湯殿初朝風呂也

正月三日天氣

諸相庭無立会

一今日町方年礼何れも申合罷出ル

一新田浅田弥右衛門為年礼出坂入来

一当店若狭庄兵衛儀、今日迄も方々相尋候得共相知不申候付、弥御番所江御断申上候積りニ付、会所嘉助呼寄右体之振合相尋候上左之通

乍恐口上

高麗橋三丁目越後屋藤次郎支配
借屋三井次郎右衛門出店預り手代

喜三郎

一私人庄兵衛と申当未式十九歳ニ相成候者、先月晦日朝六ツ時頃ハ罷出帰り不申候付、方々相尋候得共未行衛相知不申候付、乍恐此段御断奉申上候以上

天明七年未正月三日

三井喜三郎病氣ニ付
代庄助印

右喜三郎儀當時病氣罷在候段相違無御座候付、
乍恐奥印仕候、已上

家守越後屋藤次郎印

御奉行様

右之通相認東御役所江庄助持參御断申上候処、御留置被遊候、猶本人行衛相知候ハ、召連可被出旨被仰渡候

一右庄兵衛儀奉公人之儀ニ付雜物御糺者無之由、且家持ニても借屋人ニても当人ニ有之候得は、家出と相認候旨、尤雜物之御糺も有之由、奉公人ニ候得は幾日何時ニ罷出と相認候旨、勿論雜

物之御糺者都而無之物之由、町内会所嘉助申聞候事

一今朝雜煎右同断、昼汁（ついで）からし、平山（のついで）いりこ、くわい、焼物（焼物）、酒肴組重

正月四日天氣

但今明日計庭屋締詰ニ而
米初相庭建式有

金サシエトエウ入
式朱打マサシト位
肥後米舟カシセ入

星エトチ入

一今日江戸、京都江年始状并番状例年之通差出ス

一鴻池屋市兵衛尼崎町二丁目居宅七間ニ式拾間、同町統屋敷拾間

ニ式拾間、同町北側抱屋敷四間ニ式拾間、平野町三丁目中橋北

西角拾間ニ式拾間、右四ヶ所共町年寄奥印ニ而御印引当ニ取、
（百二十貫目）
（七）
（五）

格別丈夫成口ニ付、銀高舟セシメ、歩合エ朱サ来ル十一月限ニ

取組、則今日取引相済申候

正月五日天氣

金サシエトエウ入
式朱打マサシト位
肥後米舟カシセ入
星セマ入

一島村新兵衛殿年始為御礼入来、久次郎江扇子二本入持參

正月六日天氣

金サシカウ入ダエ、
式朱打マサシト位
錢ウサ入サエ厘
肥後米休日
星休

一 西方寺和尚為年札入来

一 今夕当店初寄会相勤、定式之通大式目并帶刀格式マツシ統聞せ、惣中

印形取之候、当月伊勢代參林庄助江申渡、且是迄医師兼服葉外料針等療治請取候而も当店ニ扣無之候付、向後相改、毎夕初元并角前髮惣中承合夫々帳面ニ相扣、其上夜判之節支配人組頭猶

又相改印形可致旨一同江孫七郎、半兵衛申談、其外取組向々申分有之方催促、且証文引替等不相濟分急々相改可申段申談候

事

一 右寄合終り夜食相濟候上、是迄当店ニ無之候得共、此度相改、

京都店之通り勤番并当店頭役之者ノ店惣中并男頭迄年始盃事致

候、尤肴串貝、数子、午房此三種ニ而外ニ吸物取肴等致間敷事

一 今朝常之通 昼麦飯 汁とろろ 平焼豆腐 夜食餚花大板 汁よめ花大板

平山串貝もいりこ 酒肴くき

正月七日天氣 金サシカトツサ入 昼カトツサ入

式朱打マツシノ位 錢ウツサ入マ厘 肥後米休日

一 今日残札申合相勤ル

一 今朝餅かゆ 組重 昼餚花大板 焼物生餚 酒出ス 肴組重

正月八日天氣 金サシカトツサ入 昼カエ入

式朱打マツシノ位 錢ウツサ入マ厘 肥後米舟エトツサ入

一 勢州代參盃事今夕台所ニ而出ス、肴豆 硯蓋飯箱 吹田ゆりねくわい

正月九日天氣 但風立

金サシカトツサ入 昼同事 式朱打マツシノ位 錢ウツサ入マ厘 肥後米舟エトツサ入

一 此度於当地御買米被仰付候段及承候付、今日京屋惣吉方ニ而猶

又承合候処、当正月四日夜浜方年行事東御役所江被為召、此度

米老万石余被仰付候旨被仰渡御請申上、翌五日内々年行事ノ手

ヲ廻シ、直段舟百八匁ノ舟ウ百九匁、迄之内ニ而米買入相濟、則五日夜

御番所江御届申上候由、尤右之儀年行事計取扱、浜方一統江者

為相知不申候旨、右は相庭格別引上百四匁三分五不申候様御内密ニ而被仰渡

候由、右米直段石ニ直シ候得は、舟百四匁三分五ツマ入サ厘ニ相当り候由、

右米江戸廻シ被仰付江戸着之上昇目之減シ等も可有之ニ付、今

イセ二匁ト方二匁も高直ニ相当り可申旨 (五十六匁)

一 右御米金セ七方兩分御買上、金相庭サシカ、替之御積リニ而銀渡

リニ相成、則右相庭ヲ以今九日銀七百匁エ舟七百匁ノ御渡、残銀近日相渡

候筈之由、右銀子者浜方両替鴻池屋庄兵衛、加島屋安兵衛両家

江浜方ノ相渡置、買立米は右両家江振出シ申候由、右御米江戸

下シ方は管屋久兵衛江被仰付候旨、舟數拾艘計も入用之由ニ候、

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

右之趣ニ付京都店も為心得申遣候

一 山中半兵衛儀、京都江年始為御礼今夕舟ニ罷登り申候

正月十日天気

但暮時前の雪降

諸相庭共休日

一大坂一統休日、依之当店も例年相休候由、朝常之通、昼生喰大根セリ

汁のついでよめな 平串貝も 酒出ス 肴組重 但朝風呂

午尻いりくわいも

正月十一日天気

但余寒強折々小雪降

昼カエ入

金サシカメエチ入
式朱打セマシ位
銭ウハサ入カエ厘
肥後米休日

一 勢州代参林庄助今朝出立ス

一 笠間御屋敷飯被下候付、例年之通文次郎参上ス

一 小田切様御妾服ニ而御女子様当八日御平産御座候付、上田方申

合、今日為恐悦文次郎罷出候

一 今日例年之通帳書相祝矢野庄次郎認ル、朝常之通 昼醬油雑餅煮水ナ

正月十二日天気

余寒強

金サシカメサカ入
式朱打セマシ位
銭ウハサ入カエ厘
肥後米舟エカ入

一字野十右衛門為年礼出坂、塩鱈一尾、菓子一箱、八幡蒟蒻拾為

土産持参ス、依之為挨拶銀子野両差送り候

一本店清水藤兵衛儀久々病氣罷在候処、養生不相叶終昨十一日八

ツ半時致死去候段為知来ル、葬式之儀は明後十四日八ツ時梅田

於墓所相営申候由、且梅状宛名之儀娘未幼年ニ付、妻民宛ニ而

可然旨本店申来ル、依之右之趣京都店、江戸店江も別紙ヲ以

申遣シ、何れも為悔罷越ス

一 当年北国米登り高承合候処、左之通

一加賀米五万三千石之内三千石は江戸廻シ、残り五万石大坂着

一米子米五万五千石 一出雲米貳万石

一新発田米貳万五千石 一秋田米壹万石

一越前米壹万貳千石 一津輕米壹万三千石

一富山米六千石 一三島米四千石

一出石米貳千石 一鯖江米三千石

一村松米五千石 一桶津米七千石

一仙台米壹万五千石

一 米高貳拾貳万七千石大坂表江着之由河内屋辰三郎方書付差

越申候付、為心得京都店江写取為差登申候

一道明寺役人辻友右衛門為年礼御礼持参入来ス

正月十三日天気暖

但暮迄俄雨降雷強鳴

金サシカメツサ入 昼マツ入
式朱打セマシ位
銭ウハサ入千厘カ入
肥後米舟ウハ入

一阿部様御用達金舟ウシ(百九十七)両去暮御返済之儀、旧蠟押詰色々御工面

被成候得共難相調候間、当未二月迄差延呉候様無抛御断被仰聞候付、左候ハ、二月迄之別御証文利付之積リニ而御渡被成候様、其節揃合申候得共、是迎も押詰候儀御証文引替等之儀御断、別証文利付之儀は御承知、当春早々御証文御引替被成候積リニ去冬致対談候処、漸今十三日御案内有之候而別御用達金舟ウシ(百九十七)両利足イ歩イ当二月限御返済可被成御証文御渡被成候付、此方(百九十七)も去暮御渡可被成年賦金舟ウシ(百九十七)両之請取書久次郎印形ニ而差出、引替相済申候付、右之趣京都店江本状并別紙ヲ以も及通達候

正月十四日天氣 金サシカ、ツサ入 星セマ入 但余寒強 銭ウリカ入マツ匣 肥後米休日

一明後十六日渡御為替為伺文次郎罷出候処、三組江サシメ、御渡可被成旨被仰渡候付、則割合書後明書付等、且蠟月十八日、廿六日江戸上納相済候御納札共御月番江差上、御書替上田組江持帰り申候

正月十四日天氣 金サシカ、ツサ入 星セマ入 但余寒強 銭ウリカ入マツ匣 肥後米休日

一当地町廻り同心目付木村久左衛門殿、野口国藏殿江被仰付候之段、西下宿(三)廻文ヲ以為相知申候

一小田切様御妾服(三)ニ御女子様御出生被遊候付、主中様方より御着代金マ舟疋先格之通御差上被遊候段申来、披露状今日致到着候付、則右目錄拵御屋敷江久次郎持参、塚田嘉左衛門殿江懸御目

一今朝御礼文次郎罷出候、且明日渡御為替証文同人持参差上、御書替上田組江持帰り候、右之節去ル十二月廿六日上納御納札少々墨付有之候付、先格振合ヲ以文次郎印形断書相認差上申候

一今朝常之通 昼汁(百九十七) 焼物(百九十七) 肴長(百九十七) 肴小車(百九十七) 是者今日代参宮廻リニ付兼帯 夜酒出ル

一山の中半兵衛京都年札相勤八幡江参詣、今暮時帰坂ス

差上候処、京都江宜為申登呉候様御挨拶被仰聞候

一清水藤兵衛葬式今日於梅田相宮候付、孫七郎、久次郎罷越ス

一今朝常之通、昼汁(百九十七) 焼物(百九十七) 肴長(百九十七) 肴小車(百九十七) 是者今日代参宮廻リニ付兼帯 夜酒出ル

正月十五日天氣 諸相庭共休日

一今朝御礼文次郎罷出候、且明日渡御為替証文同人持参差上、御書替上田組江持帰り候、右之節去ル十二月廿六日上納御納札少々墨付有之候付、先格振合ヲ以文次郎印形断書相認差上申候

一今朝常之通 昼汁(百九十七) 焼物(百九十七) 肴長(百九十七) 肴小車(百九十七) 是者今日代参宮廻リニ付兼帯 夜酒出ル

正月十六日天氣 諸相庭共休日

一今日御為替銀為請取文次郎罷出左之通 一銀セシマメ、手前 一銀セシマメ、上田組

右之通無故障請取候付、例之通為御届夫々相廻ル、尤去ル十二月十八日、廿六日江戸上納相済候御納札引替も相済申候

一今朝常之通 昼汁(百九十七) 焼物(百九十七) 肴長(百九十七) 肴小車(百九十七) 是者今日代参宮廻リニ付兼帯 夜酒出ル

一山の中半兵衛京都年札相勤八幡江参詣、今暮時帰坂ス

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

正月十七日曇天 金サシカゝツ入サ厘 昼セマ入

但夜中雨降 式朱打セマシゝ位
銭ウゝカ入イセ厘
肥後米舟シゝセ入

一字野十右衛門今夕舟ニ致帰郷候由ニ而、為暇乞入来ス

一今日七ツ時御靈宮於神前御弓と申式有之候

正月十八日雨降

金サシカゝツサ入 昼セ入
式朱打シサゝセシサゝ位
銭ウゝツ入セ厘
肥後米舟シゝセカ入

一明後廿日本店椀飯四ツ時罷越候様、深井ゝ竹内迄連名宛口上手

紙到来ス

一本店名代役清水藤兵衛死去ニ付、臆中見舞後家民宛ニ而左之通

一 香典金子舟疋 (五匁二分)
一 葛椎茸商品一重 代サセ入

一 饅頭百 但虎屋切手 代サ舟セシ文 深井、山中、杉本ゝ

右之通差送り候、尤去ル辰正月本店勘定名代早野平右衛門死去

之節金野舟疋、葛椎茸一重差送り候処、去々巳十一月爰元店勘

定名代中井嘉平次死去之節、本店ゝ金舟疋、葛椎茸一重致到来

候付、右兩人御役ゝ次座ニ付早野ゝ相減、右之通差送り候事

一京店出入定七若山江御使ニ罷下、今朝着、即刻若山江罷越ス

一京都店ゝ無番状到着、松野安次郎儀旧冬病氣罷在早春々度々

急症差出全体虚劣之症ニ而甚六ヶ敷、療養色々尽手候得共、無

其甲斐去ル十一日曉子刻終致死去候段申来り候、則戒名左之通

法空淨説信士 行年三十五才 日取九日也 中陰十日也

右之通ニ付松野次郎兵衛江梅状一通、京都店江一通為差登申候、

尤年始旁差支有之候付、昨十八日ゝ致披露候由申来ル、依之右

之趣本店并家督退役并新田江も為相知遣ス

正月十九日天氣

金サシカゝイセ入 昼セ入
式朱打シサゝセシサゝ位
銭ウゝツ入ウ厘サ入
肥後米舟シサゝ也

一松野安次郎死去ニ付本店武右衛門為挨拶罷越ス

正月廿日天氣

金サシサゝウ入カゝ 昼サゝカエ入
式朱打シサゝセシサゝ位
銭ウゝツ入マツ厘
肥後來休日

一今曉七ツ時前玉造之東本庄村出火有之、無程相鎮ル

一本店椀飯江孫七郎、半兵衛、久次郎、文次郎罷越、喜三郎儀不

快ニ付不参、料理輪大根(ふりこ)せりうか 汁椎茸(ふくの皮) 平(くわい)すくい玉子

焼物(生鰯) 酒台引飯(蛸) ニしたし物 三吸物(白魚)

取肴(若茸) はしかみ

一京店ゝ本状到来、両御役所御入用銀(二十貫目)来ル廿三日当地御

金藏ゝ御請取被成候付、右御証文并写御添簡等出入吉兵衛、又

七持下り、無難着改請取、右兩人今夕舟ニ罷登ル

一江戸本店去ル十一日御寄会之上左之通

本店
組頭
堀三右衛門
役頭
藤原弥平次
向店
野村藤吉

右支配役被仰付候
一 和知幸助
一 三宅十五郎

是迄支配役進藤安兵衛
大橋兵四郎
野田清六

鈴木三郎兵衛此度願之通
右三人組頭役被仰
右三人組頭役被
御願望性銀等被仰渡候
付候
仰付候

向店
組頭
土田庄兵衛
伊藤源兵衛
新羅甚七

右組頭役願之通御暇
右支配役被仰付候
右支配役願之通
野村伊兵衛

望性銀等被仰渡候
芝口店
組頭
御子宇兵衛
望性銀被仰渡候
御暇被仰付候

芝口店
一 加藤五郎右衛門
右支配役被仰付候
芝口店

望性銀等被仰渡候
一 清水平五郎
右組頭役被仰付候
芝口店

右組頭役願之通御暇
望性銀等被仰渡候
芝口店

右之通被仰渡候段元方御状致到着候、尤組頭役迄出入相記、役
頭已下之役替者相記不申候事

正月廿一日天氣
金サシサ、サカ入 星セマ入
式朱打シサ、セシサ、位
銭ウ、ツ入サエ風
肥後米舟シマ、チ入

一明後日御為替渡為伺久次郎罷出候処、三組(五十員)江サシメ、御渡被下
候筈、依之割合書後明書并京都兩御役所御請取銀セシメ、之御
証文写等御月番江差上申候

一京都方御状着、一昨十九日日本店節御祝儀之上左之通
役頭
小林三右衛門
武部惣兵衛

一 藤田与三兵衛
丹羽彦三郎

右兩人組頭役被仰付候
右願之通御暇、望性銀等被仰
渡候、尤惣兵衛儀は熊谷仁右

右之通被仰付候段申来り候、尤上ノ店、紅店役替も有之候得共
役頭已下之役替ニ付相記不申候事

一御金方江此度御触被仰出候式朱判式拾五兩差交之儀通用之儀、
此間十人兩替ノ御触之通り御届申上候付、今日手前十人組も
同様御触書之趣御届申上置候

一伊勢代參林庄助無故障相勤、今夕四ツ時無難致帰着候

一明後廿三日如例年当店節相祝候付、本店当役并当店家督退役中
江廻文ヲ以申遣ス、尤京本店中塚徳次郎此節在坂ニ付、支配人
ノ別段手紙ニ而申遣ス、且新田江も手紙遣

一当町油屋彦三郎入口東之方ニ有之候番小屋屋根之上江、夜前出
生後五十日計も相立候女子致捨子候付、右之段早速御届申上候
由

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

正月廿二日天気

金サシサ、マツ入 昼セマ入
式朱打シサ、セシサ、位
錢ウ、ツ入サカ厘
肥後米舟シセ、エ入

一 明日渡り御為替証文并京都御役所御請取銀御証文等今日久次郎持参御月番江差上、御書替手前江持帰り候

一 京店出入甚兵衛夜前若山、罷帰り、則今昼舟ニ罷登ル

一 京本店中塚徳次郎御用向有之、今夕舟ニ罷登り候旨為暇乞入来

二 付、当店がも為挨拶文次郎罷越ス

一 節聞酒吸物蛤、取肴蒲鉾玉子ふの焼 鉢つき 直ニ夜食堂之通
吹田くわい

正月廿三日天気

金サシサ、イセ入 昼サ、イ入
式朱打シサ、イセ入、位
錢ウ、ツ入、イ厘
肥後米舟シ、イカ入

一 今日御為替銀并京御役所御入用銀為請取、久次郎罷出左之通

(二十三貫目)

一 銀セシマ、手前 一 銀セシイメサ舟、十人組

(五十貫目)

一 銀サシメ、内シメ、小玉銀 上田組

一 右之外京都両御役所御入用銀、上納四月廿六日

右之通無故障請取候付、例之通為御届夫々相廻り申候

一 節料理生子大根 汁始よめな 平鶏ねぎ 焼物生鰯付よめ 台引はせかため 二した

し物 三吸物へき貝ふきのとう 取肴玉子ふの焼 椎茸 蒲鉾 夜食 汁割塩麴昆布

平鰯豆腐 引赤菜 其外昼残物取肴 吸物白魚 但座敷ニ而家督退役店惣中初元迄

正月廿四日曇天

金サシサ、イセ入 昼サ、イ入
式朱打シサ、イセ入、位
錢ウ、ツ入、イ厘
肥後米舟ウ、エ入

折々雨降

一 伏見町加賀屋次右衛門方相続人相極り、近日御番所江も御届申上候由、夫ニ付此方江取置候家質滞利銀之内江此節正銀少々御渡申候ハ、出訴之儀暫御見合可被下哉、何れニも居宅之方者持續ケ申積リニ御座候、抱屋敷之儀も右之通暫見合候ハ、望人可有之哉と存候付、御頼申候段、右町内町代申来り候付、右滞利銀不残此節正銀請取、右家屋敷売レ候迄之所、町請負ニ相改り候ハ、出訴之儀見合可申段及返答候処、中々其儀は致出来申間敷旨申之罷帰リ候

正月廿五日天気

金サシサ、イセ入 昼ツ、エチ入
式朱打シサ、イセ入、位
錢ウ、ツ入、イ厘
肥後米休日

一 次郎右衛門様御儀御不快ニ付、当地御屋敷方江年始御礼御下向不被遊候付、今日御名代ヲ以御両殿江定式之通御扇子十本入一箱交肴一折宛久次郎持参差上、御家中方并御金方、同手代業、天満与力衆へも定式扇子差送り候分も久次郎持参、御名代相動候

一今日道明寺江林庄助代参ス

一柘植長門守様撰州吹田御知行所御役人太田官次殿入来、江戸御屋敷江金七拾貳両御下被成度旨ニ而御持参被成候処、右金子^子不殘切金ニ付御対談之上正金^下下シ致候積り、同人封印為致、右封之儘差下申候、尤下し賃八匁六分請取申積り及対談候

正月廿六日天氣

金サシツ、ウ入サ厘サ、
式朱打シサ、セシサ、位
錢ウ、セ入サカ厘
肥後米舟ウ、イ入

一今日当店日待相勤、朝常之通、昼茶食

汁^{濃醬}白豆腐
天王寺かふら
平人^{椎茸}參
小いも
午房
くわい

正月廿七日天氣

金サシツ、エチ入、屋ツ、ツサ入
式朱打シサ、セシサ、位
錢ウ、イ入サチ厘
肥後米舟シセ、也

一上田方^(二百貫目)大川町淀屋橋角抱屋敷引当下地御印セ舟^(百五十貫目)メ、取組有之候得共、此度は舟サシメ、ニても不苦候間、何卒取組呉候様田中嘉七と申手代申来り候付、今夕京都店江本状^也及相談候

正月廿八日天氣

金サシツ、セマ入、屋ツ、^也サ厘
式朱打シサ、セシサ、位
錢ウ、^也サ厘
肥後米休日
彼岸入

一伏見町加賀屋次右衛門死跡又吉儀次右衛門と改名致相統候付、

先達而及出訴候家質滞之儀、次右衛門死去ニ付御引上ニ相成有之候処、此節下济致度旨、當時年寄加賀屋彦作方^也色々頼筋申聞候付、追々及懸合無趣趣ニも有之候付、是迄滞利足正銀相渡候ハ、当次右衛門証文ニ相改、出訴之儀見合可申段申遣シ候処、右之儀も出来不申候由申聞候付、不得止事伏見町申合候上罷出候、尤次右衛門跡名前相極候付、猶又济方之儀御頼可申上候之間、此段被為聞召置被下候様今日書付相認、喜三郎代庄助西御役所江罷出御日限方江差上候処、御掛り安井大助殿御請取被成伏見町加賀屋次右衛門代御呼出、右元利滞銀高相違無之哉と御糺之上、右家質滞先達而御日限被仰付候内、次右衛門死去ニ付一旦御引上ニ相成候得共、最早改相願候ニ不及申候、今日^也百五十日切元利共相济可申旨被仰渡、則双方印形御取被成候、尤当月御番者東御役所ニ候得共、先達而御引上ケニ相成候者西御役所ニ付、今日も西御役所江罷出ル事、且右之通御届申上相济候趣当町会所へも申達置候、右御日限来ル六月廿八日ニ相当ル

一阿波屋伊兵衛名前前ニ而取置候家質滞之方右同様ニ付、今日東御役所江阿波伊手代藤兵衛罷出、御届申上候処、御掛り小泉松次郎殿御請取、是者先達而相願候之処、無程次右衛門死去ニ付御引上ケニ相成、未対決不相济候間、来月二日改相願候様今日之届書ニ書入可申旨被仰渡候付、則来月二日奉願上度候間、此段

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

被為關石置被下候様相認差上相済申候、尤兩様届書御用留ニ記略之ヌ

一新田利平次入来、同所畑肥シ之儀、半兵衛、喜三郎談ス

正月廿九日曇天

折々雨降

金サシツゝ、イ入 星マゝウ入、ウツゝ
式朱打シサゝセシサゝ位
錢チゝウ入マサ厘
肥後米舟シツゝ也

一橋井利右衛門病氣ニ付、為年礼手代定七と申者出坂、当店糶酒
一樽別宅并支配人迄為年玉豊心丹一包宛持参入来

正月晦日雨降

星時前々折々晴

金サシツゝ、イセ入 星ツゝイ入
式朱打シサゝセシサゝ位
錢チゝウ入サエ厘
肥後米舟シツゝツ入

一上田方取組筋之儀ニ付久次郎が田中嘉七呼遣、御印ニ而町内年
寄奥印大川町抱屋敷引当ニ而銀高舟^(百五十貫目)歩ウ朱、尤右舟^(百五十貫目)
シメゝ之内家質取組之方引当不足ニ付、^(三十貫目)マシメゝハ右家質之方
江内済被致候ハ、此度舟サシメゝ取組可申旨及対談候処、先
以御取組之儀御承知被下、忝奉存候、乍然右歩合之儀^(九)ウ朱ニ而
者私方引当ニ合不申迷惑奉存候、御存之通薩州御屋敷扨者エ朱^(七)
が高歩者御借り無御座候、左候時者余程之入足ニ相成難^(五)洪奉存
候、下地御印御取組之通^(七)エ朱被成下度候、其儀難相成候ハ、サ
通り位之儀は如何様ニも可仕哉、猶罷帰リ三郎左衛門并同役共

へも申聞、自是御返答可申段申之罷帰り候

二月朔日天氣庚子

余寒強風立

金サシツゝツサ入 星ツゝイ入
式朱打シサゝセシサゝ位
錢ウゝイ入マサ厘
肥後米休日

一今朝御礼久次郎罷出相勤申候

一当月御月番佐野備後守様、御金方酒并与左衛門様、下シ番手前

ニ而相勤候

一今朝繪花盤

汁常之通 平午房^{小いも} 星汁常之通 焼物^{付やき}

夜酒肴^{小帖}

吹田くわい

一新田弥右衛門入来、下百姓救錢之儀ニ付半兵衛、喜三郎江相談ス

二月二日天氣

余寒強

金サシツゝサカ入 星ツゝイ入
式朱打シサゝセシサゝ位
錢ウゝセ入イ厘
肥後米舟シサゝマ入

一九郎右衛門様御儀御年齢并御千勢様御儀御本封ニ付、今般御二
方様共御剃髮御改名左之通

宗救^{おん}様 寿珉^{しん}様

一新町源右衛門様御方江竹屋町御式様旧冬御入家御内御婚禮御整
被遊、此節右御弘メ御両家様共御整被遊候

一宗龍様御儀当年御初老ニ付、右御祝儀御祝被遊候

右之通候間、宗救様、伝藏様宛一通、源右衛門様、元之助様、宗龍様江者格状右之通御悅状為差登可申段、別紙通達有之候付、則今夕右之通相認為差登申候

一二条御藏御入用金九拾四兩皆式朱判ニ而来ル五日当地御金藏御請取被成候付、窪田官左衛門殿罷下請取被申候上、例之通為替ニ致呉候様御頼ニ付、則御三判証文卷通本状ヲ登リ申候事

一先月廿八日御届申上置候伏見町加賀屋次右衛門家質貸、阿波屋伊兵衛名前之方今二日御願申上候答ニ候処、町内年寄加賀屋彦作方ヲ申越候は、右家質滞利足之分此節不残正銀相渡可申候間、已来之処右利足是迄(四匁三分)ツマ入之所何卒(四匁)内ニ致シ呉候様、

左候ハ、此節証文引替可申段、伏見町町代又右衛門ヲ以段々相頼候付、ツマ入ニ致可遣旨及返答候処、是非(四匁)ニ致呉候様

再応相頼候付、不得止事、左候ハ、向後は節季每利足無滞相渡被申候ハ、右之通(四匁)まけ可遣旨、猶又申遣、右之趣承知ニ付是迄滞利足銀(二匁八分二十七匁五分)イメチ舟セシエ、サ入今日正銀請取、証文引替

等相濟申候、依之右之趣書付相認、西御役所江差上候処、後訴杯無之哉と目安方御役人衆御尋ニ付、其儀は不奉存候得共、此間伏見町差上候書付ニ外掛り合、後訴等無御座段相認メ有之候旨申請罷在候と申上候処、左候ハ、是ニ而宜候間、差上置可申旨被仰渡候付、引取申候、尤右之通相濟候段東御番所へも御届申上、并伏見町会所へも相届置候事

一道明寺役人木戸与左衛門入来、京都丹波屋五郎左衛門江登せ銀

(二百八匁)マ舟シチ、ツ厘為替相頼候付、則為替手形差出、銀子請取申候、且先年天満宮屋根替之節取替銀(一貫目)有之候処、昨午年迄ニ皆濟相成申候、其節追々被相渡候度々之請取書三通持參被致候付、銀(一貫目)之本証文引替遣相濟申候

一橋本弥三郎請判相濟候付、今日出勤為致止宿候一銅座人參座御手当金カ舟両下し方御急キ候間、当月廿六日迄

二江戸着之積り差下候様被仰聞候、尤兼而三十日切之積り申上之候得共、格別日限違候事ニても無之、且先達而柘植様為替金之儀御断申上候儀も有之旁此度は御請申上候、已来儀者三十日切ニ御心得被下候様得と申上置候

二月三日雨天

金サシツ、セマ入、昼同事
式朱打セシ、マシ、位
但星八ツ過、晴
錢ウ、チ厘、イ入
肥後米舟シツ、サ入

一明後五日渡り御為替為伺文次郎罷出候処、三組江舟サシメ、御渡被下候筈、則割合書後明書且当正月十八日上納相濟候御納札六通共御月番江差上、御書替十人組江持帰り申候

一今晚当店寄会相勤、例年之通平頭已下角前髮迄夫々年寝美申渡候、且又当正月宗巴様被仰出候而敬片敬之御式目惣中江為読聞、猶又夫々得と入割申聞せ候

達之通御三判御証文ヲ以引替請取申候、尤官左衛門殿御事右御用向相濟候付、今夕舟ニ罷登リ被申候、依之先格之通為餞別饅頭五十入一折差送り、猶又御旅宿為暇乞文次郎罷越候

一 笹屋久兵衛手代嘉助、今日店表江入来、文次郎江逢申度旨ニ候

処、他行ニ付久次郎及面談候処、今年御払米相減候付、手当致相違、銀子手操難出来難波致罷在候、勿論毎年八月、十二月ニ

者当地御金藏（百貫目）手当金（三十七）仙兩宛請取申候間、当八月迄之所銀高舟（百貫目）計用違異候様相頼申候付、時節柄払底之段取繕即答及断

候処、何分ニも致相談異候様申之候付、引当物等之儀相尋候処、廻舟ニても書入可申哉、勿論長々借用之積ニ而ハ無御座候、当

八月迄之御取替被下、八月ニ者御金藏ニ而請取候内直ニ御引取可被下候、右請取方相違無之段者大屋四郎兵衛様ニ而御聞合被

下候得者、能ク相分り申候旨申之、再応相頼申候付、猶又及内談、自是御答可申旨及返答置候

二月六日天氣

金サシツトツサ入
式朱打マツシ位
錢ヲウ入エテ厘
肥後米舟シツ也
昼休

一 孫七郎儀、昨年二月六日夕舟ニ爰元店江罷下り、丸一ヶ年ニ相成、且用向も有之候ニ付、今夕舟ニ上京ス、依之逗留中泊り番之儀当三日夕当店寄会之節半兵衛、久次郎江申談置候得共、猶又申談上京ス

一中塚徳次郎、孫七郎上京為暇乞入来、右之節九郎右衛門様、御千勢様為御養生西洞院御屋敷江御引移、於御同所先月廿七日右御兩所様御剃髮被遊候段承之候

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

人名補注

あ行

秋田善左衛門
 沼田藩土岐家の大坂留守居役
 秋田万兵衛
 大坂両替店元メ家督(秋田清兵衛跡)
 浅田弥助
 菱屋新田支配人、天明六年二月弥右衛門と改名
 油屋四郎兵衛
 高麗橋三丁目町人、月行事
 油屋甚七
 (日々金銭相場月変わりニ帳付ニ参ル)
 油屋彦三郎
 高麗橋三丁目、両替屋仲間
 阿部能登守
 大坂城代、武州忍藩主阿部正殿
 阿部領左衛門
 大坂東町奉行所与力
 荒木伊右衛門
 御為替十人組
 荒木伊兵衛
 伊勢屋呉服店
 有馬中務大輔
 筑後久留米藩主有馬頼貴
 阿波屋伊兵衛
 大坂奈良屋町抱屋敷名前前、「本店暖簾内同様」
 阿波屋三郎右衛門
 富島二丁目
 安東丈之助
 大坂西町奉行所与力
 飯島茂太夫
 忍藩阿部能登守用人
 井川善助
 加賀藩蔵元
 井口庄太郎
 大坂両替店平手代、天明六年二二月上座役

井口孫兵衛

池田屋宇右衛門

池田屋嘉兵衛

池田屋三郎兵衛

石井彦四郎

石井ゆの

石井与三郎

和泉屋惣七

和泉屋六三郎

五十川源太郎

五十川清太郎

伊豆蔵五兵衛

伊豆蔵伝蔵

市川文蔵

一融

伊東虎三郎

井筒屋新七

井筒屋伊右衛門

伊東弥助

乾市右衛門

大坂両替店元方掛名代、天明六年九月没

平野町一丁目、大坂薬種問屋

内淡路町浜、大坂薬種問屋

内淡路町浜、大坂薬種問屋

大坂両替店手代、賄方、石井彦五郎子

大坂両替店支配退役石井彦五郎後家

大坂両替店子供、一二月七日半元服

淡路町一丁目、大坂薬種問屋

道修町一丁目、大坂薬種問屋

両替商平野屋又兵衛子

京両替店名代

京都呉服問屋

大坂呉服問屋、高麗橋二丁目

大坂本店手代、天明六年二月上座役松坂北

三井家三代高路、天明六年一月宗融と改名

日向飢肥藩主伊東祐肅(のち祐鐘)

尼崎町并池北江入町井筒屋平次郎借家

京都二条、薬種仲間

京間之町店組頭、天明六年二月支配格

京両替店組頭、定次郎を改め、天明六年二月一七日支配格

井上伊織 田沼主殿家老
 井上三郎兵衛 大坂両替店元支配役より天明元年三月京兩替店に転じ、同年一二月退職、井上十五郎事
 今井与三右衛門 大和屋与三右衛門、天満組惣年寄、大坂質屋年寄
 上町旅宿
 岩田屋伝兵衛 京本店名代、天明六年一二月三日七郎兵衛と改名
 上島太郎兵衛 御為替御用達、上中之島町
 上田三郎左衛門 天明六年一〇月死去
 宇野政七郎 大坂両替店平手代、天明六年六月暇
 宇野藤五郎 大坂両替店手代
 宇野平三郎 大坂両替店出入
 卯兵衛 ↓松野安次郎
 越後屋安次郎 江戸飛脚、平野町一丁目
 江戸屋源右衛門 大坂御金奉行仮役
 江原九郎右衛門 津村東之町俵屋九兵衛借家
 近江屋忠兵衛 柘植長門守摂州吹田知行所役人
 太田官次 笠間藩牧野家関係
 太田檢校 阿波座阿波町、両替・材木屋
 大津屋九兵衛 思案橋西詰居住
 大津屋新助

大戸源内
 大屋四郎兵衛 代官
 岡 孫右衛門 忍藩阿部家の勘定奉行
 岡田喜三郎 大坂両替店支配役
 岡田金兵衛 兩國町
 岡田彦次郎 大坂両替店支配格、天明二年一二月退役、同日より雇勤
 小川八助 小野田三井家四代孝微
 御喜勢 松坂北三井家宗十郎妹、堀木勝富と離縁後、天明六年二月一六日松坂竹井東蔵に嫁ぐ
 沖村忠右衛門 大坂御金奉行付同心
 御倉 南三井家高邦女、小野田三井家四代孝微室
 奥田吉太郎 大坂本店組頭役、天明六年二月支配
 奥平富之進 豊前中津藩主奥平昌高
 奥村次右衛門 大坂本店元々役、天明六年一二月剃髮して貞山と改名
 奥村文助 天明六年一月二日奥村次右衛門と改名
 奥村忠右衛門 天明六年一月二日奥村次右衛門家督
 御式 室町三井家高亮女、天明六年一月新町三井家高雅室となる
 小田切土佐守 大坂東町奉行、小田切直年
 落合權大夫 伊勢山田の御師、三井家遠祖高安の次男元

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

御千勢
 小野儀右衛門
 小野藤次郎
 小野平五郎
 小野田宗休
 小島久兵衛
 御酉ゆづり
 御善
 か行
 加賀屋宇兵衛
 加賀屋九郎兵衛
 加賀屋次右衛門
 加賀屋四郎兵衛
 加賀屋仁兵衛

吉の養家にあたる
 松坂北三井家高豊女、長井三井家高陳室
 小野藤次郎親、過書町住所引払、大坂本店へ出勤
 大坂両替店平手代、同時に同所抱屋敷家守を兼ねる
 大坂両替店支配退役
 松坂北三井家高路女御喜勢の養父
 天明六年二月一七日大坂本店支配役退役、大坂本店出店預り
 新町三井家四代高典女、北三井家高清養女、那波九郎左衛門祐利に嫁す
 伊皿子三井家三代高登女、天明六年一月北三井家八郎右衛門高祐と離縁、同年二月一日里楚と改名

加賀屋弥三右衛門別家
 伏見町
 伏見町、心齋橋
 伏見町、唐反物問屋
 加賀屋弥三右衛門別家

加賀屋太助
 加賀屋彦作
 加賀屋美さ
 加賀屋弥一郎
 加賀屋弥三右衛門
 加賀屋与左衛門
 鍵屋孫兵衛
 鍵屋弥兵衛
 笠屋五郎兵衛
 加島屋安兵衛
 嘉助
 片桐石見守
 片山儀兵衛
 勝浦恒右衛門
 勝四郎
 勝部丈右衛門
 勝部弥十郎
 加東藤助
 加藤遠江守

加賀屋四郎兵衛手代
 伏見町の町年寄
 加賀屋弥三右衛門別家
 加賀屋弥三右衛門親
 道修町一丁目
 唐巻物反物問屋、長崎本商人、道修町一丁目
 淡路町二丁目、大坂粟種問屋
 京都三条室町、粟種仲間
 四郎兵衛町家守支配
 浜方両替
 高麗橋三丁目会所下役
 大和小泉藩主片桐安貞
 大坂本店組頭役
 大坂東町奉行小田切土佐守用人カ
 木村勝四郎、大坂両替店子供、佐々木左京次男
 西町奉行所与力、天明六年一月罷役
 西町奉行所与力
 別家、京本店元ノ家督、高麗橋一丁目小問物店、伊勢講行事
 伊予大洲藩主加藤泰候

金房孫市
井口孫兵衛弟、江戸堀二丁目・麴町抱屋敷家守

金次安太郎
御勘定組頭

金屋与右衛門
大坂南組惣年寄、金谷町

紙屋次兵衛
今橋二丁目カ

芋屋市右衛門
高麗橋三丁目町人、天明六年一月没

芋屋喜兵衛
高麗橋三丁目町人

芋屋半兵衛
高麗橋三丁目町人

河方勘兵衛
西町奉行所与力

川崎屋清兵衛
思案橋西詰大津屋新助方南隣

河内屋辰三郎
(米相場日々差し越)、今治御屋敷世話人

河内屋伝兵衛
勅修寺官御用達、白銀町

河内屋仁右衛門
平野町一丁目、大坂薬種問屋

川村伴右衛門
沼田藩土岐家家中

規矩文兵衛
天明六年二月一七日大坂本店支配役、四月一日暇、十一月一日別家中西とな方相統

規矩利平次
菱屋新田支配人

岸本安次郎
別家、大坂両替店加判名代家督

喜十郎
京両替店出入

吉兵衛
京両替店出入男

吉川監物
周防岩国藩主

木戸与左衛門
道明寺役人

儀兵衛
大坂両替店出入

木村久左衛門
町廻り同心目付

京屋宗吉
(浜方諸色関合相頼)

京極能登守
讚岐丸亀藩主京極高中

九鬼長門守
摂津三田藩主九鬼隆張

具足屋
加州藩蔵元、具足屋庄右衛門

窪田官左衛門
二条御蔵方手代

葛山亀右衛門
西町奉行所与力

久米孫次郎
京両替店↓組頭本役

栗田唯右衛門
天明六年六月沼田藩土岐家退役

栗山惣兵衛
紀州藩御勝手方

九郎右衛門
長井三井家高陳、天明七年正月二七日剃髮して宗教と号す

源右衛門
新町三井家五代高雅、高麗橋三丁目抱屋敷名前人

元之助
室町三井家五代高郷

小泉忠兵衛
大坂東町奉行所与力

小泉松次郎
大坂東町奉行所与力

幸七
大坂両替店出入

鴻池屋市兵衛
尼崎町二丁目

鴻池屋庄兵衛
浜方両替、入替方五軒両替の一

小坂源五右衛門
沼田藩土岐家家中

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

小寺武兵衛	加賀藩前田家家中
小堀様	京都代官、小堀邦直數馬、内平野町二丁目
米屋平右衛門	殿村氏、十人兩替の一人
近藤三右衛門	大坂本店組頭
さび	
斎藤奎之丞	京都代官小堀手代
酒井屋与一	高麗橋三丁目町代
酒井屋与次兵衛	酒井屋与一実子、高麗橋三丁目町代跡役
肴屋七兵衛	堺表出入肴屋
藤兵衛	(右同)
酒井与左衛門	大坂御金奉行
桜井伝右衛門	大坂城代土岐美濃守用人
佐々木左京	讃岐琴比羅宮の御師カ
定七	京両替店出入カ
佐藤惣兵衛	御為替十人組惣代、高麗橋三丁目
佐野備後守	大坂西町奉行、佐野政親
三郎助	伊皿子三井家四代高年
三十郎	松坂三井家五代高行(松坂西村宗寿子息)、
榎奥右衛門	天明六年三月二七日則右衛門と改名
榎奥次郎	二条御藏方
	二条御藏手代

自空	家原三井家初代政俊
信濃屋弥右衛門	思案橋西詰大津屋新助方南隣
島村新兵衛	忍藩阿部能登守撰州陣屋
島本三郎九郎	京都両替商人
清水藤兵衛	大坂本店名代、天明七年一月一日没
淡明院	十代將軍徳川家治、天明六年九月八日没
次郎右衛門	南三井家五代高英、御為替御用名前
新藏	大坂両替店出入
新太郎	↓前田新太郎
甚兵衛	京両替店出入
杉浦大藏	笠間藩牧野家家中
杉浦兵左衛門	西町奉行所与力
杉浦素為	笠間藩牧野家家中杉浦大藏父、大坂毛利岩
杉本仙助	見守蔵屋敷留守居役
杉本久次郎	落合權太夫手代
	大坂両替店支配役、天明六年二月一六日通
	勤支配
杉山仙右衛門	江戸本店加判名代、天明六年三月元ノ役
炭屋五郎右衛門	瓦町一丁目、大坂両替商人
炭屋善五郎	大坂両替商人
炭安	炭屋安兵衛、十人兩替の一人
酢屋久左衛門	堺材木町、菓種屋仲間

清蔵様
 関六郎右衛門
 関口大助
 宗義
 宗教
 宗恵
 宗慶
 宗三
 宗十郎
 宗巴
 宗龍
 則右衛門
 則兵衛
 外谷郷左衛門
 た行
 太真
 高池三郎兵衛

家原三井家三代政昭
 尼崎藩松平遠江守用人
 忍藩阿部能登守摂州代官
 室町三井家四代高行(長井高陳男)
 長井三井家高陳、天明七年正月二七日剃髮して宗教と号す
 松坂南三井家三代高峙、天明六年一二月六日没
 南三井家二代高博
 松坂南三井家二代高邁、明和六年七月歿
 松坂北三井家高蔭
 伊皿子三井家三代高登
 新町三井家四代高典
 松坂南三井家四代高岳、天明六年四月五日より同家五代高行に替る
 天明六年四月五日より松坂家四代高岳が名乗る
 尼崎松平遠江守用人
 紀州藩第八代藩主徳川重倫
 沼田藩・延岡藩・小倉藩名代、長州藩蔵元、

高垣藤七
 高津屋幸七
 竹井東蔵
 竹内宗硯
 竹内文次郎
 田坂直右衛門
 豊屋半右衛門
 伊達和泉守
 田所忠七(のち彦右衛門)
 田中嘉右衛門
 田中嘉七
 谷 新左衛門
 種村定右衛門
 田牧市右衛門
 玉村熊次郎
 丹波屋五郎左衛門
 千葉善次郎
 長五郎

北浜二丁目
 和歌山両替
 舟問屋、富島一丁目
 松坂店名代跡、御喜勢嫁付先医師 小野藤次郎病氣につき
 大坂両替店組頭、天明六年二月一六日支配役
 大坂西町奉行所与力
 大坂両替店向角
 伊予吉田藩主伊達村賢
 江戸本店支配退役、天明六年三月一八日後見役にて再勤、同年十月一六日彦兵衛と改、同閏十月九日彦右衛門と改名
 京本店元方掛名代
 上田三郎左衛門手代
 笠間藩牧野家家中
 笠間藩牧野家家中
 大坂本店組頭退役二代目田牧権右衛門跡
 大坂両替店子供
 京都
 平→上座
 家原三井家清蔵の在京中の名乗り

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

長次郎

南三井家四代高業、天明四年家原三井家に
入家し次郎右衛門を長次郎と改める

塚田嘉左衛門

小田切土佐守家中

津久井武兵衛

笠間藩牧野家家中

佃屋吉兵衛

戸川鉄藏・遠藤備前守用達、道空町

柘植長門守

拓植正寔、天明六年閏一〇月作事奉行から
勘定奉行へ役替

辻 友右衛門

道明寺役人

辻村忠右衛門

大坂御金奉行付同心

都筑忠兵衛

和歌山両替

津国屋十助

出入方

貞玉尼

西方寺

寺井瀬兵衛

京両替店支配役

寺尾善左衛門

大坂御金奉行仮役カ

天王寺屋利左衛門

(日々金銭相場帳付けに参る)

天満屋吉兵衛

大坂両替店出入方

藤兵衛

京両替店出入

戸川鉄藏

諱は遠邦、交代寄合表御礼衆、在所備中撫
川(五千石)

徳兵衛

大坂両替店下男頭

戸田因幡守

京都所司代、宇都宮藩主戸田忠寛

土岐老之助

沼田藩第六代藩主土岐定富 天明六年一〇

土岐美濃守

月就封
沼田藩第五代藩主土岐定経 天明六年九月

菅屋久兵衛

一〇日没

鳥井丹波守

御米江戸下し方

下野壬生藩主鳥井忠意

なる

越後村上藩主内藤信敦

内藤徳丸

大坂両替店手代

中井嘉十郎

嘉平次、大坂両替店勘定名代、天明五年一

中井敬順

一月死

永田兆十郎

西町奉行所与力

中塚徳次郎

京本店後見

中西庄右衛門

大坂本店名代

中西とな

別家、大坂両替店元メ家督

中村嘉助

糸店平頭、天明六年三月組頭内格

中村八郎左衛門

沼田藩土岐家大坂屋敷留守居役

奈良屋忠兵衛

道修町一丁目、菓種問屋

奈良屋藤兵衛

道修町一丁目、菓種問屋

成瀬九郎左衛門

西町奉行所与力、天明六年二月御役御免

成瀬正兵衛

西町奉行所与力

賛安芸守

賛正寿、堺奉行

西三省
 京都の医師、法眼
 西田新四郎
 京兩替店後見役
 布屋弥兵衛
 伏見
 野口国藏
 町廻り同心目付
 野崎新兵衛
 別家、大坂兩替店元メ家督

は行
 橋井利右衛門
 南都晒買宿
 八郎右衛門
 北三井家六代高祐
 八郎兵衛
 北三井家五代高清
 服部平右衛門
 西町奉行付与力
 林庄助
 大坂兩替店手代
 早野平右衛門
 京本店勘定名代
 原田五左衛門
 忍藩阿部家の勘定奉行
 播磨屋宇兵衛
 北野
 堂島中二丁目、一橋家御用達
 播磨屋仁兵衛
 思案橋西詰大津屋新助方南隣
 春田半十郎
 大坂御金奉行
 肥前屋七兵衛
 富島町二丁目
 日野屋代助
 道修町一丁目、菓種問屋
 平井吉兵衛
 糸店組頭、二月一六日組頭
 平田弾右衛門
 忍藩阿部能登守在坂家老

平野屋嘉十郎
 四軒町、宇都宮藩御用達
 平野屋佐兵衛
 平野町一丁目、菓種問屋
 平野屋半兵衛
 本鞆町、菓種問屋
 平野屋又兵衛
 大坂兩替商、仙台藩名代、長堀富田屋町
 広岡伊兵次
 京兩替店支配格
 深井助九郎
 京兩替店手代
 深尾音五郎
 佐々木佐京親類の子供、天明六年十一月二
 日大坂兩替店出勤
 福島台右衛門
 大坂西町奉行佐野備後守用人
 副田新助
 間之町店平頭、三月組頭内格
 福田丹藏
 別家、大坂本店元メ家督
 古森幸右衛門
 役頭↓組頭
 伏見屋太兵衛
 大坂瓦町二丁目、大坂菓種問屋
 平三郎
 ↓宇野平三郎
 細野平十郎
 島本三郎九郎手代

ま行
 前川多十郎
 天明六年二月十六日京兩替店支配退役、同
 月廿日死
 前田新太郎
 大坂兩替店手代
 牧野越中守
 常州笠間藩主、牧野貞長
 牧野平左衛門
 東町奉行所与力

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

又右衛門	伏見町町代
又兵衛	大坂両替店出入
松井官左衛門	大坂西町奉行所与力
松島太助	江戸向店元、天明六年二月一日林右衛門と改名
松平安芸守	広島藩主淺野重晟
松平阿波守	徳島藩主蜂須賀治昭
松平和泉守	三河西尾藩松平乗完
松平内藏頭	岡山藩主池田治政
松平相模守	鳥取藩主松平治道
松平薩摩守	薩摩藩主島津重豪
松平周防守	石州浜田藩主松平康福
松平大膳太夫	長州藩主毛利治親
松平出羽守	雲州松江藩主越前治卿
松平遠江守	摂津尼崎藩主松平忠告
松平土佐守	土佐藩主山内豊雍
松平主殿頭	肥前島原藩主松平忠恕
松野安次郎	京両替店組頭、二月一七日支配役
松野	別家、松野次郎兵衛、京両替店大元の家督、
松本伊豆守	京都川原町四条上ル町、質商売
丸山弥兵衛	勘定吟味役、天明六年一月一五日免職
	京両替店元、役

三浦藤左衛門	大坂御金方(御金奉行仮役力)
水谷武右衛門	上田三郎左衛門名代
水野出羽守	駿州沼津藩主水野忠友
溝口龜次郎	越後新発田藩主溝口直侯
三宅十郎右衛門	大坂西町奉行所与力
三宅四郎右衛門	大坂東町奉行所同心
三好門兵衛	別家、大坂両替店支配退役
三輪市十郎様	二条御殿番
向崎吉郎兵衛	京本店元、
村井新左衛門	別家三代目村井新十郎改
村井新三郎	村井新左衛門養子
村井新十郎	別家、本店加判名代家督四代目、高麗橋一丁目、糸見世
村田寿右衛門	忍藩阿部能登守摂州陣屋(万太夫養子)
村田権左衛門	阿部家中
村田惣右衛門	大坂御金奉行同心
村田万大夫	阿部能登守用人
村山勘助	平上座役
茂手木平兵衛	笠間藩家中
本川九十九	大坂東町奉行小田切土佐守家中力
元五郎	小石川三井家高経
森権兵衛	和歌山両替

森繁平

大坂西町奉行佐野備後守家老

や行

弥助

新田支配人

安井新十郎

西町奉行所与力

安井大助

西町奉行所与力

矢野庄次郎

大坂両替店組頭

山川太右衛門

京間之町店勘定名代、天明六年二月六日

大和屋次兵衛

伊右衛門と改名

大和屋友四郎

水谷武右衛門名跡

大和屋弥兵衛

本鞆町、大坂薬種問屋

山中半兵衛

大坂両替店後見役

由比甚右衛門

西町奉行所与力

吉田勝右衛門

西町奉行所与力

吉田喜平次

摂州呉田

吉野勝之助

大坂御金奉行付同心

ら行

利作

菱屋新田

利兵衛

出入

利平次

↓規矩利平次

わ行

若林市左衛門

御勘定組頭

若狭庄兵衛

大坂両替店書札方、天明六年二月出奔

和勢屋新兵衛

大坂両替店出入方

渡辺九藏

笠間藩牧野家家中

和勢屋仁兵衛

大坂両替店出入

渡辺庄左衛門

土岐家大坂屋敷留主居役

渡辺新三郎

元大坂本店通勤支配退役渡辺新右衛門跡

渡辺甚兵衛

(二三好又次郎)元大坂両替店より京両替店

に転じ、支配退役

人名補注参考資料(主なもの)

「日用帳」(三井文庫所蔵史料 本二五三)

「永用帳」(三井文庫所蔵史料 本一一一九)

『寛政重修諸家譜』

『大武鑑』(天明四年)

『校本難波丸綱目』

「大坂武鑑」(天明元年)

『大阪市史』

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

 附表 1 天明6年2月7日~天明6年7月28日
 大坂金・銭・米相場表

月 日	金(1兩二付)		金(昼) (1兩二付)		銭 (1貫文二付)		肥後米 (1石二付)	
	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁
2・7	55.71		55.75		9.23		58.2	
2・8	55.75		休		9.29		休	
2・9	55.71		55.70		9.27~ .28		58.5	
2・10	55.71		55.75		9.27		58.5	
2・11	55.77		55.75		9.29		58.4	
2・12	55.85		55.95		9.26~ .27		59.1	
2・13	55.93		55.88		9.27~ .28		58.8	
2・14	55.92		55.85		9.28		57.9	
2・15	55.83~ .84		55.85		9.26~ .27		休	
2・16	55.93		55.93		9.28		休	程繁二付
2・17	55.96~ .97		55.95		9.28~ .29		57.5	〃
2・18	56.02~ .03		56.10		9.24~ .25		休	
2・19	55.94~ .95		55.85		9.26		57.8	
2・20	55.95		55.90		9.27		57.2	
2・21	55.78				9.28~ .29		休	
2・22	55.69				9.28~ .29		休	
2・23	55.63~ .64		55.63~ .64		9.25~ .26		57.7	
2・24	55.63~ .64		55.65		9.28		57.8	
2・25	55.62~ .63		55.61		9.29		57.9	
2・26	55.41		55.35		9.25~ .26		57.7	
2・27	55.25~ .26				9.25~ .26		休	
2・28	54.95		54.70		9.22		休	
2・29	54.90				9.22~ .23		休	
2・晦	54.84~ 85		54.52		9.23~ .24		休	
3・1	54.90~55.00				9.18~ .20		休	
3・2	55.15~ .17				9.15~ .20		休	
3・3	(休)		(休)		休		休	
3・4	55.00~ .02		54.95		9.10~ .11		休	
3・5	54.85~ .88		54.70		9.78		59.7	
3・6	54.45~ .50		休		9.00		休	
3・7	53.55		53.30		8.95~ .97		57.0	
3・8	53.20		52.30		8.95		57.0	
3・9	50.99~51.00				8.88~ .89		57.0	
3・10	53.70		53.00		9.03~ .04		57.5	
3・11	53.30				8.80		57.2	

	金(1兩二付)	金(昼) (1兩二付)	錢 (1貫文二付)	肥後米 (1石二付)
	匁 匁	匁 匁	匁 匁	匁
3・12	51.50~52.00	52.00	8.92~.93	57.5
3・13	52.80~53.00	52.08	8.97~.98	57.3
3・14	52.70	52.70	8.93~.94	58.0
3・15	53.05~.10	53.05~.10	8.97~.98	58.2
3・16	52.90~53.00	53.01~.02	8.94~.95	休
3・17	53.10~.20	53.10~.20	8.96	58.5
3・18	53.40~.50	53.40	8.94~.95	59.2
3・19	53.40	53.70	8.97~.98	58.1
3・20	53.10	53.10	9.02	58.1
3・21	53.30	53.20	9.01	休
3・22	53.25	53.20	8.95	58.2
3・23	53.80~.90	53.70	9.02~.03	58.1
3・24	53.85	53.70	9.02~.03	57.9
3・25	53.65	53.65	8.98~.99	58.2
3・26	53.50	53.20	9.00	58.7
3・27	52.80~.90	52.50	9.00	58.2
3・28	52.30~.50	52.70	8.98~.99	58.1
3・29	53.30	53.30	9.00	57.9
4・1	53.00~.10	52.80~.90	8.95~.96	58.1
4・2	52.75~.80	52.80~.90	8.94~.95	58.2
4・3	53.10	53.20	8.94~.95	58.4
4・4	53.10~.20	53.20~.30	8.94~.95	59.0
4・5	53.60~.70	54.00	8.94~.95	58.2
4・6	53.90~54.00	休	8.94~.95	58.9
4・7	54.10~.20	54.10~.20	8.98~.99	58.7
4・8	54.10~.20	54.00	9.00	休
4・9	53.94		8.98~.99	58.6
4・10	53.80~.90		8.97~.98	
4・11	53.95~54.00		8.96~.97	58.1
4・12	54.20	54.20	8.97~.98	57.8
4・13	54.10~.20	54.10~.20	9.00~.01	57.8
4・14	54.15~.20	54.15~.20	8.98~.99	57.9
4・15	54.20	54.20	8.98~.99	57.6
4・16	54.40	54.40	8.96~.97	休
4・17	54.40~.50	54.45	9.00~.01	休
4・18	54.40	54.40	9.01~.02	57.8

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

	金(1兩二付)	金(晝) (1兩二付)	錢 (1貫文二付)	肥後米 (1石二付)
4・19	54.05	54.10	9.01~.02	58.0
4・20	54.20	54.30	9.00	57.4
4・21	54.35	54.40	9.00	57.4
4・22	54.25~.30	54.25~.30	9.01~.02	57.4
4・23	54.05~.10	54.30	9.01~.02	57.6
4・24	54.12	54.10	9.02~.03	57.3
4・25	54.04~.10	54.04~.10	9.00	56.4
4・26	54.15	54.25	8.98~.99	57.1
4・27	54.20~.25	54.20	9.01~.02	57.1
4・28	54.10~.15		9.00~.01	57.1
4・29	54.15~.20		9.00~.01	休 節句前休
4・晦	54.00~.10	54.10	9.01~.02	休 "
5・1	54.05~.10	54.05~.10	9.04~.05	休
5・2	53.89~.90		9.07~.08	休
5・3	53.89~.90	53.90	9.05~.08	休
5・4	54.00~.05	54.05~.10	8.95~9.00	休
5・5	休	休	休	休
5・6	54.10	休	8.90	休 (以下筑前米)
5・7	54.10~.20	54.05~.10	8.86~.87	52.5
5・8	54.10~.15	54.05	8.87~.88	52.4
5・9	53.85~.90	53.85~.90	8.87~.88	52.8
5・10	53.95~54.00	53.95~54.00	8.88~.89	52.7
5・11	53.95~54.00	53.95~54.00	8.87~.88	52.7
5・12	53.99~54.00	53.99~54.00	8.85~.86	52.5
5・13	53.85	53.90~.93	8.80~.85	52.6
5・14	53.85~.88	53.90	8.81~.82	52.7
5・15	53.90~.92	53.98	8.83~.84	52.7
5・16	53.99~54.00	53.90	8.83	休
5・17	53.98~.99	54.00	8.82~.83	休
5・18	53.95~54.00	53.95~54.00	8.83~.84	52.0
5・19	53.95	53.95	8.80~.81	52.1
5・20	53.99~54.00	53.99~54.00	8.79~.80	52.1
5・21	54.10~.15	54.10~.15	8.77~.78	52.4
5・22	54.10~.15	54.10~.20	8.77~.78	52.5
5・23	54.20~.35	54.13	8.78~.79	52.5
5・24	54.20~.35	54.22	8.78~.79	52.2

	金(1兩二付)	金(昼) (1兩二付)	錢 (1貫文二付)	筑前米 (1石二付)
	匁 匁	匁 匁	匁 匁	匁
5・25	54.25	54.25	8.81~.82	52.0
5・26	54.22~.23	54.22~.23	8.79~.80	52.0
5・27	54.18~.19	54.25	8.75	52.0
5・28	54.21	54.24~.25	8.76	休
5・29	54.25	54.25	8.78	51.8
6・1	54.25	54.25	8.79	休
6・2	54.23	54.24~.25	8.81	51.8
6・3	54.25~.26	54.25	8.80	51.8
6・4	54.23~.24	54.24~.25	8.79~.80	51.8
6・5	54.26	54.23	8.76~.77	52.0
6・6	54.27~.28		8.76~.77	51.8
6・7	54.26~.27	休	8.77~.78	休
6・8	54.28	54.35	8.77~.78	52.6
6・9	54.33~.34	54.33~.34	8.77~.78	52.4
6・10	54.35~.36	54.35~.36	8.81	52.5
6・11	54.36	54.36	8.79~.80	53.1
6・12	54.41~.42	54.41~.42	8.81~.82	53.3
6・13	54.46~.47	54.51~.52	8.85~.86	54.0
6・14	54.45~.48	54.45~.48	8.84	53.5
6・15	54.49~.50	54.48	8.82~.83	53.5
6・16	54.40~.42	54.40~.42	8.83~.84	休
6・17	54.47~.48	休	8.82~.83	休
6・18	54.38~.40	54.22~.23	8.82~.83	53.5
6・19	54.50~.52	54.54~.55	8.82	53.7
6・20	54.50	54.42~.43	8.81~.82	53.5
6・21	54.38~.40	休	8.78~.79	53.8
6・22	休	休	休	休
6・23	54.24~.25	54.24~.25	8.81~.82	54.7
6・24	54.30~.32	休	8.82~.83	休
6・25	休	休	休	休
6・26	⁽⁷⁷⁾ 58.40		8.83~.84	55.3
6・27	54.34	54.34	8.84~.85	55.8
6・28	54.35~.36	54.35~.36	8.84~.85	55.9
6・29	54.40~.42		8.86~.87	休
7・1	54.52		8.86	57.0
7・2	54.55~.57	54.48	8.85~.86	57.5~58.0

天神祭二付

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

	金(1兩二付)	金(昼) (1兩二付)	錢 (1貫文二付)	筑前米 (1石二付)
7・3	54.53 <small>匁</small> ~ .55 <small>匁</small>	54.53 <small>匁</small> ~ .55 <small>匁</small>	8.84 <small>匁</small> ~ .85 <small>匁</small>	57.2 <small>匁</small>
7・4	54.65~ .70	54.53	8.87~ .88	56.7
7・5	54.58	54.63	8.89	57.2
7・6	54.75	休	8.89	58.1
7・7	54.85	55.50	8.91	休
7・8	55.10~ .15	55.40~ .50	8.88~ .89	休
7・9	56.50~ .60	57.10	8.89~ .90	休
7・10	56.30~ .50	56.30~ .50	8.94~ .95	休
7・11	56.20~ .40	56.20	8.97	休
7・12	55.80~ .90	56.10~ .20	8.96~ .97	休
7・13	55.95~56.00	56.10	8.93~ .95	休
7・14	56.30~ .40	56.40	8.93~ .95	休
7・15	休	休	休	休
7・16	休	休	休	休
7・17	56.00~ .10		8.75~ .76	56.8
7・18	56.20~ .25	56.20~ .25	8.78	58.5
7・19	56.05~ .10	56.05~ .10	8.78~ .79	休 庚申二付
7・20	56.10~ .20	56.10~ .20	8.78~ .79	休
7・21	56.05	56.05	8.78	51.1
7・22	56.05~ .10	56.05~ .10	8.76~ .77	50.1
7・23	56.05~ .10	56.05	8.80~ .81	59.7
7・24	56.15~ .20	56.15~ .20	8.81~ .82	休
7・25	56.45	56.40~ .50	8.86	53.9 <small>(▽)</small>
7・26	56.30	56.25	8.90	63.5
7・27	56.10~ .15	56.15~ .17	8.86~ .87	66.1
7・28	56.05~ .10		8.85~ .86	

出所)「大坂店勤番日記」(三井文庫所蔵史料 別 1571, 別 1572)。

附表 2 天明 6 年 11 月 1 日～天明 7 年 2 月 6 日
大坂金・錢・為替打銀・米相場表

月 日	金(1兩二付)		金(星) (1兩二付)		為替打銀	錢 (1貫文二付)		肥後米 (1石二付)
	匁	匁	匁	匁		匁	匁	
11・1	50.20	～ .30	50.30	～ .40	打100～120位	8.99		87.2
11・2	50.40	～ .50	50.60	～ .70	打 90～110 "	8.91		88.2
11・3	51.30	～ .50	51.30		打 90～110 "	8.95	～ .96	90.6
11・4	51.20	～ .30	51.30	～ .40	打100～120 "	8.91	～ .92	89.5
11・5	51.10	～ .30	51.80	～51.00	打 90～110 "	8.89	～ .90	89.0
11・6	50.90	～51.00	50.90	～51.00	打 90～110 "	8.89	～ .90	88.5
11・7	51.00	～ .10	51.80	～ .90	打 90～110 "	8.90	～ .91	87.8
11・8	50.70	～ .80	50.70	～ .80	打 90～110 "	8.92	～ .93	休
11・9	51.00	～ .05	51.80	～ 90	打 80～100 "	8.92	～ .93	88.2
11・10	51.10	～ .25	51.10	～ .25	打 80～100 "	8.93	～ .94	87.5
11・11	51.15	～ .20	51.10		打 70～ 90 "	8.93	～ .94	87.2
11・12	51.10	～ .20	51.05	～ .10	打 60～ 80 "	8.96	～ .97	86.6
11・13	51.10	～ .20	51.10	～ .20	打 30～ 50 "	8.93	～ .94	86.4
11・14	51.10	～ .20	51.30	～ .40	打 30～ 50 "	8.89	～ .90	85.8
11・15	51.50	～ .60	51.40	～ .50	打 25～ 45 "	8.93	～ .94	85.8
11・16	51.30	～ .40	51.30	～ .40	打 20～ 40 "	8.93	～ .94	休
11・17	50.90	～51.00	50.60	～ .70	打 90～110 "	8.89	～ .90	86.0
11・18	50.70	～ .90	50.70	～ .90	打100～120 "	8.91	～ .92	86.2
11・19	50.60	～ .80	50.30	～ .50	打 90～100 "	8.90		87.5
11・20	50.90	～51.00	50.90	～51.00	打100～120 "	8.93	～ .94	休
11・21	51.10		51.30	～ .50	打100～120 "	8.97		86.0
11・22	51.70	～ .80	51.50	～ .70	打 60～ 80 "	8.93	～ .94	87.0
11・23	51.00	～ .05	51.10	～ .20	打 40～ 60 "	8.92	～ .93	87.2
11・24	51.25		50.70	～ .80	打 60～ 80 "	8.93	～ .94	休
11・25	51.50		51.30	～ .50	打 60～ 80 "	8.95		88.0
11・26	51.50	～ .60	51.50	～ .60	打 50～ 70 "	8.95	～ .97	88.4
11・27	51.55		51.65		打 60～ 80 "	8.96	～ .97	休
11・28	52.00	～ .20	51.90	～52.00	打 60～ 80 "	9.00	～ .03	88.1
11・29	52.10	～ .20	52.50	～ .70	打 50～ 70 "	8.98	～9.00	89.2
12・1	53.20		53.50	～ .80	打 50～ 70 "	9.03		休
12・2	53.50	～ .70	54.50		打 30～ 50 "	9.02	～ .03	91.0
12・3	53.10	～ .20	53.10	～ .20	打 30～ 50 "	9.07	～ .08	91.4
12・4	53.20	～ .40	53.20	～ .40	打 30～ 50 "	9.09	～ .10	91.1
12・5	53.40	～ .60	53.80	～54.00	打 30～ 50 "	9.07	～ .08	91.0
12・6	53.80	～54.00	53.80	～54.00	打 20～ 40 "	9.10	～ .11	90.9

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

	金(1兩二付)	金(昼) (1兩二付)	為替打銀	錢 (1貫文二付)	肥後米 (1石二付)
	匁 匁	匁 匁	匁 匁	匁 匁	匁
12・7	54.10~ .20	54.30~ .40	打 10~ 30位	9.12	91.0
12・8	54.40~ .06	53.90~54.00	打 10~ 20	9.17~ .18	91.6
12・9	54.10~ .20	54.20~ .30	打 10~ 20	9.25~ .27	92.2
12・10	54.50~ .60	54.40~ .50	打 10~ 30	9.29~ .30	94.1
12・11	55.00	55.80~ .90	打 10~ 30	9.43	94.0
12・12	56.80~57.30	57.30~ .50	打 20~ 40	9.50~ .60	93.9
12・13	57.30	56.80	打 10~ 20	9.65~ .70	休
12・14	56.10~ .30	55.90~56.00	無打 ~ 10	9.55	96.1
12・15	55.20~ .50	54.40~ .60	打 5~ 15	9.45~ .50	96.9
12・16	55.40~ .60	55.30~ .50	打 5~ 15	9.50~ .60	99.7
12・17	55.50~ .80	55.80~56.00	打 5~ 20	9.50~ .60	休
12・18	56.70~57.00	56.40~ .60	打 10~ 30	9.75~ .80	99.4
12・19	56.50~ .70	56.50~ .70	打 10~ 30	9.75	100.0
12・20	55.90~56.10		無打 ~ 10	9.60~ .70	100.0
12・21	56.20	56.20	無打 ~ 10	9.65	休
12・22	56.10	55.60~ .80	無打 ~ 10	9.61	100.5
12・23	55.00~ .10	55.10~ .30	無打 ~ 10	9.58~ .60	101.0
12・24	55.30~ .40	55.50~ .80	無打 ~ 10	9.58~ .60	101.4
12・25	55.60~ .80	56.00~ .20	無打 ~ 10	9.60~ .70	年内休
12・26	57.30~ .50	57.50~58.00	無打 ~ 10	9.80~ .85	年内休
12・27	56.80~57.00	57.20~ .40	打 10~ 20位	9.75~ .80	年内休
12・28	57.00~ .20	57.40~ .60	打 10~ 20位	9.80~ .85	年内休
12・29	57.00~ .20	57.10~ .20	打 20~ 30位	9.80~ .85	年内休
12・晦	57.00~ .20	57.00~ .20	打 15~ 25位	9.80~ .85	年内休
1・1	休	休	休	休	休
1・2	休	休	休	休	休
1・3	休	休	休	休	休
1・4	57.70~ .90	57.80	二朱打30~50	9.55~ .58	106.2
1・5	57.50~ .70	57.20~ .30	二朱打30~40	9.65	106.6
1・6	56.90~57.00	休	二朱打30~40	9.55~ .57	休
1・7	56.90	56.40~ .50	二朱打30~40	9.53	休
1・8	56.40~ .50	56.60~ .70	二朱打15~25	9.43	107.5
1・9	56.60~ .70	56.60~ .70	二朱打20~30	9.43	108.7
1・10	休	休	休	休	休
1・11	56.70~ .80	56.60~ .70	二朱打20~30	9.50~ .55	休
1・12	56.50~ .60		二朱打29~30	9.56~ .57	107.6

	金(1兩二付)	金(昼) (1兩二付)	為替打銀	錢 (1貫文二付)	肥後米 (1石二付)
	匁 匁	匁 匁	匁 匁	匁 匁	匁
1・13	56.40～.50	56.30～.40	二朱打20～30位	9.58～.60	109.9
1・14	56.40～.50	56.20～.30	二朱打15～25〃	9.63～.64	休
1・15	休	休	休	休	休
1・16	休	休	休	休	休
1・17	56.45	56.20～.30	二朱打20～30〃	9.61～.62	110.2
1・18	56.40～.50	56.20	二朱打15～25〃	9.52	112.6
1・19	56.10～.20	56.20	二朱打15～25〃	9.49～.50	115.0
1・20	55.90～56.00	55.60～.70	二朱打15～25〃	9.43～.44	休
1・21	55.50～.60	55.20～.30	二朱打15～25〃	9.45～.47	113.8
1・22	55.30～.40	55.20～.30	二朱打15～25〃	9.45～.46	112.7
1・23	55.10～.20	55.00～.10	二朱打15～25〃	9.40～.41	111.6
1・24	55.10～.20	55.00～.10	二朱打15～25〃	9.38～.39	109.7
1・25	55.00～.10	54.70～.80	二朱打15～25〃	9.32	休
1・26	54.95～55.00	54.70～.80	二朱打15～25〃	9.25～.26	109.1
1・27	54.70～.80	54.40～.50	二朱打15～25〃	9.15～.18	112.0
1・28	54.20～.30	54.00～.05	二朱打15～25〃	9.00～.05	休
1・29	54.00～.10	53.90～54.00	二朱打15～25〃	8.93～.95	114.0
1・晦	54.10～.20	54.10	二朱打15～25〃	8.95～.97	114.4
2・1	54.40～.50	54.00～.10	二朱打15～25〃	9.13～.15	休
2・2	54.50～.60	54.00～.10	二朱打15～25〃	9.20～.21	115.3
2・3	54.20～.30	54.20～.30	二朱打20～30〃	9.08～.10	114.5
2・4	54.20～.30	54.20～.30	二朱打20～30〃	9.04～.05	112.5
2・5	54.40～.45	54.30～.40	二朱打35～45〃	9.04～.05	114.4
2・6	54.40～.50	休	二朱打30～40〃	8.97～.98	114.0

出所)「大坂店勤番日記」(三井文庫所蔵史料 別 1572)。

凡例

本資料は『三井文庫論叢』第二一〇・二一〇二号に掲載された史料紹介をまとめたものです。

史料解題の執筆は樋口知子。

三井文庫史料叢書

深井孫七郎「大坂店勤番日記」

その一〇その二

(天明六・七年の大坂両替店)

二〇二三年発行

編集発行

公益財団法人 三井文庫

郵便番号 一六四・〇〇〇二

東京都中野区上高田五・一六・一

電話 〇三・三三三八七・九四三二

<http://www.mitsui-bunko.or.jp>

©Mitsui Bunko 2023. Printed Japan